

私大図協・東・研・2024-8

2024年4月5日

私立大学図書館協会
東地区部会
加盟大学図書館 御中

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
専修大学図書館
館長 廣瀬 玲子
[公印省略]

2024年度東地区部会研修会のご案内（通知）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年度に引き続き今年度も全 8 コースで実施することとなりましたので、下記の通りご案内いたします。

つきましては、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

なお、詳細につきましては私立大学図書館協会東地区部会のホームページ (<https://www.jaspul.org/east/collegium/index.html>) に掲載しておりますので、ご参照ください。

敬具

記

1. 受講期間 2024年5月から12月の期間
2. 募集定員 先着12名～25名（コースにより異なる）
3. 受講条件 （1）私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する者
（2）所属機関長の承認を受けていること
4. 申込方法 参加申込フォームよりお申し込みください
<https://forms.office.com/r/XvyeEE7eZ8>
5. 締め切り 2024年4月19日（金）
6. 問合せ先 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校
専修大学図書館（担当：飯泉、野村）
Tel 03-3265-8339
E-mail eastlib@acc.senshu-u.ac.jp

以上

2024年度 私立大学図書館協会東地区部会 研修会実施要項

1. 研修の目的

近年、大学図書館では人事異動や業務委託の導入等により、図書館業務に携わる人員の流動性が非常に高まり、変化の著しい業務知識や経験・ノウハウ等の継承が困難な状況に直面しております。これまで、私立大学図書館協会東地区部会では、研究分科会や研修分科会といった単年度から複数年に渡る研修体制を用意し、サポートしてきましたが、研究分科会活動の低迷といった状態が続いておりました。このような状況を踏まえ、一昨年度より私立大学図書館協会東地区部会では、各図書館の抱えているこれらの課題を軽減すべく、これまで実施してきた研究分科会と研修分科会の体制に代わる新たな研修体制を準備し、各大学図書館での学習支援体制向上のサポートを開始しております。

2. 主催、運営管理

私立大学図書館協会東地区部会

3. 実施、運営

特定非営利活動法人 大学図書館支援機構
富士通 Japan 株式会社

4. 受講コース（詳細の内容については各案内をご参照ください）

（1） 初任者研修

主に図書館勤務初年次職員を中心に大学図書館における様々な業務や問題のについて知る場として、また、初任者同士の横のつながりを創出する場としていきます。

（2） P B（Problem Based）研修

初任者研修に続く研修として、参加者が持っている業務に関する問題・課題意識を参加者同士で共有し、コーディネーターやファシリテーターと共に解決方法から学び、習得し、実践を通して解決・改善する場としていきます。

（3） スキルアップ研修

初任者研修に続く研修として、図書館業務個別の問題・課題に対し、発展的に学び知見とノウハウを深めていきます。更に、主体的に解決していくと共に効果的に成果を公開していくための能力を身につける場としていきます。

5. 受講方法

オンラインでの研修がほとんどですが、一部のコースは対面で実施します。詳細は各コース案内をご参照ください。

6. 受講期間

2024年5月～12月の期間

※スキルアップ研修は講師と参加者間の調整により期間や実施の回数等は変更します。

※2024年12月13日（金）に研修報告大会を実施します。受講者は参加をご予定ください。

7. 募集定員

コース	定員(先着順)	最少催行人数
初任者研修	25名	5名
P B (Problem Based) 研修	25名	5名
スキルアップ研修 (和漢古典籍コース)	25名	5名
スキルアップ研修 (電子リソースコース)	25名	5名
スキルアップ研修 (機関リポジトリコース)	25名	5名
スキルアップ研修 (レファレンスコース)	25名	5名
スキルアップ研修 (利用者教育コース)	12名	5名
スキルアップ研修 (データ分析・活用コース)	20名	10名

※双方向型研修のため人数制限があります。

※利用者教育コースについては募集定員が少ないため、定員を超える場合、1大学1名とさせていただきます。同じ大学で2名以上が申し込む場合、申込フォームの氏名欄に優先順位を追記してください。

8. 受講条件

私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する方を対象とします。

※専任・非専任は問いません。ただし、所属機関長の承認・了解が必要です。

9. 受講料

無料

10. 申込方法

参加申込フォームよりお申し込みください

<https://forms.office.com/r/XvyeEE7eZ8>

※お申し込みの際は、所属機関長の承認・了解を得てください。

申込期限 2024年4月19日(金)

11. 受講者の決定

受講者の決定については5月中旬までに各所属機関長と受講者に通知します。

12. 問合せ先

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校

専修大学図書館 (担当: 飯泉、野村)

Tel 03-3265-8339

E-mail eastlib@acc.senshu-u.ac.jp

13. 注意事項

- (1) 申し込み後に参加できない事情が生じた場合は、速やかに研究部担当理事校までご連絡ください。
- (2) 研修内でのディスカッションやアンケートの内容および研修報告大会で使用するスライド等は、私立大学図書館協会会報、東地区部会研究部が作成する報告書、広報資料、ホームページ等に使用される場合がありますのでご了承ください。
- (3) ご提供いただいた個人情報は、当研修の実施に関する連絡等に利用します。取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません。(但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。)

以上



2024年度

研修受講者募集

研修コース

研修期間：2024年5月～2024年12月



初任者研修

基本的な知識を習得し、
他大学の図書館員と共に成長！



PB(Problem Based) 研修

より良いサービスを目指して
アイデアを出し合う！“課題解決型研修”



スキルアップ研修

6つの
コースから
選べる！

- ・和漢古典籍 コース
- ・電子リソース コース
- ・機関リポジトリ コース
- ・レファレンス コース
- ・利用者教育 コース
- ・データ分析・活用 コース

12月に
研修報告大会を
開催！



参加希望者はQRコードまたは以下のURLよりお申し込みください。



申込期限：2024年4月19日(金)

<https://forms.office.com/r/XvyeEE7eZ8>

お問い合わせ先：私立大学図書館協会東地区部会 研究部担当理事校 専修大学図書館
Email: eastlib@acc.senshu-u.ac.jp

参加
無料

2024 年度研修コース案内

1. 概要

研修コース名	初任者研修
期間（回数）	全 5 回
曜日・時間	第 1,2,4 回 主に金曜日・13 時半～16 時（途中休憩あり） 第 3,5 回 平日午後（未定） 【第 1 回】6 月（調整中）【第 2 回】7 月 12 日（金）、【第 3 回】8 月下旬（未定） 【第 4 回】10 月 11 日（金） 【第 5 回】11 月 5～7 日のいずれか 1 日
募集定員	25 名（最少催行人数 5 名）
担当者	岡田 智佳子（大学図書館支援機構 武蔵野大学非常勤講師）、外部講師

2. 詳細

目的	この研修では、専任の大学図書館職員に求められるマネジメント力と、知識を自ら探求し、現状を多角的に分析、評価して業務を遂行する能力を身につけることを目標とします。
内容	大学図書館の職員としての基礎的な知識の習得と大学図書館の現状についての理解を深めます。 また、他大学の図書館員との交流、図書館見学、図書館総合展参加を通して、大学図書館界全体への関心を高め、パフォーマンス向上に必要な幅広い視野を養います。 【第 1 回】初任者研修ガイダンス・講演「大学図書館の現状と課題」 【第 2 回】「情報資源と組織化」に関する講義と演習 【第 3 回】図書館見学ツアー（集合研修） 【第 4 回】「図書館サービス」に関する講義と演習 【第 5 回】図書館総合展参加（集合研修）
実施形態	オンライン形式または集合形式
研修報告大会	12 月 13 日（金）午後開催（登壇者を研修内で募ります）

3. 受講条件

資格・経験等	大学図書館業務初任者
環境等	第 1, 2, 4 回のオンライン研修は Zoom ミーティングを行うインターネット環境 第 3 回の会場は東京近郊、第 5 回の会場はパシフィコ横浜を予定

以 上

2024 年度研修コース案内

1. 概要

研修コース名	PB (Problem Based) 研修
期間 (回数)	全 6 回。例会以外に自主ミーティングを行うことも可能です。
曜日・時間	金曜 13:30~15:30 講演がある回は 13:00~16:00 (途中休憩含む) 【第 1 回】 5 月 【第 2 回】 6 月 【第 3 回】 7 月 【第 4 回】 8・9 月頃 【第 5 回】 10 月 【第 6 回】 11 月
募集定員	25 名 (最少催行人数 5 名)
担当者	高野 真理子 (大学図書館支援機構), 外部講師 (1~2 回)

2. 詳細

目的	各大学図書館で抱える問題や、より良いサービスに向けた課題を参加者 (受講者) 間で共有し、参考になる知見を集め、解決に向けたアイデアを出し合う機会を提供する課題解決型 (Problem Based) の研修です。国大図協シンポジウム「オープンサイエンス時代の大学図書館員像」2023.12.12 の講演「海外で求められる大学図書館員像の実際」の中で、採用基準に“課題解決能力”があがっているという分析がありました。日本においても DX 時代に求められる大学図書館員の資質として、課題の解決に向けた対応力を養うことが重要になるだろうと思われます。個人のスキルアップと併せて、他大学と情報を共有し、課題解決を通して図書館員同士の連携を深めることを目的とします。
内容	2024 年度は課題として「資料管理」を取り上げます。 資料の利用 vs 保存は図書館の永遠の課題であり、喫緊の課題でもあります。書架の狭隘化、電子資料への移行と冊子体資料の保管・廃棄問題、資料廃棄の選定基準、スペースの有効活用や収蔵方法の工夫、デポジットライブラリの可能性、温暖化や災害によるカビの発生と資料保存、等々さまざまなアプローチからこの課題に迫っていきましょう。 また、論理的な課題解決に必要な状況分析のスキルを身につけます。今年度は専門家による Excel を用いた利用統計分析活用の講義と実習、有識者から実際の事例経験をご講演いただくことも計画します。
実施形態	オンライン形式
研修報告大会	12 月 13 日 (金) 午後に開催 (登壇者を研修内で募ります)

3. 受講条件

資格・経験等	上記内容に興味・関心がある方、経験は問いません。図書館経営の側面もありますので、管理職の方の参加も歓迎します。
環境等	Zoom によるオンラインミーティングが可能な環境

2024 年度研修コース案内

1. 概要

研修コース名	スキルアップ研修（和漢古典籍コース）
期間（回数）	全 8 回
曜日・時間	前半（オンライン） 週 1 回 火曜 90 分程度 【第 1 回】～【第 4 回】 9 月 10 日、17 日、24 日、10 月 1 日 後半（対面式） 週 1 回 火曜 13:15-16:45 【第 5 回】～【第 8 回】 10 月 8 日、15 日、22 日、30 日
募集定員	25 名（最少催行人数 5 名）
担当者	小此木 敏明（立正大学古書資料館専門員・大学図書館支援機構）

2. 詳細

目的	<p>日本や中国で刊行された古典籍資料を所蔵している大学図書館は多いと思います。図書館員として、それらの資料に関わる機会も出てくるでしょう。しかし、古典籍資料の扱いには専門知識が必要となります。特に、書誌学的知識なくしては、その書誌を作成することはできません。たとえば、書名をどこから取るか、刊記の情報を出版年として採用してよいか、刊記がない場合の出版年をどのように推定するか、印記の読解方法など、個人で学習するには難しい問題が数多くあります。</p> <p>本講習では、書誌学的知識を学ぶことで、古典籍資料の扱い方や書誌作成の能力を身につけることを目標とします。</p>
内容	<p>前半</p> <p>第 1 回 和漢古書（版本／写本）の見方、各種名称について</p> <p>第 2 回 書名、編著者、巻冊次、書型</p> <p>第 3 回 刊記、奥付、書目、広告</p> <p>第 4 回 表紙、蔵書印、その他</p> <p>後半</p> <p>第 5～8 回 工具書などの案内、調書作成の実習、書誌の作成</p>
実施形態	前半：オンライン形式 後半：対面式
研修報告大会	12 月 13 日（金）午後に開催（登壇者を研修内で募ります）

3. 受講条件

資格・経験等	和漢古典籍に関心がある人。資格・経験は問いません。
環境等	前半のオンライン研修は Zoom ミーティングを行うインターネット環境が必要です。 後半（対面式）の会場は立正大学古書資料館。

2024 年度研修コース案内

1. 概要

研修コース名	スキルアップ研修（電子リソースコース）
期間（回数）	全6回 月1回
曜日・時間	オンライン形式・午後2時間程度 第1回：5月28日（火）14時00分～16時00分 第2回：6月25日（火）14時00分～16時00分 第3回：7月30日（火）14時00分～16時00分 第4回：8月27日（火）14時00分～16時00分 第5回：9月24日（火）14時00分～16時00分 第6回：10月29日（火）14時00分～16時00分
募集定員	25名（最少催行人数5名）
担当者	吉野 知義（神田外語大学・大学図書館支援機構）

2. 詳細

目的	大学図書館で提供する資料の大きな部分を占めるようになった電子リソースについて、種類や成り立ち、紙の資料とは異なる技術的な側面、利用促進や効率的な管理方法、価格高騰への対策などを全体的に理解し、各図書館での導入や運用に役立てるようになることを目的とします。
内容	<p>データベース、電子ジャーナル、電子書籍といった電子リソースに特有の資料管理、コレクション形成、契約管理、技術的課題などについて、それらの成り立ちとともに解説していきます。また、受講者相互の意見・情報交換を通して、様々な状況の理解・共有から学内での運用や利用促進の展望を考えていただける時間を用意します。</p> <p>なお、進行に応じて、簡単な課題を出す場合があります。</p> <p><u>第1回：電子リソースの種類と成り立ち</u></p> <ul style="list-style-type: none">・電子リソースの成り立ち・他の図書館資料との違いと関係性 <p><u>第2回：電子リソースの流通とビジネス</u></p> <ul style="list-style-type: none">・学術情報流通の中での電子リソース・Open Access 化の経緯と今後・電子書籍と出版ビジネス <p><u>第3回：電子リソースに関わる技術</u></p> <ul style="list-style-type: none">・電子リソース利用環境の基礎技術・アクセスするための技術（認証など）・資料や個人を特定する技術

	<p><u>第4回：電子リソースの管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約の種類と形態について ・利用統計（COUNTER など）の理解と活用 ・ERMS（電子リソース管理システム）の展開 <p><u>第5回：電子リソースの課題と活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内での利用促進について ・価格高騰への対応について <p><u>第6回：電子リソースの運用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子リソース運用に必要なスキル ・情報収集の重要性について ・全体の振り返り
実施形態	オンライン形式
研修報告大会	12月13日（金）午後で開催（登壇者を研修内で募ります）

3. 受講条件

資格・経験等	<ul style="list-style-type: none"> ・電子リソースについて基礎から学びたい方 ・電子リソースの仕組みや活用を理解したい方 ・資格・担当業務、業務経験は問いません
環境等	Zoom等のオンラインミーティングツールが使用できる環境。

以上

2024 年度研修コース案内

1. 概要

研修コース名	スキルアップ研修（機関リポジトリコース）
期間（回数）	全4回
曜日・時間	平日、各回2時間程度（予定） 【第1回】6月6日、【第2回】7月木曜日午後、【第3回】9月木曜日午後、 【第4回】10月木曜日午後 ※2回目以降は回毎に調整
募集定員	25名（最少催行人数5名）
担当者	阿部潤也（東京歯科大学・大学図書館支援機構）

2. 詳細

到達目標	本コースは、すでに図書館業務として当たり前になっている「機関リポジトリ」に関する知識の習得を目標としています。業務を円滑あるいは発展的に遂行するには「機関リポジトリ」を軸とした周辺情報を理解し、最新情報を常にキャッチアップしていく必要があります。講師、受講者同士の情報交換も行います。機関リポジトリ業務はもちろん、学術情報流通に貢献できる人材になることを目指していきましょう。
各回内容	機関リポジトリおよびその周辺情報について説明します。また、受講者所属大学の機関リポジトリの紹介、ディスカッションを行う時間も設けたいと思います。 【第1回】学術情報流通とオープンアクセス 学術雑誌、オープンアクセス、APC 【第2回】機関リポジトリ概論 目的、システム、運用・管理 【第3回】著作権 注意点、クリエイティブ・コモンズ 【第4回】コンテンツ収集・管理・利用 実務、事例
実施形態	オンライン（予定）
研修報告大会	12月13日（金）午後開催（登壇者を研修内で募ります）

3. 受講条件

資格・経験等	機関リポジトリおよび周辺情報に関心がある方。
環境等	Zoom オンラインでの開催を予定していますが、参加者の勤務地によってはオフラインでの開催回も検討します。

以上

2024 年度研修コース案内

1. 概要

研修コース名	スキルアップ研修（レファレンスコース）
期間（回数）	全5回
曜日・時間	金曜 13:30～16:30（途中休憩含む） 【第1回】6月、【第2回】7月、【第3回】8・9月頃、【第4回】10月、【第5回】11月
募集定員	25名（最少催行人数5名）
担当者	高野 真理子（大学図書館支援機構）、外部講師（1～2回）

2. 詳細

目的	この研修プログラムでは、レファレンス業務に必要なツールの基礎知識と、利用者のニーズを的確に把握する技術の習得を目的とします。また、情報検索やオンラインレファレンス等の最近のツールの共同調査を行うことを通して、利用者により質の高いサービス提供をめざすレファレンス担当者間のコミュニケーションの場を提供します。
内容	レファレンスでは、多様な情報を引き出すためのツールを知る必要があります。毎回数件ずつ参考図書と情報検索で用いるデータベースの紹介を行い、その特徴を知って使いこなせるようにしましょう。最初は一般的なツールから始め、この講座の参加者ごとの専門分野を深掘りしていきます。 また、各回は下記のトピックを取り上げる予定です。 1. レファレンスは、「利用者」と求める「情報」を繋げる業務ですので、最初に学術情報流通と利用者のニーズを整理します。そして、「利用者」と「情報」を繋げる機能の変化、情報の信頼性と速報性や将来像についてディスカッションします。 2. データベースを用いた情報検索の基礎技術を専門家から伝授してもらいます。 3. 利用者とのコミュニケーションに必要なレファレンスインタビューの方法。模擬レファレンス面談を通して、利用者のニーズを的確に把握する質問テクニックを身につけましょう。 4. 情報の適切な利用に関する情報倫理の基本と、図書館における著作権法の適用について専門家に聞きます。 5. オンラインレファレンス技術の国内外の事例研究を参照します。AIによるレファレンスの可能性について議論してみましょう。また、研修報告大会での発表テーマを決めて全員で取り組みます。
実施形態	オンライン形式（検索実習・ロールプレイング・グループディスカッション含む）
研修報告大会	12月13日（金）午後で開催（登壇者を研修内で募ります）

3. 受講条件

資格・経験等	上記内容に興味・関心がある方
環境等	Zoomによるオンラインミーティングが可能な環境 一般的なサーチエンジンやインターネットで公開されている情報検索（NDLサーチ、CiNii、リサーチナビ等）が実習できる環境

以上

2024 年度研修コース案内

1. 概要

研修コース名	スキルアップ研修（利用者教育コース）
期間（回数）	全 5 回
曜日・時間	オンライン形式・月 1 回 土曜日午後 4 時間程度（途中休憩を挟む） 【第 1 回】 6 月 1 日（土） 13 時 00 分～17 時 00 分 【第 2 回】 7 月 【第 3 回】 8 月 【第 4 回】 9 月 【第 5 回】 10 月
募集定員	12 名（最少催行人数 5 名） ※利用者教育コースについては募集定員が少ないため、定員を超える場合、1 大学 1 名とさせていただきます。同じ大学で 2 名以上が申し込む場合、申込フォームの氏名欄に優先順位を追記してください。
担当者	豊田 哲也（株式会社日本能率協会マネジメントセンター・大学図書館支援機構・元立命館大学図書館）

2. 詳細

目的	<p>本講座は以下の 4 点を目的として開催いたします。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 大学図書館における「利用者教育のあるべき姿」について、改めて考える(2) 講師および参加者同士による大学図書館の利用者教育の事例紹介を通じて、それぞれの取り組みの良い点を学ぶとともに、(1) で再定義した「あるべき姿」と「現状」のギャップを分析し、自大学図書館の利用者教育の問題と課題を捉える(3) 自大学図書館の利用者教育の課題解決に向けて必要な知識（学習理論、インストラクショナルデザインの基礎）を学ぶ(4) 研修での学びを自大学図書館の利用者教育でどのように活かしていくかのアクションプランを立てる(5) (4) で作成したアクションプランに基づき改善した自大学の利用者教育の一部を研修内で実践し、講師および参加者同士でフィードバックすることで得た気づきを踏まえ、研修後の職場実践に活かす
内容	<p>本講座は、①講師による講義、事例紹介、②個人ワーク、③参加者同士のグループディスカッション、④全体共有、⑤総括という 5 つのセッションで組み立てます。</p> <p>また、本講座で中心に取り扱う利用者教育は「新入生対象に各学部の授業で行う図書館リテラシー」や「図書館が独自で開催する図書館ガイダンス」を想定しています。</p> <p>各回の詳細は以下の通りです。</p> <p>1 回目：大学図書館における「利用者教育のあるべき姿」を考える 事前課題：大学図書館における利用者教育に関する論文を読む (1) 参加者自己紹介、本講座の狙いの説明</p>

- (2) 事前課題の解説
- (3) 講師による大学図書館の利用者教育のあり方の問題提起
- (4) グループディスカッション
 - (2)、(3)に対する感想交流と大学図書館における「利用者教育のあるべき姿」についての意見交換
- (5) 全体共有
- (6) 1回目のまとめと2回目の進め方の確認

2回目：参加者の大学図書館における利用者教育の現状から学ぶ

- (1) 1回目の振り返りと2回目の目的説明
- (2) 参加者同士による自大学図書館の利用者教育の事例紹介
- (3) グループディスカッション
 - (2)に対する感想交流と相互フィードバック（良い点、改善点）
- (4) 個人ワーク
 - (2)、(3)を踏まえて、自大学図書館の利用者教育の問題と課題を考える
- (5) 全体共有
- (6) 2回目のまとめと3回目の進め方の確認

3回目：自大学図書館の利用者教育の課題解決に向けて必要な知識を学ぶ

- (1) 2回目の振り返りと3回目の目的説明
- (2) 自大学図書館の利用者教育の課題解決に向けて必要な知識について
 - ※学習理論、インストラクショナルデザインの基礎を想定
- (3) グループディスカッション
 - (2)の講義を踏まえた感想交流
- (4) 個人ワーク
 - (2)、(3)での気づきを自大学図書館の利用者教育にどのように活かしていくか
- (5) グループディスカッション
 - (4)の内容をお互いに共有、感想交流および相互フィードバック
- (7) 全体共有
- (8) 3回目のまとめと4回目の進め方の確認

4回目：自大学図書館の利用者教育の改善案を考える

- (1) 1～3回目の振り返りと4回目の目的説明
- (2) 改善案を考える際のポイントの再確認
- (3) 個人ワーク
 - 研修での学びを踏まえ、自大学図書館の利用者教育を改善するためのアクションプランを具体的に作成する
- (4) グループディスカッション①

	<p>個人ワークの共有と相互フィードバック</p> <p>(5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正</p> <p>(6) グループディスカッション② アクションプランの修正案の共有</p> <p>(7) 全体共有</p> <p>(8) 4回目のまとめと5回目の進め方の確認</p> <p>5回目：自大学図書館の利用者教育の改善案を考える</p> <p>(1) 4回目の振り返りと5回目の目的説明</p> <p>(2) グループディスカッション 研修を通じて改善した自大学図書館の利用者教育の一部を実践し、グループ内で相互フィードバックを行う。</p> <p>(3) 個人ワーク (2)での気づきを踏まえ、実践した利用者教育の内容を見直す</p> <p>(4) 全体共有 1回目から5回目の研修内容を踏まえた感想交流と今後に向けた決意表明</p> <p>(5) 講師による研修全体のまとめ</p>
実施形態	オンライン形式
研修報告大会	12月13日（金）午後開催（登壇者を研修内で募ります）

3. 受講条件

資格・経験等	大学図書館における利用者教育を過去あるいは現在担当されている方
環境等	Zoom ミーティングを行うインターネット環境があれば参加可能です。

以 上

2024 年度研修コース案内

1. 概要

研修コース名	スキルアップ研修（データ分析・活用コース）
期間（回数）	全4回
曜日・時間	オンライン形式・月1回 平日午後2時間程度 【第1回】5月29日（水）14時00分～16時00分 【第2回】6月 【第3回】7月 【第4回】10月
募集定員	20名（最少催行人数10名）
担当者	木村 剛美、村井守（富士通 Japan 株式会社）

2. 詳細

目的	図書館の DX が進み、入館者数や貸出冊数以外にも様々なデータを取得することが可能となってきました。様々なデータを有効活用し、図書館の施策に反映させるためには、データを加工、分析する必要があります。この研修では、基礎から学び、実務として活かせるようになることを目的とします。
内容	エクセル機能を活用したデータ分析を基本から学べるように進めます。 図書館データ分析の事例を紹介し、自校の図書館データの分析から課題を考えます。進行状況に応じて課題を提示します。 1回目：データ分析をはじめ データ分析に必要な基本的スキルの習得を目指します。実際の図書館データを用いて、データの加工、集計、グラフ化についての基本機能の説明と演習を行います。 キーワード：Excel、データクレンジング、ピボットテーブル、ビジュアライゼーション 2回目：自校のデータを読み解く1 自校のデータを持参して分析演習を行います。「入学から卒業までの一人当たりの累積貸出冊数の推移」を分析することで、利用者サービス向上の課題を考えます。 3回目：自校のデータを読み解く2 自校のデータを持参して分析演習を行います。「時間別の入館者数・貸出冊数」を分析することで、館内職員配置の課題を考えます。 4回目：自校の課題を考える 分析結果から想定される自校の課題を抽出します。参加者間で問題認識、気づき、アドバイスを交換することで、広い視点での課題抽出を試みます。
実施形態	オンライン形式
研修報告大会	12月13日（金）午後開催（登壇者を研修内で募ります）

3. 受講条件

資格・経験等	図書館データ分析をこれから始めたい方
--------	--------------------

環境等	演習は受講者のパソコン等で行っていただきます。(Excel がインストールされている)
使用データ	<p>以下のデータについて、持出利用が可能であること（個人情報を除く）。</p> <p>■貸出ログデータ</p> <p>抽出項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ① レコード ID：データ個数のカウント用（レコード日時を ID として利用可） ② レコード日時：貸出年度・月の特定 ③ 処理種別：「貸出」のみ抽出（「返却」「更新」等は除く） ④ 所属部署：利用者の所属部署（学部、学科）の特定（別途コード表が必要） ⑤ 利用者区分：利用者の属性（教員・院生・学生等）の特定同上） ⑥ 学年：利用者の学年を特定 <p>対象期間：2020 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日</p> <p>注記：大学によりデータ構成や内容、持ち方が異なるので、読み替えが必要 複数キャンパスの大学の場合、キャンパスを特定したデータも可 単科大学の場合、所属部署でコースの特定ができればコース別の分析が可能</p> <p>■入館者データ</p> <p>抽出項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ① レコード ID：データ個数のカウント用（レコード日時を ID として利用可） ② レコード日時：日付、時間帯の特定 ③ 処理種別：「入館」のみ抽出（「退館」等は除く） <p>対象期間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日</p> <p>■学生在籍者数</p> <p>項目：学部・学年別学生在籍者数 期間：2020, 2021, 2022, 2023 年度</p>

以 上

初任者研修 2024年度研修報告

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修報告大会

2024年12月13日（金）



発表について

江原 千尋 (立正大学)

初任者研修について
概要・第1回・第2回

宮武 佑真 (立正大学)

第3回・第4回

千田 泉 (盛岡大学)

第5回・まとめ

資料作成

小川 友李江
(洗足学園音楽大学)

千葉 徹
(慶應義塾大学)

市橋 裕美
(東京女子大学)

野口 陽水
(東洋大学)

中山 慶一郎
(和光大学)

杼谷 結衣
(法政大学)

田崎 裕子
(文星芸術大学)

矢野 美喜子
(洗足学園音楽大学・
洗足こども短期大学)

中野 瞳
(白鷗大学)

曾根 ひろみ
(神田外語大学)

原 詩織
(帝京大学)

湯本 隼也
(大東文化大学)

中島 宏枝
(白鷗大学)

関根 由紀
(東日本国際大学・
いわき短期大学)

川端 義基
(大東文化大学)

山崎 浩子
(立教大学)

浮貝 昌宏
(目白大学)

江添 美羽香
(立教大学)

橋本 彩伽
(盛岡大学)

神田 麻友子
(関東学院大学)

とりまとめ

田邊 のぶ英
(玉川大学)

初任者研修 について

【受講人数】 24名

【コーディネーター】 IAAL 岡田智佳子先生

【開催日】 2024/6/28（金）、7/12（金）、
8/30（金）、10/11（金）、11/7(木)

【開催方法】 Zoomミーティング
※8/30（金）、11/7(木)対面式

【時間】 13:30～16:00

【活動内容】 聴講、グループディスカッション、
課題、集合研修 等

研修目的

- マネージメント力
- 知識の探求
- 分析・評価し業務を遂行する能力

研修テーマ 「つながり」

本研修をきっかけに大学図書館というコミュニティとつながり、幅広い視野で図書館外とのつながりを意識する

スケジュール

回次	日付	テーマ
第1回	6/28 (金)	大学図書館の現状と課題：『大学設置基準』とともに
第2回	7/12 (金)	『目録』と、ちょっと『分類』のはなし
第3回	8/30 (金)	図書館見学ツアー (青山学院大学マクレイ記念館) (実践女子大学渋谷キャンパス図書館)
第4回	10/11 (金)	DXへのベクトル これからの大学図書館サービスの話をしよう！
第5回	11/7 (木)	第26回図書館総合展

第1回 テーマ：大学図書館の現状と課題

- 開催日 6/28（金）
- 全体の構成
 - 講演：上村 順一 氏（琉球大学附属図書館）
「大学図書館の現状と課題：『大学設置基準』とともに」
 - 質疑応答

第1回 テーマ：大学図書館の現状と課題

■ 要点

- ・ 大学図書館とは何か：「基準」の存在
- ・ 大学図書館の現状：「基準」と部署の紐付け
- ・ 大学図書館の課題：R4改正の電子媒体と環境整備の追加
- ・ 図書館員はどうしていくべきか

■ 気づき

- ・ 図書館は教員と学生どちらにも関わりがある
(他部署にはない特徴)
- ・ 時代や環境の変化に合わせて迅速に対応しなければならない
(例えば電子媒体への対応)

まとめ

- 業界全体の動向や方針に関するマクロの視点と、日々の業務に活かすミクロの視点が大切。
- 他大学や業界組織との「つながり」を通じて、よりよい図書館の姿を模索していかなければならない。

第2回 テーマ：情報資源と組織化

- 開催日 7/12（金）
- 事前課題
 - ・ 所属図書館調査および担当業務について
- 全体の構成
 - ・ 講演：藤井 眞樹 氏（東京大学附属図書館）
「『目録』とちょっと『分類』のはなし」
 - ・ グループディスカッション
「目録作業はAIでできるようになるか」

第2回 テーマ：情報資源と組織化

■ 要点

- 目録とは、利用者が図書館で資料を発見、選別、入手できるように書誌や所在データを作成し、登録を行う作業のことである。
- 目録作業はNACSIS-CATが提供するオンライン共同分担目録方式を利用し、参加館が分担して、図書館の書誌・典拠データを随時内容を更新している。
- 資料の分類は日本十進分類法（=NDC）が中心だが、独自の分類法を使っているところもある。
- 目録業務では、利用者が求めている本を探せるよう有益な情報は何かを考え、参考文献・索引、図書館の内容等を追加、修正し、書誌内容を豊かにして、利用者に届けることが必要である。

■ 気づき

- 目録は利用者と資料をつなぐ役割を担っている。
- 各館の方針を理解し、勤務先の図書館がどの分類法を使用しているか知っておく必要がある。
- 常に情報の変化にアンテナを張り、利用者のニーズを把握することを意識して業務を行うことが求められる。

まとめ

- 目録作業は、一つの図書をいかに検索しやすくすることが重要であり、利用者の目線に立って必要と思った情報を追記する「図書館員」の思いが詰まったものである。
- 目録業務を始めとする図書館業務に生成AIを導入することで、さらなる発展が期待できる。
- 生成AIを導入する場合は、図書館員が知識の習得を図り、図書館員と生成AIそれぞれの得意なことを把握し、苦手な部分をカバーできるように業務バランスを取ることが重要である。

第3回 図書館見学ツアー

- 開催日 8/30 (金)
- 訪問先
 1. 青山学院大学マクレイ記念館
 2. 実践女子大学渋谷キャンパス図書館

1. 青山学院大学マクレイ記念館

■ 概要

- 2024年4月開館
- コンセプト
「学生の知的な居場所となること」
「学生と共に進化する図書館」



■ 施設の特徴

1. 多目的学習スペース「Aisle（アイル）」
2. 大規模な自動書庫（4階～6階）
3. 「知のスパイラル」を体現するフロア構成



2.実践女子大学渋谷キャンパス図書館

■ 概要

- 文学部・人間社会学部・短期大学部向けの蔵書
- 付属高校の生徒も利用可能

■ 施設の特徴

1. 「向田邦子文庫展示室」
2. フロアによって異なるコンセプト
2階：静かに勉強する空間
3階：活発な交流をする空間
3. 活気のある学生スタッフ「ららすた」



まとめ

- 図書館機能だけでなく、利用者に合わせて空間づくり
 - 従来の学習環境を確保しつつ、多様な利用形態への適応が必要
- 学生活動でより活気のある図書館に
 - 時代の変化に柔軟に対応し、学生と共に進化する図書館を目指す

第4回 テーマ：図書館サービス

- 開催日 10/11（金）
 - 事前課題
 - ・ 2023年度の初任者研修報告書を読む
 - 全体の構成
 - ・ 講演：高野 真理子 氏（IAAL）
- 「DXへのベクトル これからの大学図書館サービスの話をしよう！」

第4回 テーマ：図書館サービス

■ 要点

- ・ デジタル化社会における図書館の役割、期待、評価
- ・ デジタル化社会における図書館員に求められるスキル
 - ①メタデータについての知識
 - ②情報収集・整理能力
 - ③アウトリーチ力・トレーニング力
 - ④利用者とのコミュニケーション力

■ 気づき

- ・ 利用者満足度や評価は、それを支える「人」による
- ・ スキルアップがサービスの向上や評価につながる
- ・ レファレンスの変化を広い視野で捉える

まとめ

- 図書館を支えるのは「人」である。
- 図書館員自身のスキルアップが求められている。
- 情報をナビゲートする「図書館サービス」が重要である。

第5回 図書館総合展

- 開催日 11/7 (木)
- 会場
 - 第26回図書館総合展
(パシフィコ横浜)
- 全体の構成
 - 各フォーラム参加
 - ブースツアー



第4会場：第8回全国学生協働サミットフォーラム

■ 要点

- ・ 共有するコンセプトによって様々な学生協働の在り方
- ・ 学生ならではの目線で図書館利用や読書を促進

■ 気づき

- ・ 協働を通じた学内外のつながりで学生に活気を感じた
- ・ 取り組みやアイデアの事例が自大学の活動でも参考に

■ まとめ

他大学との情報交換やつながりで自らの活動をより良く

第5会場：2024年度エルゼビア・ジャパン グローバル人材育成と大学図書館の役割

- 要点
 - ・ コレクション構築と学際性
 - ・ グローバルなつながりと図書館としての支援
- 気づき
 - ・ 利用者の情報格差と情報リテラシー
 - ・ 場としての図書館の重要性
- まとめ
 - グローバル社会と図書館員の関わり

第6会場：国立情報学研究所

JAIRO Cloudでオープンアクセスを実践しよう！

■ 要点

- ・ 図書館員主導のOA⇒研究者主体のOA
- ・ JAIRO Cloudの新機能と課題

■ 気づき

- ・ プラットフォームの更なる整備と充実
- ・ 即時OAのアピールの重要性

■ まとめ

図書館員・研究者の作業軽減⇒即時OAの促進

第7会場：丸善雄松堂株式会社

未来の大学図書館を考える

2024世界の先進事例を通してまなぶ、図書館のこれから

- 要点
 - ・ 学習の場から居場所としての空間へ
 - ・ サービスの多様化
- 気づき
 - ・ デジタル化の中で来館してもらうための仕組み作り
 - ・ 利用者のニーズは利用者に直接聞く
- まとめ
 - リアルな場の価値を生み出すことが大切

おわりに

- 「大学図書館」について深く学ぶことが出来た
- アウトプットにより考えを深めることが出来た
- 様々な「つながり」を学び感じる事が出来た

今後、図書館や図書館職員に

何が求められているのかを考えていきたい。

デジタル化・電子化は、 図書館のスペースと利用促進を 救うことができるか？

PB (Problem Based) 研修

小川 美咲 (大東文化大学)

菊原 音絵 (駒澤大学)

北村 岳志 (麻布大学)

前林 櫻子 (神田外語大学)

山岸 仁美 (和光大学)

和賀 典子 (東日本国際大学・いわき短期大学)

and

高野 真理子 (NPO法人 大学図書館支援機構)

2024年度 PB研修活動（オンライン開催）

目的：「資料管理」を課題に、課題解決力を高める

実施回	開催日	内容
第1回	5月31日(金)	ガイダンス、資料管理の問題点を議論
第2回	6月28日(金)	データ分析・活用の演習（星野雅英講師）
第3回	7月26日(金)	テーマ設定、解決へのアプローチ方法検討
第4回	9月13日(金)	収集した事例の発表、事例研究まとめ
第5回	10月18日(金)	課題へのアプローチを分担して発表
第6回	11月15日(金)	課題への取り組みまとめ

報告の構成

- 1：大学図書館共通の問題
- 2：図書館を取り巻くデジタル化・電子化
- 3：利用促進事例と書架問題解決への結びつき
- 4：まとめ

大学図書館共通の問題（書架）

•書架スペースの狭隘

除籍しない限り、書架を占領していく

書架の最下段は見づらい※というけれど・・・

※（佐藤翔、伊藤弘道. 図書の本架上の位置が利用者の注視時間に与える影響.
日本図書館情報学会誌, 2020, Vol.66 (2) ,2020,p.55-68)

書架にぎっちり資料が詰まっているのはよいこと？

大学図書館共通の問題（蔵書）

- 大学図書館の蔵書とはどういうものか

せっかく購入した資料、利用されている？

資料は使われるためにあるもの

使われない資料でもとっておかなければいけないのか？

大学図書館共通の問題（デジタル化・電子化）

•資料のデジタル化・電子化

紙の資料に比べて高額

どんなものがデジタル化・電子化されているのか

ほしい資料はデジタル化・電子化されてる？

大学図書館共通の問題（デジタル版・電子版利用）

- デジタル化・電子化されたものが利用されるのか

紙の資料と違い、書架に並んでいる訳ではない、どうやって利用者にPRするか？

デジタル化・電子化されれば、みんなで利用できるようになる？

ランガナタンの図書館学の五法則

- 図書は利用するためのものである
- いずれの読者にもすべて、その人の図書を
- いずれの図書にもすべて、その読者を
- 図書館利用者の時間を節約せよ
そして
- 図書館は成長する有機体である

事例紹介の前に…

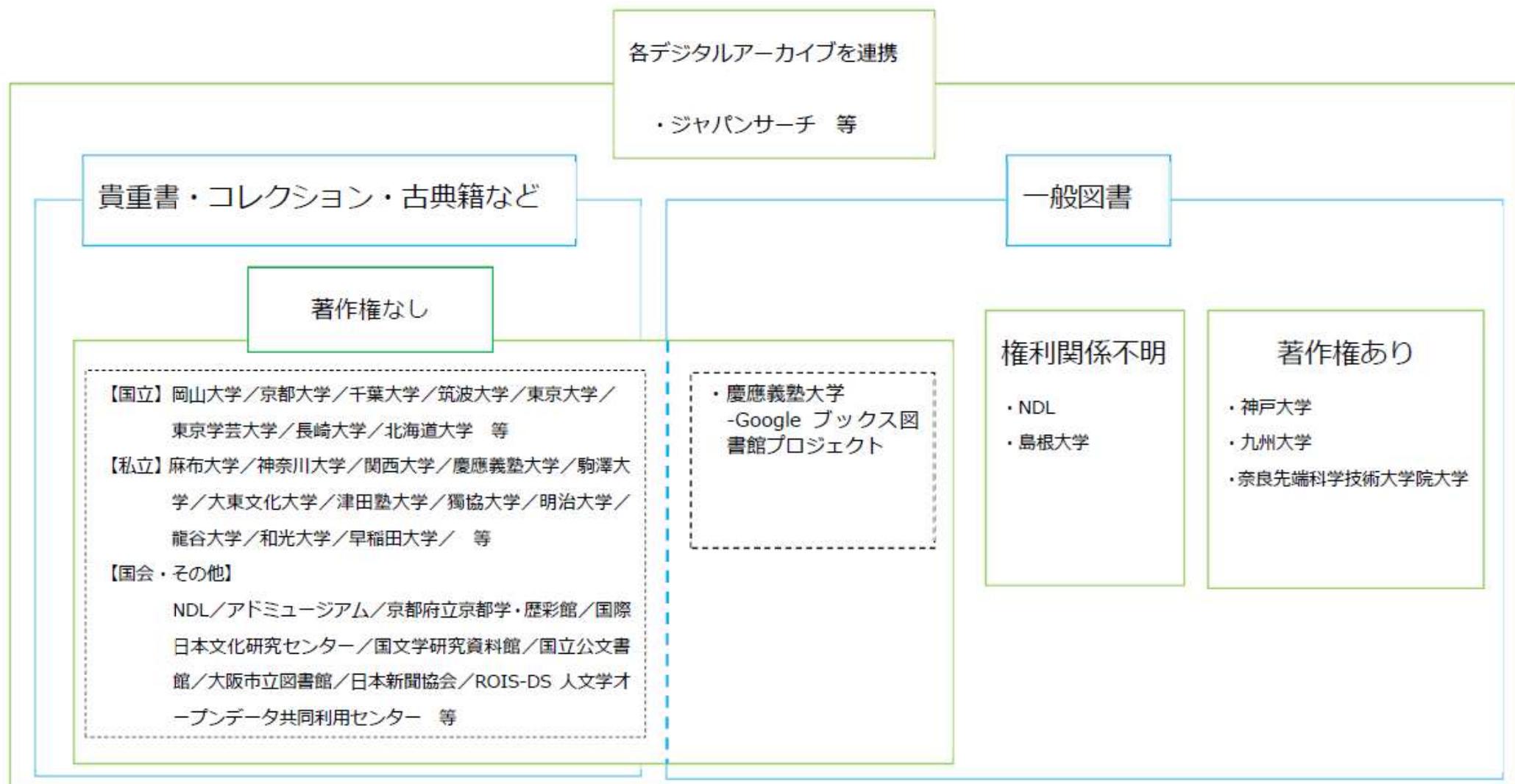
- ・ テーマ

「デジタル化・電子化は図書館のスペースと利用促進を
救うことができるか？」

図書館のスペース…電子資料の受入／紙資料の除籍・除架が必要
図書館の利用促進…電子資料だからこそ必要なこと・
できることは何か？

といったことをイメージしながらお聞きいただけると幸いです。

デジタルアーカイブ事例について



デジタルアーカイブ事例について

国の関係機関等のデジタル化の状況（文化・学術系の主なもの）

特に記載のあるもの以外
2024年2月現在

資料の収集・保存（メタデータ整備）

現状認識と方向性

分野	収集機関	収集資料数	メタデータ整備				コンテンツのデジタル化		
			目録情報数	うち、サムネイル数	権利者情報の付与数(※1)	権利者同意情報の付与数(※2)	パブリックドメインの数	2D デジタル化数(※3)	3D デジタル化数
文化財	文化財機構	132,868	132,868	31,677	132,868	132,868	— (①)	31,677	42 (②)
美術	国立美術館 (国立映画アーカイブ 除く)	45,573	49,978 (③)	41,030	権利者情報、権利者同意情報は別途管理しているため、メタデータには付与していない。	—	算出困難 (④)	41,030	0
映画	国立映画アーカイブ	86,407	86,407	170	寄贈時の契約情報や、権利者情報（パブリックドメイン含め、判明している場合）については紙ベースで管理しているため、算出困難。	—	—	197	0
放送番組	放送番組センター	テレビ番組約3万本 ラジオ番組約6千本 CM約1万2千本 ニュース映画約2千700件	テレビ番組約2万件 ラジオ番組約5千件 CM約1万2千件 ニュース映画約2千700件	約3万件 (放送ライブラリー 全て公開)	不明	不明	0件	約5万件	0件
	日本放送協会	番組・番組関連 約114万件	約114万件	ほぼ同数	不明	不明	不明	約114万件	—
書籍等	国立国会図書館	46,855,998点 R4年度末時点 (⑤)	27,569,063件 R4年度末時点 (⑥)	3,396,021件	権利者情報、権利者同意情報は別途管理しているため、メタデータには付与していない。	1,998件 (⑦)	513,196件	3,724,790点	0
公文書	国立公文書館	約165万冊	約165万冊	約144万画像	0	0	0 (⑧)	約41万冊	0冊
人文学	人間文化研究機構	5,612,562	5,612,562	0 (⑨)	5,612,562	5,612,562	0	5,612,562	0冊
自然科学技術史	国立科学博物館	5,004,294	5,004,294	357,450	357,450	357,450	0	357,450	45

(※1) 権利者情報は、コンテンツの権利者名と連絡先を指す。連絡先は、電話番号やメールアドレスのほか、窓口となる
(※2) 権利者同意情報は、コピーライト表記、CCライセンスやRightsStatementsの表示、利用不可や利用に関する連絡先または、それらがwebサイト等、ユーザーが認識できる場所に表示されている場合も含む。
(※3) 2D デジタル化数は、2023年12月31日現在のものである。

デジタルアーカイブを取り巻く環境変化

<コロナ禍の影響> ※デジタルアーカイブの役割の再認識

- ・ テレワークや遠隔授業等の増加によるアーカイブ化されたデジタル資料等の需要増
- ・ 公的機関の所蔵資料へのインターネットを通じたアクセスニーズの顕在化
- ・ 過去コンテンツの利用ニーズの高まり
- ・ コンテンツ流通・配信のデジタルシフトの加速
- ・ 多様なUGCの創作・発信の増加

<デジタル技術の進展> ※情報資産としての価値向上

- ・ DXの加速
- ・ デジタル資源のグローバルな流通
- ・ デジタルアーカイブの連携と横断的な利用による新たな価値創造の拡大
- ・ 良質で管理されたデータセットとしての価値の高まり

デジタルアーカイブ推進の方向性

➢ 従来からのデジタルアーカイブの拡充等（継続性）と、新たな裁定制度の導入を見据えた利活用の促進等（発展性）の両面について、関係府省庁・機関等が協力・連携しながら推進する。

- (継続性) 文化資産・学術資料等コンテンツのアーカイブ化のより一層の充実
- (発展性) コンテンツ情報の見える化や、権利情報との適切な連携により、利活用の促進等に向けた取組の推進

(「デジタルアーカイブ戦略懇談会(第1回)」資料より (2024年11月15日確認))

「デジタル化・電子化は、図書館のスペースと利用促進を救うことができるか？」 について3つの観点から、収集した各館の事例を比較

【比較した観点】

①他館に所蔵がない（・少ない）資料のデジタル化画像を外部利用者にも公開しているか

☞利用可能なデジタル化資料が多ければ、他機関所蔵・公開資料も念頭に置いた蔵書構成の検討が可能となり、自館の書架スペース確保につながる？

②一般書等で著作権切れ確認や著作権の許諾確認作業が必要な資料もデジタル化を行っているか

☞多ければ、今後、図書館によるデジタル化も書架スペース確保のカギとなる？

☞(電子資料との重複を認めるという)規則があれば、除籍や閉架書庫への移動をすることができ、書架スペースが確保できる？

③まとまったテーマ等でデジタル化・公開されているか

☞テーマやコレクションでまとめられたデジタル化資料群が公開されていれば、自館に所蔵がなくても、(レファレンス等で活用することができ、)自館利用者のニーズを満たすことができる？

事例紹介（比較）

【比較観点】

①他館に所蔵がない（・少ない）資料のデジタル化画像を外部利用者にも公開しているか

（一部画像公開されていない資料が確認できた場合は「一部除く」に✓をつけています。すべての資料を確認したわけではありません）

②一般書等で著作権切れ確認や著作権の許諾確認作業が必要な資料もデジタル化を行っているか

（確認できたものに●をつけています。すべての資料を確認したわけではありません）

③まとまったテーマ等でデジタル化・公開されているか

（テーマごとにまとめて公開や紹介をしていることが確認できたものに●をつけています）

事例	観点①	一部除く	観点②	観点③
北海道大学 北方資料データベース (hokudai.ac.jp)	●	✓		●
神戸大学附属図書館 貴重書・特殊コレクション	●	✓	●	●
貴重書コレクション(電子化リスト) 筑波大学附属図書館 (tsukuba.ac.jp)	●			●
京都大学 貴重資料デジタルアーカイブ (kyoto-u.ac.jp)	●			●
コレクション 東京大学附属図書館 (u-tokyo.ac.jp) (「東京大学文書館デジタル・アーカイブ」, 「田中芳男・博物学コレクション」等)	●	✓		●
長崎大学附属図書館 日本古写真グローバル・データベース (nagasaki-u.ac.jp)	●			●
東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ (u-gakugei.ac.jp)	●			●
千葉大学 千葉大学学術リソースコレクション (c-arc)	●			●
岡山大学附属図書館 古文献ギャラリー (okayama-u.ac.jp)	●	✓		●
鳥取大学附属図書館デジタルアーカイブ	●	✓	●	●
九州大学 (貴重資料デジタルアーカイブ, 中村哲著述アーカイブ)	●	✓	●	●
奈良先端科学技術大学院大学 電子化資料			●	
神奈川県立デジタルアーカイブ (kanagawa-u.ac.jp)	●			●
明治大学 デジタルアーカイブ (meiji.jp)	●			●
早稲田大学 古書籍総合データベース (waseda.ac.jp)	●			●
津田塾大学 デジタルアーカイブ 津田塾大学110周年記念事業 (tsuda.ac.jp)	●			●
獨協大学 貴重書・特別資料・特別コレクション (dokkyo.ac.jp)	▲			●
関西大学 デジタルアーカイブ (kansai-u.ac.jp)	●			●
麻布大学 獣医学関係資料デジタルアーカイブ	●			●
駒澤大学 電子貴重書庫	●			●

【結果】

①③は今回調査した機関のほとんどが実施。(大半は貴重書等)

- ☞ 他機関のまとまったデジタル化画像を活用することで、自館受入をしなくても利用者のニーズに応えることができるため、「他機関所蔵・公開資料も念頭に置いた蔵書構成」の検討につなげていける可能性がある？
- ☞ 貴重書を含め、他館のデジタル化資料と自館の所蔵資料を絡めてレファレンス等を対応することができれば、自館所蔵資料の利用促進にも繋げられる可能性がある？

②は少ない。現状では、今後も実施は一部の機関のみとなりそう。

- ☞ 資料所蔵機関が一般書の電子化の担い手になるには限度あり。
- ☞ 一般書の電子化がすすめば、除架や除籍がしやすくなるため、他の担い手による電子化促進が課題か。今後の国のデジタルアーカイブ推進方針によっては、進展が見込めるかもしれない。

じゃあ出版社等による電子化の状況は…？

●一般ユーザー向けの電子書籍化率ほどのくらいなのか…？

NDLデータ（ISBN有・日本語・年号有）2,623,535件のうちBookWalkerで電子化されていたのは313,120件（**11.9%**）（「日本における電子書籍化の現状（2020年版）」より）

●電子書籍が売れないから電子書籍化率あがらないのか？2023年は紙と電子どちらが売れたのか…？

👉紙も電子も、書籍の売上は減っている。

単位：億円		2022	2023	前年比	占有率
紙	書籍	6497	6194	95.30%	38.80%
	雑誌	4795	4418	92.10%	27.70%
	紙合計	11292	10612	94%	66.50%
電子	電子書籍	446	440	98.70%	2.80%
	電子雑誌	88	81	92%	0.50%
	電子コミック	4479	4830	107.80%	30.30%
	電子合計	5013	5351	106.70%	33.50%
紙+電子		16305	15963	97.90%	100.00%

👉書籍の形態にかかわらず、読書量が減っている可能性があり。

👉「電子だから読まない利用者」と「紙でも電子でもどちらでも読まない利用者」両方の利用者層を想定したうえでのPRが効果的な蔵書の利用促進につながる可能性あり

（「季刊出版指標2024年冬号」 p10-11より抜粋）

👉 大学図書館で購読可能な電子書籍はどれくらいあるのか…？

「電子図書館・電子書籍サービス調査報告2023」より一部抜粋

事業者	サービス名(参加出版社数わかるもののみ)	サービス開始年	事業者別提供電子書籍コンテンツ数(和書)(一部抜粋)				
			2020年	2021年	2022年	2023年	前年比
図書館流通センター	LibrariE & TRC-DL	2011.1	85,000	96,500	118,000	135,000	+17,000
メディアドウ	OverDrive電子図書館	2006.11	44,260	47,306	66,000	84,000	+18,000
丸善雄松堂	Maruzen eBook Library (380社以上)	2012.2	80,000	120,000	150,000	160,000	+10,000
紀伊國屋書店	KinoDen (315社)	2018.1	28,000	40,000	65,000	78,000	+13,000
JDLS	LibrariE (400社以上)	2015.4	61,000	74,000	108,900	139,000	+30,100
ネットアドバンス	ジャパンナレッジ	2001.4			98	103	+5
EBSCO Japan	EBSCO eBooks	2005.12	3,000	13,000	15,800	17,000	+1,200
		合計	304,340	398,506	534,898	625,603	+90,705
			※各社の申告数値を集計(一部重複有)				
			※2020年以降は「オーディオブックの電子書籍」含む				
			※パブリックドメインコンテンツ(青空文庫等)を除いた数値				

👉 一般向けと図書館向けの電子書籍提供件数はどのくらい違うのか…？

【例】 紀伊國屋書店ウェブKinoppy 提供点数(コミック・ライトノベル・雑誌等除く) **360,472** 点 (2024.11.15サイトにて確認)
 紀伊國屋書店KinoDen 和書の提供点数 **約90,000** 点 (紀伊國屋書店の営業さんより)

でも、電子化された資料で読みたいものがある？

●電子化できない理由

- ☞ 刊行時期が古い本だから著者の電子化許諾が難しい
- ☞ 著者が電子化を許諾しない
- ☞ 底本からスキャンしないといけないのでコストがかかる
- ☞ 翻訳本だから海外権利元への権利料の支払いが高額で難しい
- ☞ 図書館へ販売したくない
- ☞ 個人への電子書籍販売を優先しているので図書館には提供しない

(西田和之. 図書館向け和書電子書籍サービスのこれから-KinoDenの事例を題材に-. 日本農学図書館協議会誌, 2022-12, No.208, p.16-22)

図書館を取り巻くデジタル化・電子化のまとめ ～今後の展望～

【現状】

- ・著作権等に問題がない資料のデジタル化は少しずつ進んでいる
- ・国立国会図書館等のコンテンツデジタル化も進みつつある
- ・著作権のある書籍のデジタル化はまだまだ改善の余地がある

【今後図書館として必要なこと】

- ・必要な書籍の電子化リクエストを出す、効果的な利用促進を行い、電子書籍利用の数を増やす
MeLリクエストページ <https://regist02.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=ter-ngqdp-71f65df3bb2e07bafa3acd31ffec9a9c>
KinoDenリクエストページ <https://mirai.kinokuniya.co.jp/kinoden-request/>
- ⇒ **「図書館向け電子書籍」のニーズをアピールする**
- ・「電子書籍」「デジタルアーカイブ」等も考慮した**「適切な受入」を意識する**
 - ・「電子資料を残せばよいもの」「電子資料と冊子資料どちらも残すべきもの」等、その大学図書館にとって**「適切な除籍・除架」を判断できる職員を増やす**

【今後出版社等として必要なこと】

- ・図書館向けコンテンツを増やす ・価格を下げる ・使い勝手を良くする
- ⇒これらの工夫をすることで、**図書館が電子書籍を導入しやすくする**

👉 **今後は、出版社・書店／図書館、双方にメリットがある方向性の模索も必要。**

電子書籍の利用促進事例

掲示による電子書籍の可視化



- QRコード付の電子書籍紹介を館内で配付（麻布大学）
- 展示架を利用して、電子書籍の案内パネルを掲示（駒澤大学）



- 表紙画像は「版元ドットコム」から利用可能な画像をダウンロード
- QRコード付
- 紹介文をそれぞれの電子ブックサイトの紹介文を参考に作成
- ラミネート加工でパネル化

事例：麻布大学/駒澤大学

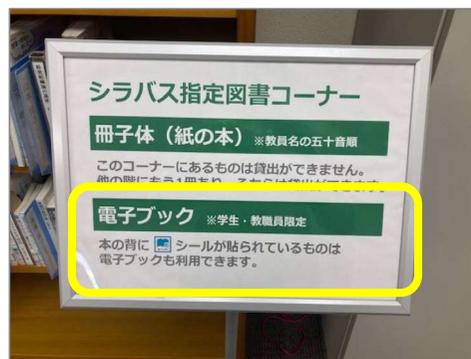
電子書籍の利用促進事例

授業利用図書への電子購入



- 年に1度シラバス指定図書の入替作業をおこない、電子書籍で購入できるタイトルの再調査をおこなう。指定図書で新たに電子化された資料の全購入を徹底する

- 書影とQRコードを掲載し、電子書籍アクセスへの流れをつくる



- 電子の所蔵がある冊子体に、「電子ブックあり」のシールを貼り、電子書籍の利用促進を強化

事例：和光大学

電子書籍の利用促進事例

試読サービスの活用

学部学生・大学院学生・教職員 対象 2024

電子ブック 読み放題

- 試読サービスのお知らせ -
PC・タブレット・スマホで全文試し読み！

全部読めるのはこの期間だけ！

2024年6月1日(土)～7月31日(水)
Maruzen eBook Library
約16万タイトルの和書 1タイトル1回5分まで

2024年6月1日(土)～7月31日(水)
KinoDen
約4万5千タイトルの和書 1タイトル1回5分まで

2024年6月1日(土)～8月31日(土)
EBSCO eBooks
約1万6千タイトルの和書・約32万タイトルの洋書

利用には学内ネットワークに接続もしくはSSL-VPN接続が必要です 詳細は図書・情報館ホームページまで

学術和書の電子書籍 KinoDen

KinoDen 全文試し読み

期間：20XX年X月X日～20XX年X月X日

レポート作成に！ 移動中の読書に！

就職活動に！ 旅行先からガイド参照！

QRコード

URL：https://kinoden.kinokuniya.co.jp/XXX

全コンテンツ 全文試し読み (5分) リクエスト送信 図書館での選書の参考にさせていただきます！

TOP画面イメージ 試し読み画面イメージ 購入リクエストイメージ

内容

- KinoDen搭載の約4万5千点について全文へのアクセスをご提供します。
- 1タイトル1回あたり5分間、全文をブラウザで試し読み頂けます。
- KinoDen画面上から図書館に購入リクエストを送信できます。
- 図書館にてリクエスト結果を参考に、購入タイトルを検討します。

- 電子書籍未契約タイトルの試読サービスを使い、期間限定のタイトルの試読を実施
- 全文を1回あたり5分まで閲覧可能
- 同時アクセス数は無制限
- 購入リクエストも出来る
- 試読期間終了後に各プラットフォームから統計結果が送られてくるので、利用の多いタイトルが識別でき、今後の選書に活かせる
- ただし試読後の一定数の購入が条件

【参考】電子書籍導入大学数(現時点)

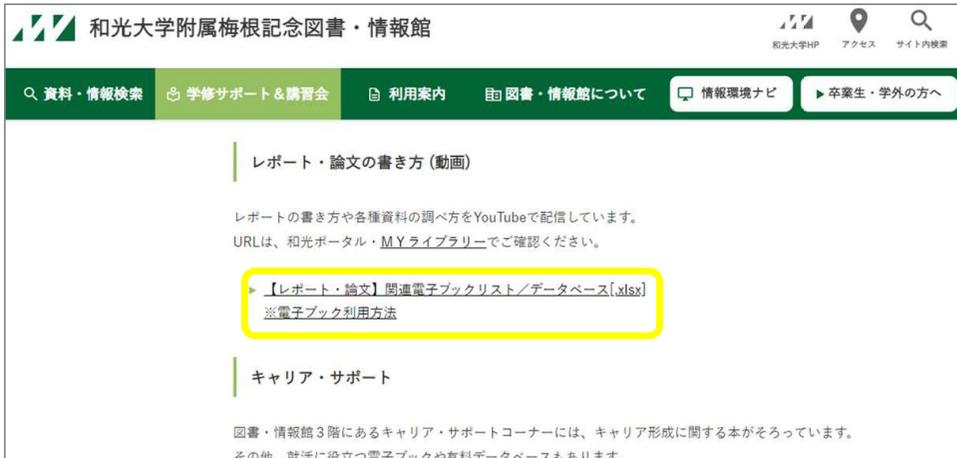
■ Maruzen Ebook Library 638館(専門学校除く)

■ KinoDen 421館(内64館は海外)

事例：和光大学

電子書籍の利用促進事例

リストによる電子書籍の紹介



- 学生の利用頻度が高いレポート・論文作成に使える電子書籍リストや就活に役立つキャリアサポートのリストをHPで随時更新 (和光大学)



- OPACでリスト表示 (麻布大学)
- 毎月、新着の電子書籍をHPに掲載。タイトルから本文にアクセスできる (駒澤大学)

事例：和光大学/麻布大学/駒澤大学

書架問題解決への結びつき

デジタル資料のOPAC搭載

電子 検索画面



大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる! / 世界思想社編集部編
ダイカクセイ マナビ ノ ハンドブック：ペンキョウホウ カ ヨク ワカル!

版 687版
出版者 京都：世界思想社
出版年 2024
大きさ 1オンラインリソース

この情報を出力する

- メール送信
- ファイル出力

このページのリンク

<https://libw/> コピー



冊子体 検索画面



大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる! / 世界思想社編集部編
ダイカクセイ マナビ ノ ハンドブック：ペンキョウホウ カ ヨク ワカル!

版 687版
出版者 京都：世界思想社
出版年 2024.3
大きさ 1776x1100mm

- メール送信
- ファイル出力

このページのリンク

<https://libw/> コピー



所蔵情報を非表示

全文アクセス	所在・マップ	請求記号	巻次	資料番号	状態
全文アクセス	オンライン(学内限定)	OB377 15	:	electronic bk OB0002290	KI V

書誌詳細を非表示

所蔵情報を非表示

所在・マップ	請求記号	巻次	資料番号	状態	コメント	ISBN	利用注記	指定図書
レポート・論文(3F)	377 15		500191602			9784790717911		

- OPACにデジタル資料を搭載することで、紙の資料と同じ手軽さで検索・アクセスを可能にする。
- 一方で、学生の冊子体での貸出利用の多い資料も一定数存在している。冊子体と電子の相互リンクを付けることで、電子利用促進を意識付けし、状況に合わせたニーズに応えることができる。
- ディスカバリーサービスが、紙とデジタルを一気に探せるツールだが、操作が簡便なOPACには劣る印象。

事例：和光大学

電子書籍の利用促進事例

SNSを活用した電子書籍の紹介

【キャリアサポート（レポート・論文）関連】

■電子ブック所蔵リスト【2024/4/1現在】

電子ブックを利用する際は、必ず学内LAN（学内のパソコンや学内Wi-Fi）に接続された状態、または学外からの利用時はSSL-VPN接続がVPN接続環境下でご利用ください。
 ・「くまなく」へのリンクをクリックし、次の画面で「電子ブック」をクリックすると、希望プラットフォームへ移動し利用できます。
 ・同時アクセス数は1です。利用中の場合は、待機をおいて再度アクセスしてください。

【SSL-VPN接続サービスについて】 【VPN接続サービスについて】

No.	資料番号	資料の名称（タイトル、出版者など）	くまなくへのリンク	主題分類	電子書籍プラットフォーム
1	OB0001458	大学1年生からの社会を見る目のつくり方 / 大学初年度教育研究会 著. -- 1次書局, 2020. -- 1 online resource (xii, 254 pages) : illustrations. -- (大学生の学びをつくる.). w.	EB00001334	OB-002	EBSCO eBooks (CGL-VPN)
2	OB0002182	「学問」の取扱説明書 / 伴正昌編著. ; electronic bk. -- 改訂第2版. -- 作品社, 2022.3. -- 1オンラインリソース ; 挿図. w.	EB00001335	OB-002	Maruzen eBook Library (CGL-VPN)
3	OB0001598	アカデミック・スキル実践テキスト : 情報収集から論文作成まで / 深谷浩司, 渡辺志津子 著. ; electronic bk. -- 啓業社, 2020. -- 1オンラインリソース. w.	EB00001336	OB-002.7	KinoDen (CGL-VPN)
4	OB0002181	大学生のためのビジュアルライティング入門 / 原木万紀子 著. ; electronic bk. -- 勁草書房, 2022.2. -- 1オンラインリソース ; 挿図. w.	EB00001337	OB-002.7	Maruzen eBook Library (CGL-VPN)
5	OB0001827	歴史学で卒業論文を書くために / 村上紀夫 著. ; electronic bk. -- スマホ・読上. -- 創元社, 2019.9. -- 1オンラインリソース ; 挿図. w.	EB00001338	OB-207	Maruzen eBook Library (CGL-VPN)
6	OB0000261	学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー / 富士通エフ・オー・エム株式会社著作制作 ; electronic bk. -- FOM出版, 2018. -- 1オンラインリソース. w.	EB00000787	OB-007.6	KinoDen (CGL-VPN)
7	OB0001859	ゼミリポートへの論文マニュアル / 山内忠昭 著. ; electronic bk. -- 創版. スマホ・読上. -- 平凡社, 2021.11. -- 1オンラインリソース. -- (平凡社新書 ; 991).	EB00001339	OB-001	Maruzen eBook Library (CGL-VPN)
8	OB0001596	質の高い研究論文の書き方 : 多様な論者の視点から見えてくる, 自分の論文の打ち手 / 青島久一編著. ; electronic bk. -- 中央図書, 2021. -- 1オンラインリソース. w.	EB00001340	OB-307	KinoDen (CGL-VPN)
9	OB0001597	研究者が知っておきたいアカデミックな世界の作法 : 国際レベルの論文執筆と学会発表へのチャレンジ / 谷本真治 著. ; electronic bk. -- 中央経済社, 2019. -- 1オンラインリソース. w.	EB00001341	OB-307	KinoDen (CGL-VPN)
10	OB0001858	学生リーダーから始めるフィールドワーク : レポート・論文を書く人のために / 眞田浩二, 池田太郎 編. ; electronic bk. -- 明石書店, 2022.11. -- 1 online resource. w.	EB00001342	OB-307	KinoDen (CGL-VPN)
11	OB0001941	よくわかる大学生のための研究スキル / ノートルダム清心女子大学人間生活学系編 ; electronic bk. -- 大学教育出版, 2023.4. -- 1オンラインリソース. w.	EB00001343	OB-377.15	Maruzen eBook Library (CGL-VPN)
12	OB0000180	新・知のツールボックス : 新入生のための学びをサポートブック / 専修大学出版企画委員会編 ; electronic bk. -- 専修大学出版局, 2018.4. -- 1オンラインリソース ; 挿図. w.	EB00000180	OB-377.15	Maruzen eBook Library (CGL-VPN)
13	OB0000986	思考を鍛える大学の学び入門 : 論理的な考え方を、書き方からキャリアデザインまで / 井手以子 著. ; electronic bk. -- 第2版. -- 慶應義塾大学出版会, 2020.1. -- 1オンラインリソース. w.	EB00000986	OB-377.15	Maruzen eBook Library (CGL-VPN)
14	OB0001497	アカデミック・スキル入門 : 大学の学びをアクティブにする = Academic skills : start up for active learning in higher education / 伊藤智子, 高橋一哉 編. -- 初版. -- 有斐閣, 2016. -- 1 online resource (vii, 198 pages) : illustrations. -- (情報ブックス). w.	EB00001344	OB-377.15	EBSCO eBooks (CGL-VPN)
15	OB0001847	アカデミック・スキル入門 : 大学の学びをアクティブにする / 伊藤智子, 高橋一哉 編. ; electronic bk. -- 初版. -- 有斐閣, 2016.3. -- 1オンラインリソース ; 挿図. -- (情報ブックス). w.	EB00001600	OB-377.15	Maruzen eBook Library (CGL-VPN)
16	OB0001848	プレゼンテーション入門 : 学生のためのプレゼンテーション / 大出雅博 著. 書江健介 著. ; electronic bk. -- 慶應義塾大学出版会, 2020.8. -- 1オンラインリソース ; 挿図. -- (アカデミック・スキルズ). w.	EB00001601	OB-377.15	Maruzen eBook Library (CGL-VPN)
17	OB0001941	よくわかる大学生のための研究スキル / ノートルダム清心女子大学人間生活学系編 ; electronic bk. -- 大学教育出版, 2023.4. -- 1オンラインリソース. w.	EB00001602	OB-377.15	Maruzen eBook Library (CGL-VPN)
18	OB0001456	コピペしないレポートから始まる研究論争 : その一掃, 絶えたらアウトで? / 上岡珠穂 著. -- ライフサイエンス出版, 2016. -- 1 online resource (viii, 81 pages) : illustrations. -- (ライフサイエンス叢書). w.	EB00001345	OB-407	EBSCO eBooks (CGL-VPN)
19	OB0000266	論理的な考え方を、図解に基づいて身につけるために / 狩野光博 著. ; electronic bk. -- 慶應義塾大学出版会, 2015. -- 1オンラインリソース. w.	EB00000785	OB-809.6	KinoDen (CGL-VPN)
		レポート・論文を書くための日本語文法 : ここがポイント! / 中上銀一 著. 上野実一 著. 小西万里, 三井久美子 著. ; electronic bk. -- くろしお出版, 2016. -- 1オンラインリソース. w.	EB00000786	OB-809.6	KinoDen (CGL-VPN)

- 統計で閲覧数の多かった電子書籍を中心に、SNSで紹介



利用促進のための3STEP
 周知→利用→継続

事例 : 和光大学

電子書籍の利用促進事例

オンライン選書ツアーによる学生選書



- 「オンライン選書ツアー」を開催し、学生選書で選定した電子書籍を購入
- ブクログで紹介し、アクセスしやすいようにリンクも掲載

[決定版]子どもと若者の認知行動療法ハンドブック



[決定版]子どもと若者の認知行動療法ハンドブック
ポール・スタラード
金剛出版 / 2022年4月26日発売
Amazon.co.jp / 本
購入する

© 2022年11月2日

2022学生オンライン選書ツアー 購入本

☆こちらから電子ブックで読めます (駒澤大学内関係者限定)
<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000124444>

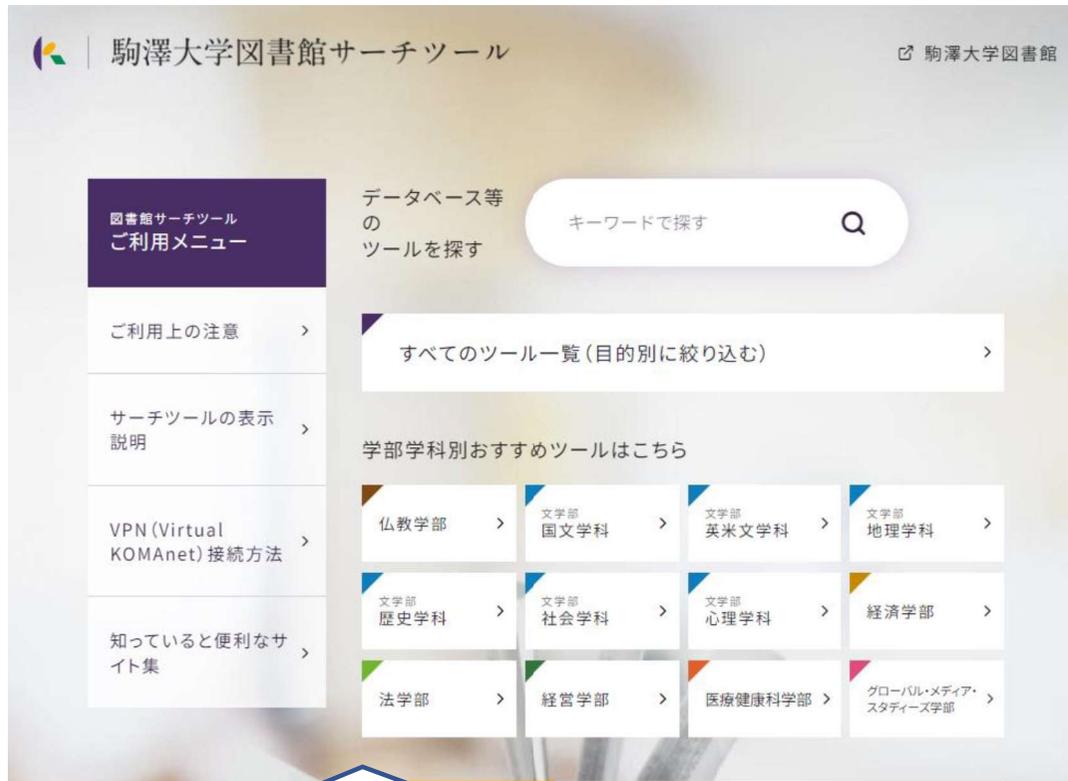
詳細・コメントする

カテゴリ 2022学生オンライン選書ツアー

事例：駒澤大学

電子・デジタルの学術資源の利用促進事例

電子へのアクセスを高めるツール開発



従来はHPに掲載していたデータベース一覧を
非来館型サービスの拡充として図書館で開発した

- 世の中にあるデジタル情報(電子書籍、データベース(契約・フリー)など)へ容易にアクセスするためのツールを開発。
- 図書館が発信することで、サイト・情報の質を保証する。
- 教員の協力を仰ぎ、学部生をターゲットにした学部学科推奨のツールをまとめている。

事例：駒澤大学

書架問題解決への結びつき

デジタルとの重複による資料除籍

重複の考え方

紙 ≠ デジタル



紙 = デジタル

- ・ 重複の基準を改定。重複資料をデジタル化する際は、紙とデジタルを同等と見なすことにルールを変更。
重複の基準は、紙とデジタルを同等と見なすことにルールを変更。重複資料をデジタル化する際は、紙とデジタルを同等と見なすことにルールを変更。
- ・ その結果、デジタルで提供される資料と重複も、除籍候補にできる資料が増加した。
- ・ 除籍資料は、古書店に売却・引き取りを依頼し、市場に再流通させる。

書架問題解決への結びつき

電子書籍やデジタル公開資料との重複による除籍の例

アジア動向年報

デジタル公開あり

記号	巻次	請求記号	西暦番号	状態	コメント
3階 3A	2024	302.2/9-24	241115138		デジタル公開あり

- 「アジア動向年報」は、発行と同時期にデジタル公開されるため、最新号のみ所蔵し、「全文Web公開」を理由に前号のバックナンバーを除籍。
- OPACのコメント欄には、「デジタル公開あり」と記

発行元のWEBページ情報もOPACに取り込めるようになれば、公開ページを資料に代えて、さらに電子への置き換えが進むと考えられる。

事例：駒澤大学

書架問題解決への結びつき

所蔵資料の電子書籍への置き換え

紙 < デジタル



書架スペース

- ・ 紙と電子と両方の刊行がある資料は、電子を積極的に購入する方針とする。
- ・ 電子で刊行されている資料を紙の資料の代わりに購入することで、書架スペースを捻出する。

書架問題解決への結びつき

所蔵済の資料は、どの程度置換可能か？

駒澤大学図書館蔵書 電子書籍との照合結果

- ①調査対象 和書・洋書（貴館より受領した所蔵データ）
- ②電子書籍データ 和書（KinoDen）、洋書（ProQuest EbookCentral）
- ③照合方法 13桁ISBN
- ④照合結果 以下の通り
- ⑤想定されるスペース 1段に約30冊配架可能とした場合、約40台の書架スペースが確保出来る可能性があります。
*甲式6段とした場合

種別	現所在	重複件数	備考
和書	レポートプレゼン	4 点	
和書	参考図書	21 点	
和書	3階	1,174 点	
和書	4階	414 点	
和書	書庫B1	21 点	
和書	書庫B2	327 点	
	計	1,961 点	
洋書	書庫B2、外部倉庫ほか	5,666 点	
	計	5,666 点	
	合計	7,627 点	

注) ISBNをキーとした照合のため、所蔵が旧版、電子書籍が新版などの全集・シリーズ物は含まれません。

和書：1,961冊

洋書：5,666冊

2020年1月現在

▶ 単式6段書架換算約40台省スペース化

- 置換が可能な資料は、利用が多い和図書よりも洋図書ばかり。
- 高額コストに対して、さほど利用が見込めないという、費用対効果の問題により実施見送り。

事例：駒澤大学

電子・デジタルの利用促進事例と 書架問題解決への結びつきのまとめ

- **電子書籍の現状は日々変化している**

→図書館のDX化により、サービスや資料の価値が多様化している。世の中の電子化の動きに着目し、利用者が求める媒体(紙・電子)の利用統計、アンケート調査を定期的におこない、ニーズに合わせた掲示・広報(OPAC搭載・HP更新)を検討し続ける。書店や図書館総合展での情報にアンテナを立てる。

- **デジタル化に伴う資料の除籍**

→紀要や貸出履歴のない資料を抽出しておき、媒体変換(マイクロ化・デジタル化等)による原資料の除籍・廃棄・閉架への引き下げのタイミングを逃さないようにする。資料の特性を理解し、収集→整理→管理→活用・廃棄の流れをつくる。また、廃棄の際は古書店や学生利用でのリサイクルを心がける。

- **教員や学生(研究室)との連携**

→各大学の専門分野の教員と連携し、大学として教員・学生の研究・学習に沿った資料提供の心得を明確にする。資料の社会的重要性を加味し、各大学の資料収集方針・除籍基準に準じた図書館運営をおこなっていく。

- **デジタルアーカイブでレファレンスを強化**

→無料公開している優れたデジタルアーカイブを率先して活用する。情報をシェアして、他館との連携・結びつきを大切にする。

報告のまとめ

デジタル化・電子化は

- ① 図書館の書架スペースを救うことができるか？
- ② 図書館の利用促進を救うことができるか？

問題提起

「図書館の書架スペースを救うことができるか？」

結論

**「デジタル化・電子化が図書館のスペース（狭隘化）を救う」
ことは難しい。**

【図書館内での障壁】

- 著作権（複製・公衆送信）
- 費用
 - デジタル化
 - サーバー設置
 - 維持
- 冊子と電子の入れ替え制度作り
- 除籍への理解（資産登録の意味で）

【電子書籍購入(出版社) の障壁】

- 刊行時期が古い本だから著者の電子化許諾が難しい
- 著者が電子化を許諾しない
- 底本からスキャンしないとイケないのでコストがかかる
- 翻訳本だから海外権利元への権利料の支払いが高額で難しい
- 図書館へ販売したくない
- 個人への電子書籍販売を優先しているので図書館には提供しない

問題提起

「図書館の利用促進を救うことができるか？」

結論

「図書館の利用促進へつながる。」

【利用者への定着を進める】

- OPACへの登録
- QRコードの掲載
- メリットを感じてもらう
 - 外国語の書籍を翻訳機能で読める →日本語の本を留学生にも読んでもらえる
 - 音声読み上げ機能がついている→ながら作業でも本を聞くことができる
 - キーワード検索ができる→必要な部分を探すことができるから時間の節約になる
 - コピペができる→論文やレポートで引用する際に便利

今後の課題は、「利用促進の基準を各大学がしっかりと議論すること」

最後に

このテーマは先行事例が少なく、アプローチ方法から考えるという貴重な経験をしました。

六人の少人数の研修でしたが、それぞれの大学の分野が偏ることもなく、幅広い事例を集め、お互いの図書館についての情報共有や話し合いをすることができました。

ですので、この研修報告がどこかの図書館の、誰かの悩みに少しでもお役に立てると幸いです。

2024年度私立大学図書館協会 東地区部会研究部スキルアップ研修 和漢古典籍コース研修報告

書誌作成における調査と同版/異版の推定について
— 「古文真宝」を例に

武蔵野美術大学美術館・図書館 西村 碧

研修の内容と日程

本研修は、第1回から第4回をzoomで、第5回から第8回を立正大学古書資料館で行った。 講師：小此木 敏明 先生

2024年

9月10日 第1回和漢古書の基礎知識 (zoom)

9月17日 第2回出版事項について (zoom)

9月24日 第3回タイトルと責任表示 (zoom)

10月1日 第4回巻数・版式の記録 (zoom)

10月8日、15日、22日、29日

第5～8回 工具書について・調書作成の実習・書誌の作成 (於 立正大学古書資料館)

書誌作成上の基本的確認事項

研修では、以下の1~4の基礎知識を実例とともに学んだ。
和漢古典籍の書誌作成にあたっては、実物を元に以下の作業を行う。

1. 調書の作成
2. 出版事項（出版地、出版者、出版年）の調査
3. タイトルと責任表示（編著者）の調査
4. 巻数・版式の確認

1. 調書の作成

研修では、書誌を作成する書物を仔細に調べ、調書の作成方法を学んだ。

・ 調書の記述項目 調書の作成にあたっては以下の点を記述する。

1. 表紙・題簽・装丁等
2. 見返し・扉（封面）・遊紙等
3. 序・目・凡例等
4. 巻首と署名
5. 版式
6. 巻尾
7. 跋・附録等
8. 刊記・奥付・奥書等
9. 書入れ・蔵書印・その他所見

他に、唐本/和本、漢籍/準漢籍/国書、漢文/和文、整版本/活字本（古活字、木活字、銅活字）、写本（鈔本）の区別など

2. 出版事項の調査

出版事項（出版地、出版者、出版年）の記述には以下の点を注意する。

- ・ 刊/印/修の区別 ※「刊」か「印」(修)のいずれか、あるいは両方を記述する。

刊 = 版木を製作すること。その書物が最初に印刷された時の出版年を指す。

印 = 印刷すること。「刊」以後に同じ版木で印刷したものは「印」。

修 = 版木に修正を加えること。

堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）の定義より

- ・ 刊記/奥付の確認

刊記 = 出版年月・出版地・出版者などを記したもの。本文や跋文に続けて記載。

奥付 = 本文・跋文とは別の丁に記された刊記。

3. タイトルと責任表示の調査

タイトルと責任表示の記述には以下の点を確認する。

- ・ 内題と外題の区別 ※内題と外題のいずれかからタイトルを記述する。

タイトルのうち、内題はできるだけ「巻首題」「目録題」から記述する。

「見返し題」「扉題」「巻尾題」から採用する場合もある。

外題は「題簽（刷り題簽）」「直刷り」から記述する。

- ・ 責任表示の確認

責任表示は「題簽」「見返し/扉」「巻首の下/巻首の次行」を確認する。

いずれにも記載がない場合は、「本文の奥書」「自序/自跋の末尾」その他を確認する。

4. 巻数・版式の記録

巻数と版式の記述には以下の点を確認する。

- ・ 書誌的巻数

和漢古書ではタイトルの一部として記録する。タイトルの後にスペースを入れて記録。

例. 魁本大字諸儒箋解古文眞寶前集 3巻

- ・ 版式

版式は本文の1丁目の版面を見ることを基本とする。

「行数と文字数」「匡郭の形式」「内匡郭の大きさ」「界線の有無」
「版心の情報」「本文（漢文/和文）」などを確認する。

書誌作成における調査と同版/異版の推定について—「古文真宝」を例に

- ・ 無刊記あるいは刊記の不完全な資料を例に、版面が酷似している資料3点の調査手順をまとめた。
- ・ これらを仮にA-1、A-2、A-3とし、研修で教わった調書作成と詳細な調査を通じ、書誌の作成を試みた。

也不可...
○流夜郎贈辛判官
昔在長安醉花柳五侯七貴同盃酒氣岸
前風流肯落他人後天子紅顏我少年
金鞭文章獻納麒麟殿
留玳瑁筵與君相謂長如此寧知草動風
忽敬馬胡馬來秦宮桃李向誰開我愁遠
日金雞放赦回
○醉後答丁十八以詩譏予搥碎黃鶴

唐中書令放赦日殪金雞
長七丈雞首銜絳幡七尺人

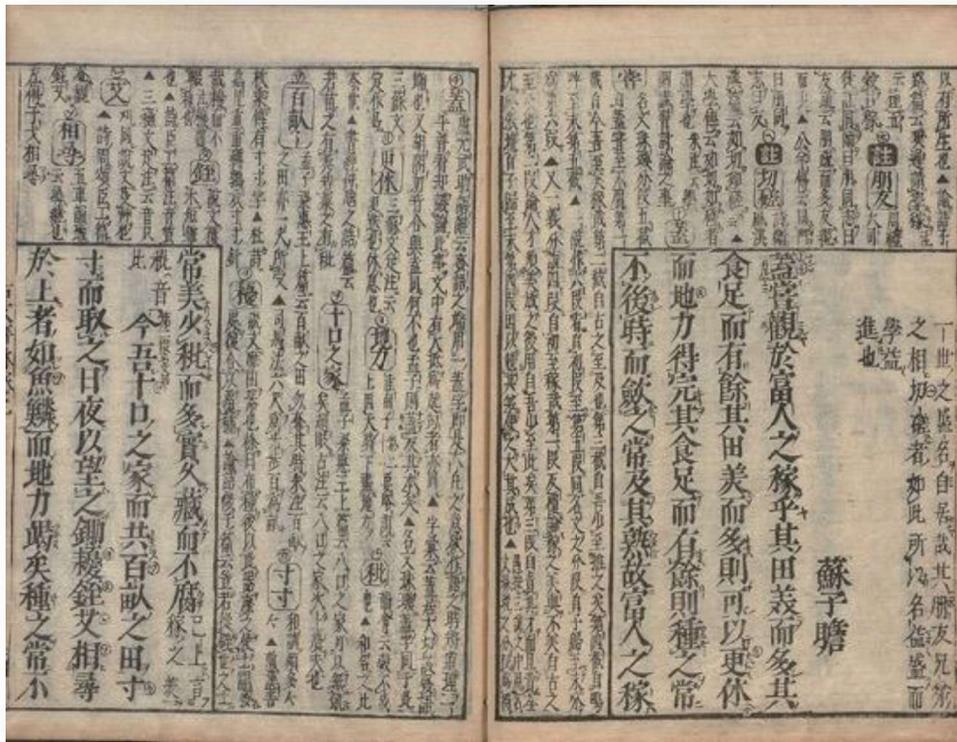
贈韋南陵詩 我且
君搥碎黃鶴樓

黃鶴高樓已搥碎
所依黃鶴上天
再雕飾
往來相
誰家子云是遼東

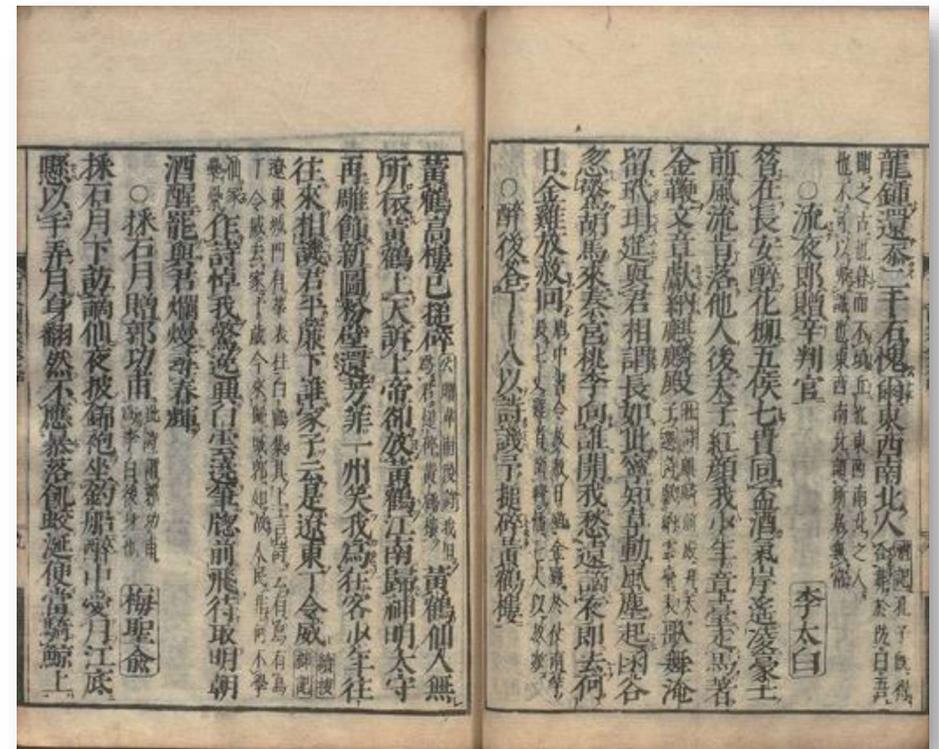
「古文真宝」とは

- 宋末から元初に黄堅が編纂したとされる漢籍のひとつ。
日本でもいわゆる「和刻本漢籍」として数多くの版本が出版された。
- 和刻本の「古文真宝」は、本文は漢文だが、多くは「白文」ではなく、「返点」「送仮名」「縦点」「句点」などが付されている。
- 「首書」「鼈頭（ごうとう）」「頭書」と呼ばれる、詳細な注釈が加えられた本も多い。
- 「前集」と「後集」からなるが、多くは別々に出版され、特に「後集」が多い。
- 南北朝時代から江戸時代を通じて出版されたロングセラーで、様々な書肆から多様な形態で出版された。

「古文真宝」の特徴



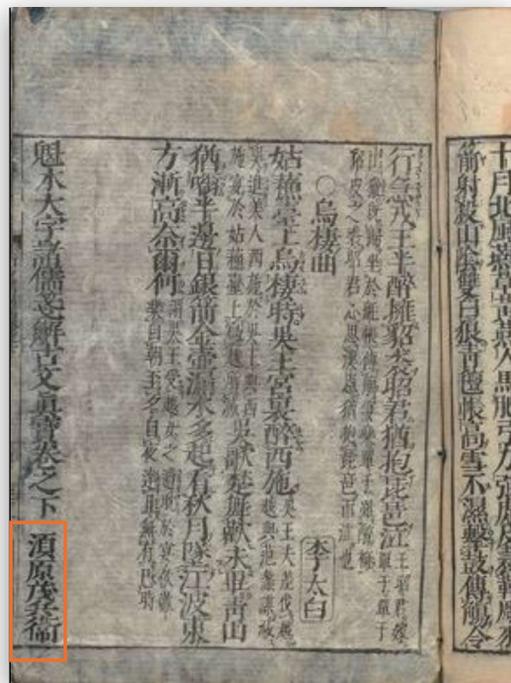
「首書」が本文の周囲に加えられたもの



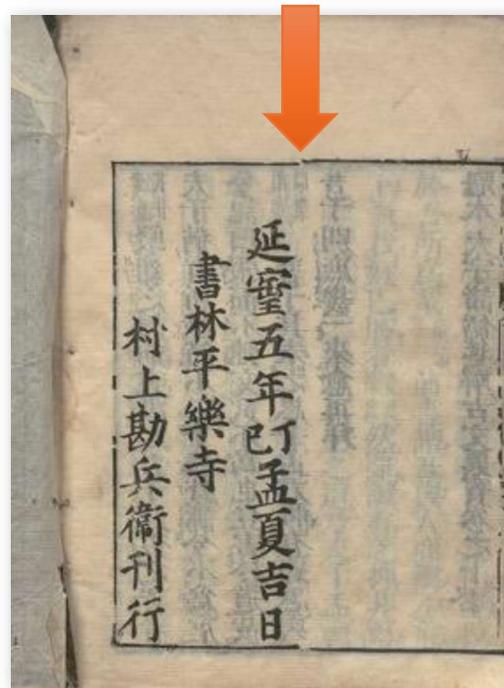
「返点」「送仮名」「縦点」「句点」等が本文に付加されたもの

資料調査・書誌作成上の課題となる点

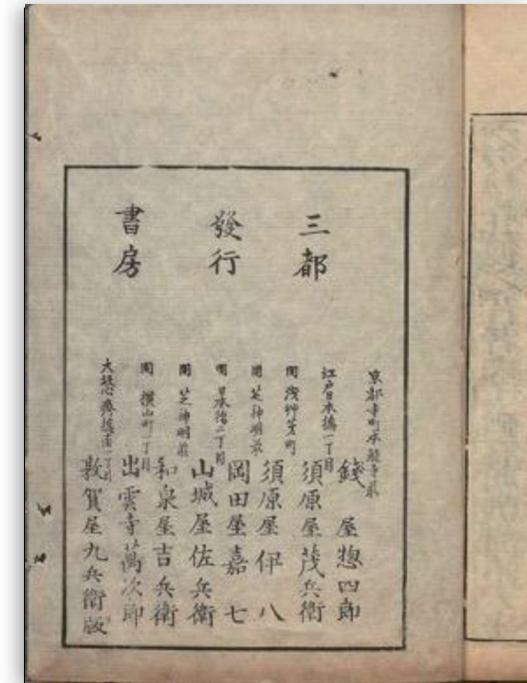
1. 無刊記本や刊年不明本、覆刻整版本が多い。
2. 版木を売買して同じ版を別の本屋から出版した本がある。
3. 刊記に本屋が連名で記され、主な板元を判断し難い本がある。



1. 刊年不明本
(巻尾に書肆名のもの)



2. 刊記の入れ木
(版木の刊記部分を訂正した跡が残る)



3. 付刊記
(多くは後ろ見返しにある)

1. 調書の記録 —書誌作成のための基本情報の収集

調書の作成にあたっては、書誌を作成する書物を調査し、以下の項目を記録した。

・ 調書の項目

1. 表紙・題簽・装丁等
2. 見返し・扉（封面）・遊紙等
3. 序・目・凡例等
4. 巻首と署名
5. 版式
6. 巻尾
7. 跋・附録等
8. 刊記・奥付・奥書等
9. 書入れ・蔵書印・その他所見

The form is a structured record for a book. It includes fields for:

- Title and Author:** 題名と著者 (Title and Author), 書名 (Book Title), 著者 (Author).
- Physical Description:** 冊数 (Number of Volumes), 版数 (Edition), 紙数 (Number of Pages), 寸法 (Dimensions).
- Content and Structure:** 目次 (Table of Contents), 凡例 (Glossary/Notes).
- Bibliographic Details:** 刊記 (Publication Record), 奥付 (Backmatter), 奥書 (Backmatter).
- Collection and Ownership:** 書入れ (Acquisition), 蔵書印 (Collection Stamp), 他所見 (Other Observations).

「古文真宝」の調書の例

1. 調書の記録 ―書誌作成のための基本情報の収集

調書には、表紙の様や色等の情報のほか、印記や奥書きなど、調査対象に固有の情報も多く含む。工具書やデータベースなど、さまざまなツールも用いて情報を記録した。



様々な蔵書印

天保十一年
三月米之

旧蔵者による書き入れ（所蔵識語）



表紙裏から確認した表紙の様と色

2. 出版事項の調査 — 刊記の確認と刊・印・修

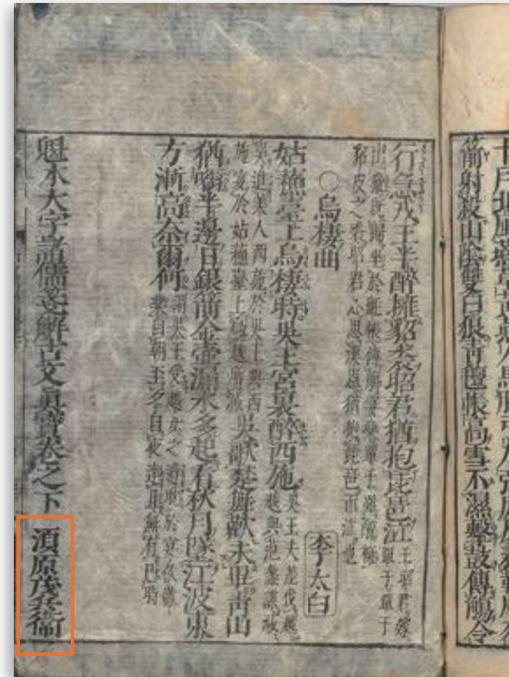
刊記の有無：A-1：なし、A-2：巻尾に「須原茂兵衛」とあり。

A-3：「貞享四年丁卯仲春出版/文化二年乙丑初冬補刻?/書林/江戸日本橋南一丁目/須原茂兵衛/大阪心齋橋通安堂寺町/大野木市兵衛/同/秋田屋太右衛門」とあり。

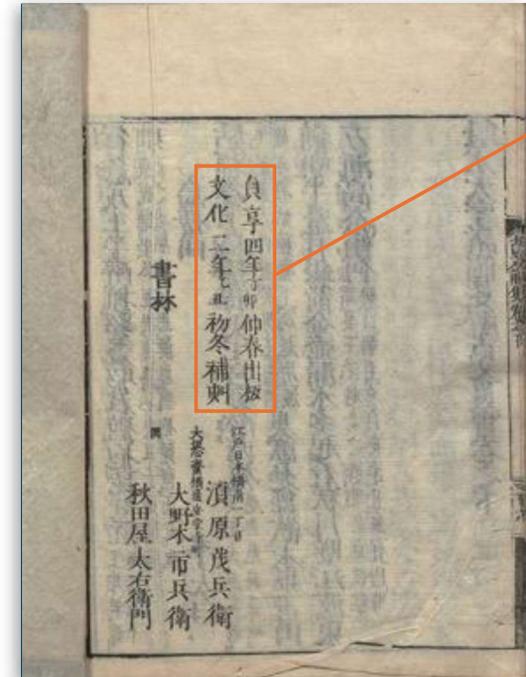
刊記の情報から把握できる、この時点での各冊の刊・印・修の関係は以下の通りとなる。



A-1 刊記有/無 刊・印・修



A-2 刊記有/無 刊・印・修



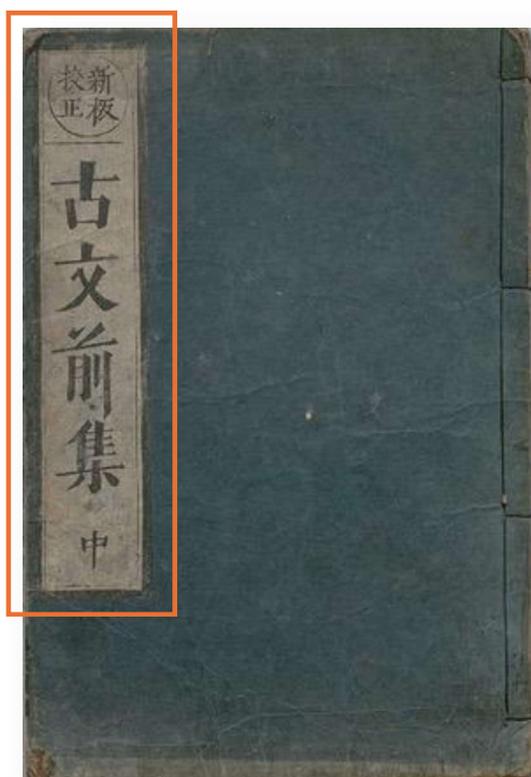
A-3 刊記有/無 刊・印・修

補刻

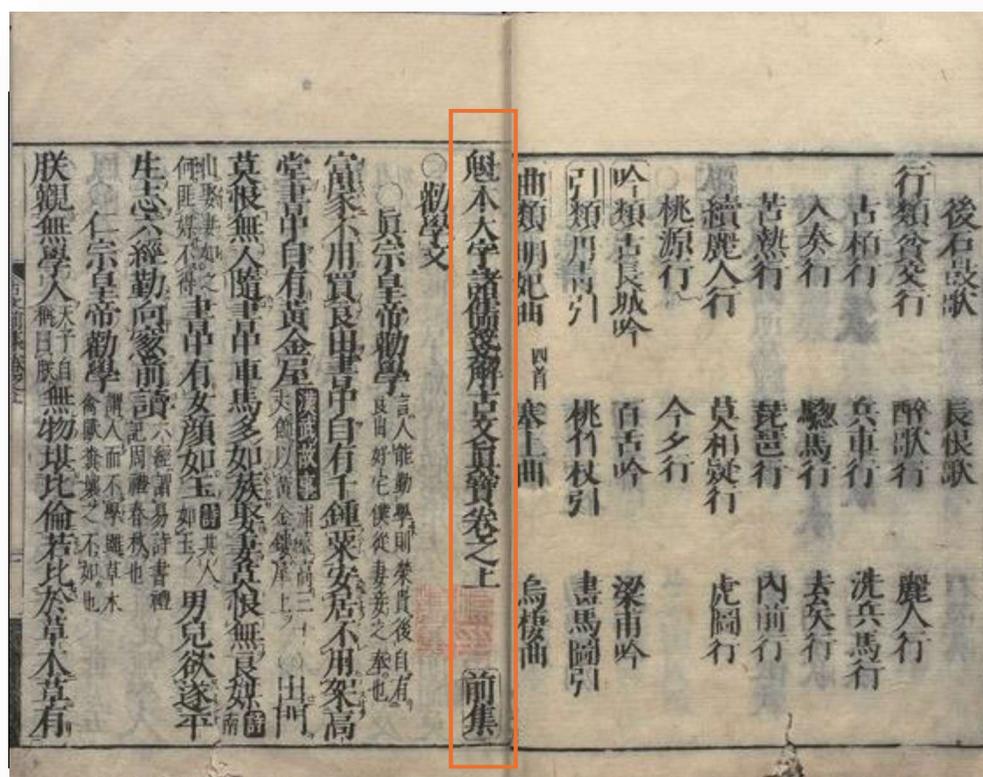
「修」を指す

3. タイトルと責任表示の調査 —タイトル採り方

書名の記録にあたっては、採用箇所を内題と外題で検証した。



外題：「題簽」の例



内題：「巻首題」の例

3. タイトルと責任表示の調査 —外題の確認

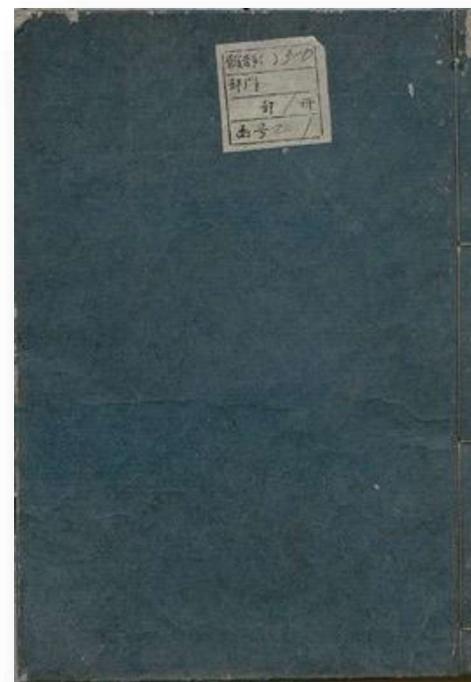
- ・ 外題は表紙の題簽を確認する。
- ・ 最近では外題からタイトルをとることも多いが、和刻本漢籍の外題は省略や不正確なものが多い。
- ・ 外題を完備しているのはA-2のみで、A-1は後補、A-3は外れていた。
→ 内題を採用することに決定



A-1 後補の書き題簽



A-2 刊行時の題簽

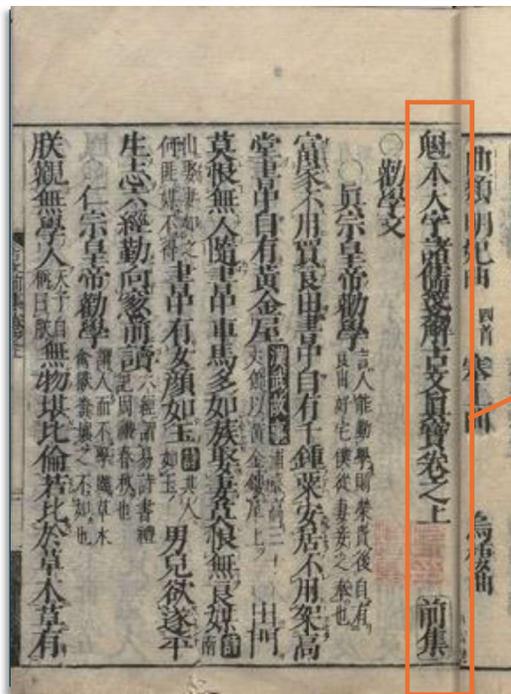


A-3 題簽欠け

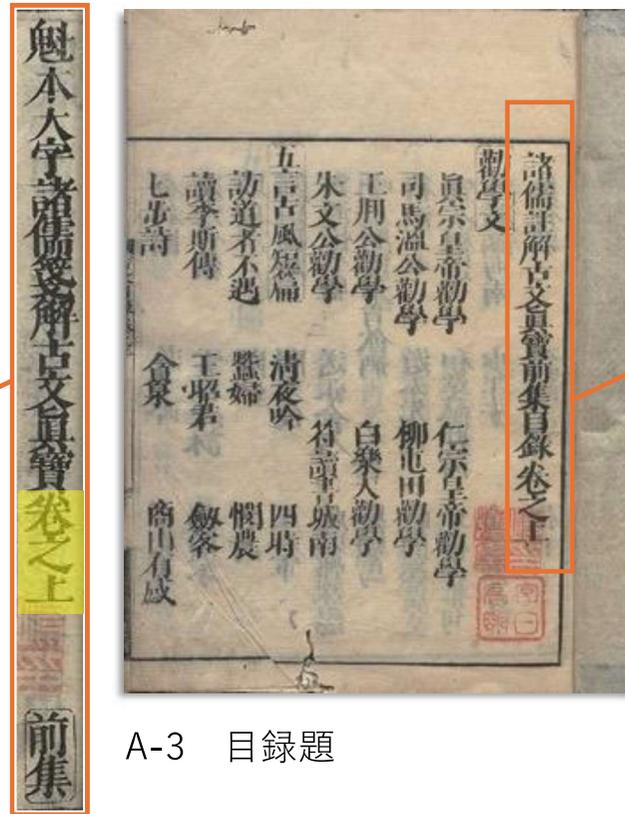
3. タイトルと責任表示の調査 —内題の記録

卷首題：魁本大字諸儒箋解古文眞寶卷之上 前集 → 3点とも同一
 目録題：諸儒註解古文眞寶前集目録卷上 → 3点とも同一
 卷尾題：魁本大字諸儒箋解古文眞寶卷之下 → 3点とも同一
 → 卷首題を優先 書名：魁本大字諸儒箋解古文眞寶前集

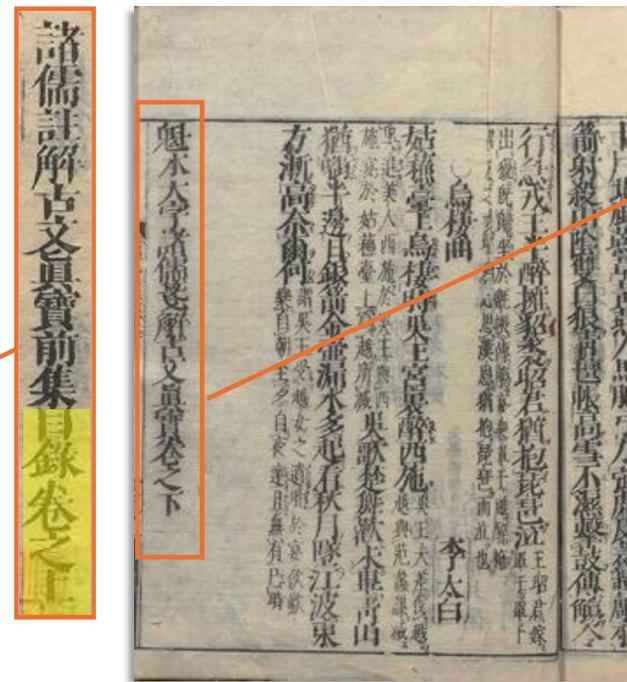
※黄色部分 はタイトルと関係がないため省略



A-3 卷首題



A-3 目録題



A-3 卷尾題



4. 卷数・版式の確認 — 基本的情報の記録

版式：四周単辺無界10行20字注文双行

版心：上白口下中黒口単黒魚尾 版心題：古文前集

丁数：卷之上：32丁、卷之中：31丁、卷之下：36丁

卷数：3巻（1冊）

→ 3点とも同一

→ 3点とも同一

→ 3点とも同一

→ 3点とも同一



版式



版心
(左からA-1・A-2・A-3)



A-2の版心（部分）

4. 巻数・版式の確認 —テキストの内容と配列の校合

- これまでの調査で記録した基本情報に加えテキストの内容と配列の校合を行った。
→ 3点とも基本的に同一
- 全丁にわたり匡郭の欠損や傷を比較した。→ 3点とも一致する点なし
→ A-1、A-2、A-3は「同版」ではなく「異版（覆刻）」であると推定



A-1 版面



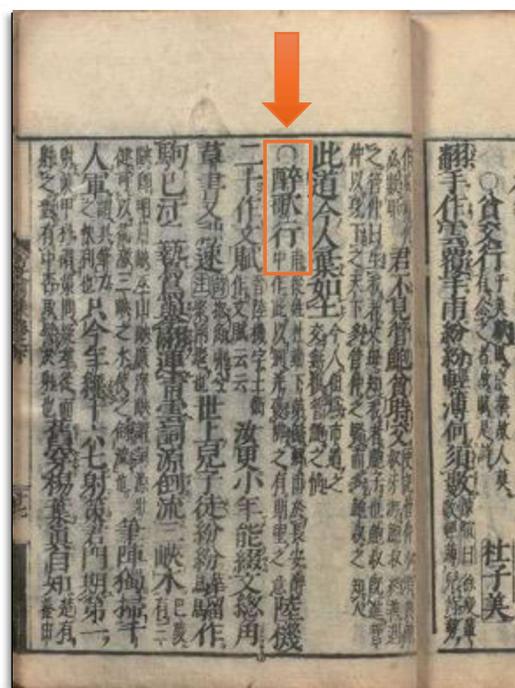
A-2 版面



A-3 版面

4. 巻数・版式の確認 —テキストの内容と配列の校合

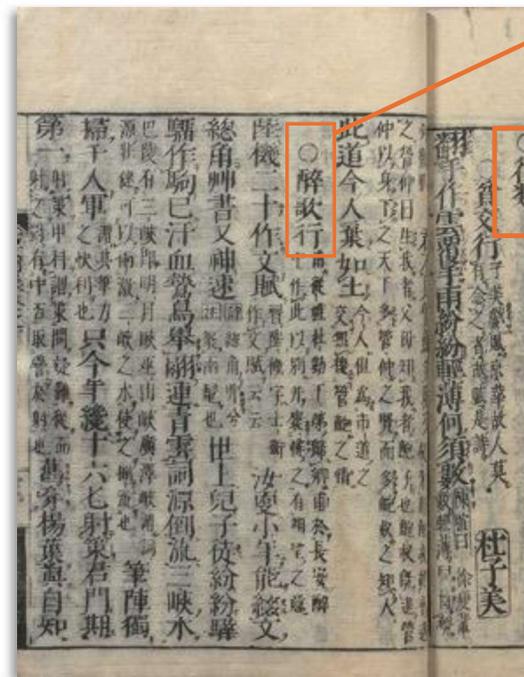
テキストの内容とその配列を校合したところ、A-1とA-2は完全に同一であった。また、これらをA-3と校合した結果、A-3は巻之下17丁目のみ全体が彫り直されていた。補刻の理由は、本来は「字下げ」する必要がある巻之下17丁目の「○酔歌行」が「字下げなし」となっていたため、A-3ではその部分を補訂、1丁全体を彫り直していることがわかった。



A-1 巻之下17丁目



A-2 巻之下17丁目



A-3 巻之下17丁目

章タイトルにあたる「○行類」は「字下げなし」
章の内容にあたる「○酔歌行」は「字下げあり」が正しい

4. 巻数・版式の確認 一同版/異版の判定

ここまで記録してきた情報に、さらに詳細な調査の結果を加えると、A-1、A-2、A-3の関係を以下のようにまとめることができる。

- ・ 出版者：A-1は不明、A-2とA-3は「須原茂兵衛」が同一。
- ・ テキスト：A-1とA-2は同一、A-3は字下げ処理のため1丁のみ配列が異なる。
- ・ 割注見出し：A-1は「陽刻」（白地に黒文字）A-2とA-3は「陰刻」（黒地に白文字）
- ・ 内匡郭寸法：大きく異なる。計測の結果は以下の通り。（縦×横cm）

A-1：21.0 × 17.0cm

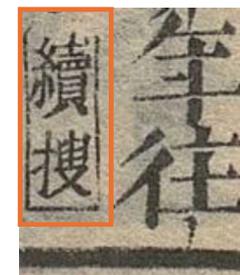
A-2：20.4 × 16.6cm

A-3：19.9 × 16.7cm

→縦寸法が5~10mmほど異なる

縦寸法の相違は、これらが「刊・印・修」の関係になく、覆刻されて縮んだ可能性を示唆するが、他の要因による縮みも考えられなくはない。そこで、これらが異版であることを証明するために、字形の相違を厳密に比較検証した。（例として「巻之中9丁目」の一部を右図に示した。）

A-1



割注見出し
|| 陽刻

A-2



割注見出し
|| 陰刻

A-3



4. 巻数・版式の確認 一同版/異版の判定

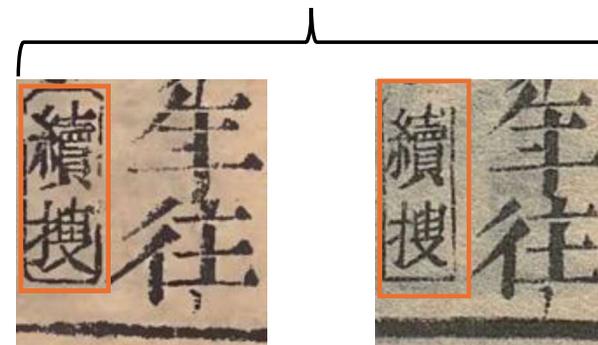
これまでの調査の結果を総合すると、以下のように結論づけることができる。
(あくまでも自館資料にもとづく推定。)

【結論】

- ・ A-1、A-2、A-3はそれぞれ「異版（覆刻）」である。
- ・ 系統としては、割注見出しの相違から①A-1、②A-2・A-3に二分され、概ね①→②の順に出版されたと推察される。

調査に当たっては、長澤規矩也『和刻本漢籍分類目録 増補補正版』（汲古書院、2006年）所収「版種目録 古文眞寶」の内、A1~A3と同じ10行20字本の情報を参照した。また、国立公文書館所蔵の元禄4年[1691]・磯野三郎右衛門版のデジタルアーカイブ画像（右図）を参考にした。<https://www.digital.archives.go.jp/file/1083057.html>

割中見出し「陽刻」 = 出版年代がより古いものと推定



元禄4年版

A-1

5. 調査を経て作成した書誌 A-3

A-3

TR:魁本大字諸儒箋解古文眞寶前集 3巻 / [(宋)黄堅撰]||カイホン ダイジ ショジュ センカイ コブン シンポウ ゼンシュウ

PUB:江戸：須原茂兵衛

大坂：大野木市兵衛：秋田屋太右衛門，文化2 [1805] [印]

PHYS:1冊；25.5×18.0cm

VT:OH:諸儒註解古文眞寶前集||ショジュ センカイ コブン シンポウ ゼンシュウ

VT:OH:古文前集||コブン ゼンシュウ

NOTE: 和漢古書につき記述対象資料毎に書誌レコード作成版本

NOTE:目録題: 諸儒註解古文眞寶前集

NOTE:版心題: 古文前集

NOTE:外題: なし (題簽欠)

NOTE:著者名: 「内閣文庫漢籍分類目録 改訂版」(内閣文庫, 1971年)より

NOTE:巻末に「貞享四年丁卯仲春出板 文化二年乙丑初冬補刻 書林 江戸日本橋南一丁目 須原茂兵衛 大坂心齋橋通安堂寺町 大野木市兵衛 同 秋田屋太右衛門」とあり

NOTE:貞享4[1687]刊の須原茂兵衛版の覆刻本。文化2[1805]の後修本 (本文全体を覆刻し、巻之下17丁目を補訂、この丁全体を別の版下から新刻してある。)

NOTE:四周単辺10行20字注文双行 内匡郭: 19.6×16.6cm

NOTE:上白口中黒口単黒魚尾

NOTE:訓点送仮名付

NOTE:印記: 「○○○○」, 「○○○○」

5. 調査を経て作成した書誌 A-2

A-2

TR:魁本大字諸儒箋解古文眞寶前集 3巻 / [(宋)黄堅撰]||カイホン ダイジ ショジュ センカイ コブン シンポウ ゼンシュウ

PUB:[江戸]:須原茂兵衛, 出版年不明

PHYS:1冊; 27.2×18.4cm

VT:OH:諸儒註解古文眞寶前集||ショジュ センカイ コブン シンポウ ゼンシュウ

VT:OH:新版校正古文前集||シンパン コウセイ コブン ゼンシュウ

NOTE:和漢古書につき記述対象資料毎に書誌レコード作成版本

NOTE:目録題:諸儒註解古文眞寶前集

NOTE:版心題:古文前集

NOTE:外題:新版校正古文前集

NOTE:著者名:「内閣文庫漢籍分類目録 改訂版」(内閣文庫, 1971年)より

NOTE:巻尾に「須原茂兵衛」とあり

NOTE:四周単辺10行20字注文双行 内匡郭: 20.4×16.6cm

NOTE:上白口中黒口単黒魚尾

NOTE:訓点送仮名付

NOTE:印記:「○○○○○○」

5. 調査を経て作成した書誌 A-1

A-1

TR:魁本大字諸儒箋解古文眞寶前集 3巻 / [(宋)黄堅撰]||カイホン ダイジ ショジュ センカイ コブン シンポウ ゼンシュウ

PUB:出版地不明，出版者不明，出版年不明

PHYS: 1冊 ; 27.0×18.8cm

VT:OH:諸儒註解古文眞寶前集||ショジュ センカイ コブン シンポウ ゼンシュウ

NOTE:古典籍につき記述対象資料毎に書誌作成版本

NOTE:目録題: 諸儒註解古文眞寶前集

NOTE:版心題: 古文前集

NOTE:外題: なし (題簽欠・後補書き題簽: 古文前集)

NOTE:著者名: 「内閣文庫漢籍分類目録 改訂版」(内閣文庫, 1971年)より

NOTE:四周単辺10行20字注文双行 内匡郭: 21×17cm

NOTE:上白口中黒口単黒魚尾

NOTE:訓点送仮名付

NOTE:印記: 「信州鶴吉葛島」

研修を終えて

- 和漢古典籍の書誌作成のために必要な基本的な情報のとり方を、基礎知識の学習と実地での応用の両面から学ぶことができた。
- 工具書やデジタルアーカイブなど、自館資料以外に活用できる様々なツールによって、情報を精査・確定していくスキルを身につけることができた。
- 和漢古典籍の書誌作成を通じて、和漢古書の魅力と奥深さを再認識し、今後の整理・活用の道筋を立てることができた。

※スライドに使用した画像はすべて武蔵野美術大学美術館・図書館の蔵書です。
同版/異版の区別と年代の推定は、あくまでも自館資料にもとづくものです。

和漢古典籍コース 研修報告

『江戸名所図会』を対象とした 多巻物の書誌事項について

学習院大学図書館
山脇 治

はじめに 『江戸名所図会』とは

- 整版本で出版された江戸とその近郊を収めた絵入りの地誌。
- 1834（天保5）年～1836（天保7年）に江戸で刊行された。七巻二十冊。
- 記事はすべて実地調査にもとづくもので、史料価値が高い。
- 挿絵も実地の写生にもとづく精緻な描写であり、当時の景観や風俗、行事を知る史料とされている。

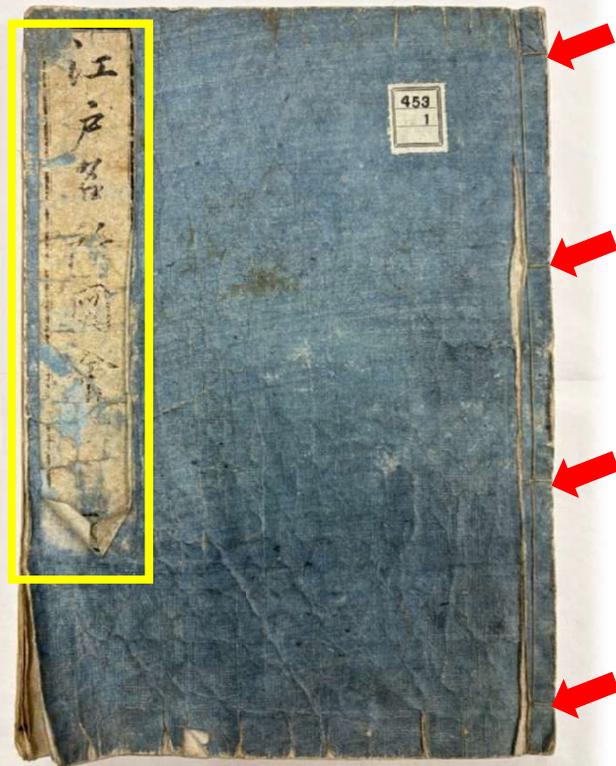
①表紙・題簽・装丁等



文様の拡大

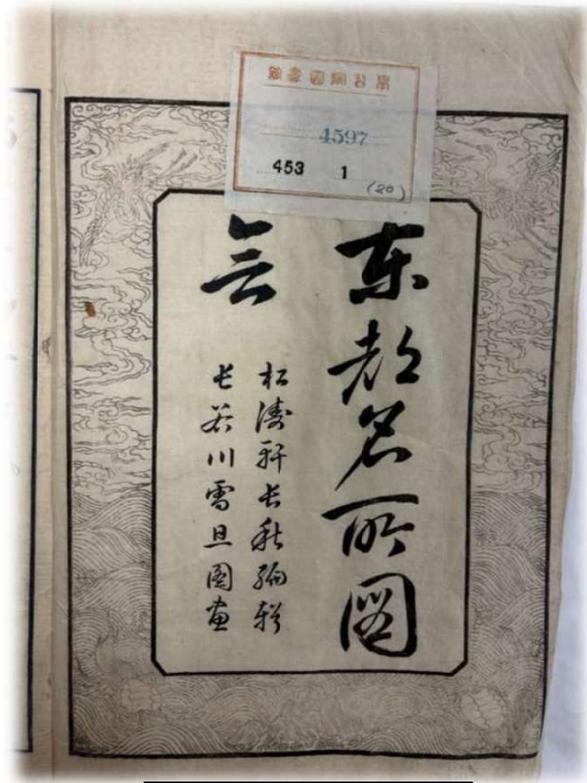
学習院大学図書館所蔵

- ・表紙（色・文様）：縹色・布目地に亀甲繋ぎ
- ・綴：四つ目綴
- ・題簽：「江戸名所図會 一（～二十）」（刷）
双辺黄紙



学習院大学図書館所蔵

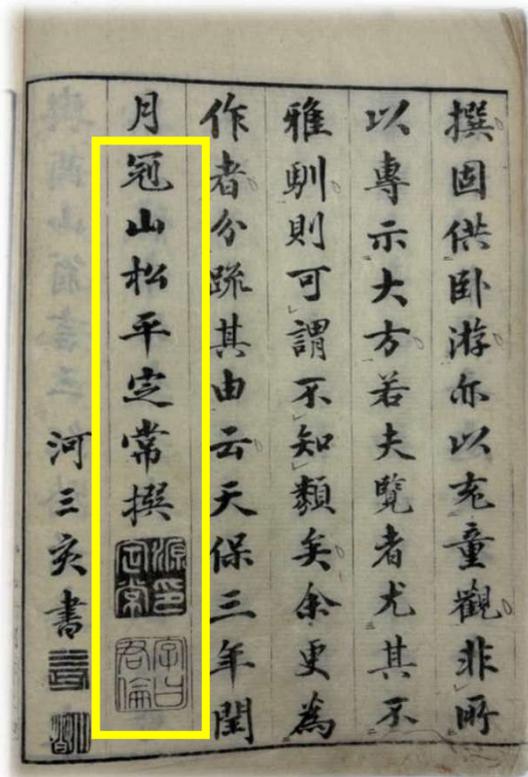
②見返し・扉（封面）・遊紙等



学習院大学図書館所蔵

- ・見返し：東都名所図会
（松涛軒長秋編輯／長谷川雪旦図画）

③序・目・凡例等

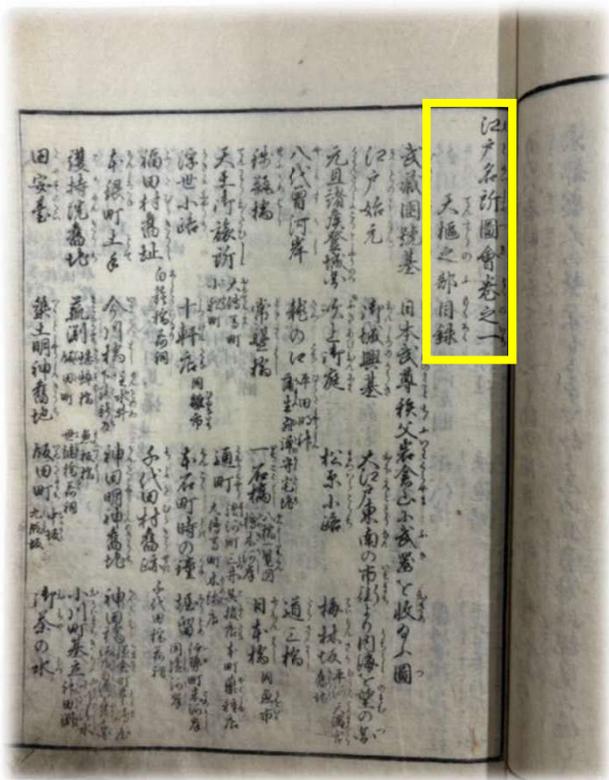


学習院大学図書館所蔵

各序の末尾（「序」の記載は丁付部分にあり）

1. 「天保三年閏月／冠山松平定常撰（刻印2）／河三実書（刻印2）」
2. 「天保癸巳春三月／江戸龜田長梓謹識／牧野信書（刻印2）」
3. 「天保三年といふとしの五月はしめかたをかの寛光」
4. 「十まり二とせといふとし松涛軒長秋しるす」

③序・目・凡例等



学習院大学図書館所蔵

5. 「凡例」

6. 「附言」 - 「齋藤月岑識」

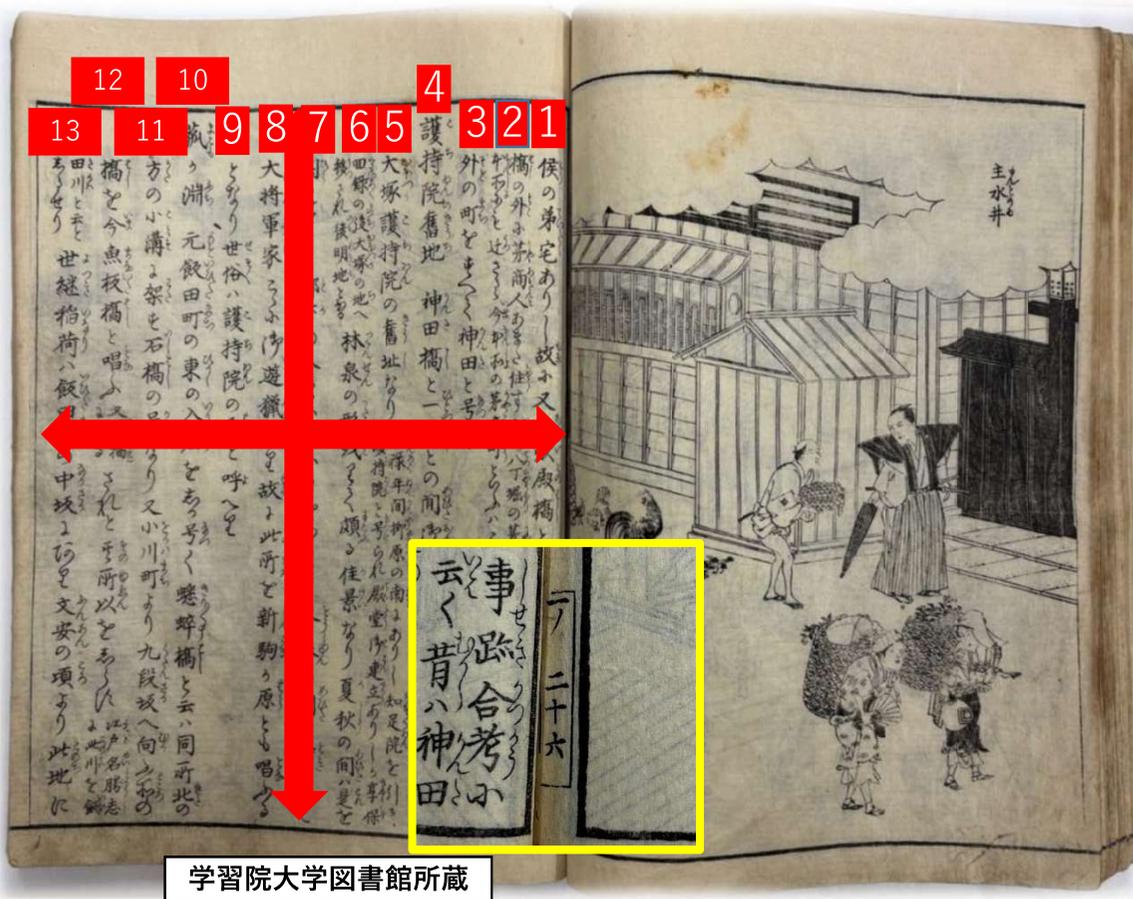
- 7. 「江戸名所圖會卷之一／天樞之部目録」 (第1冊)
- 「江戸名所圖會卷之二／天璇之部目録」 (第4冊)
- 「江戸名所圖會卷之三／天璣之部目録」 (第7冊)
- 「江戸名所圖會卷之四／天權之部目録」 (第11冊)
- 「江戸名所圖會卷之五／玉衡之部目録」 (第14冊)
- 「江戸名所圖會卷之六／開陽之部目録」 (第16冊)
- 「江戸名所圖會卷之七／搖光之部目録」 (第18冊)

卷之一：1-3冊、卷之二：4-6冊、卷之三：7-10冊、卷之四：11-13冊
 卷之五：14-15冊、卷之六：16-17冊、卷之七：18-20冊

④巻首と署名

- ・ 巻首：巻首題と編著者などの署名なし
→目首「江戸名所図會」を書名として採用
- ・ 書名ヨミ：エドメイショズエ

⑤版式



・ 版式：四周单边 無界 13行

首書：無

版心：白口 無魚尾

版心題：無

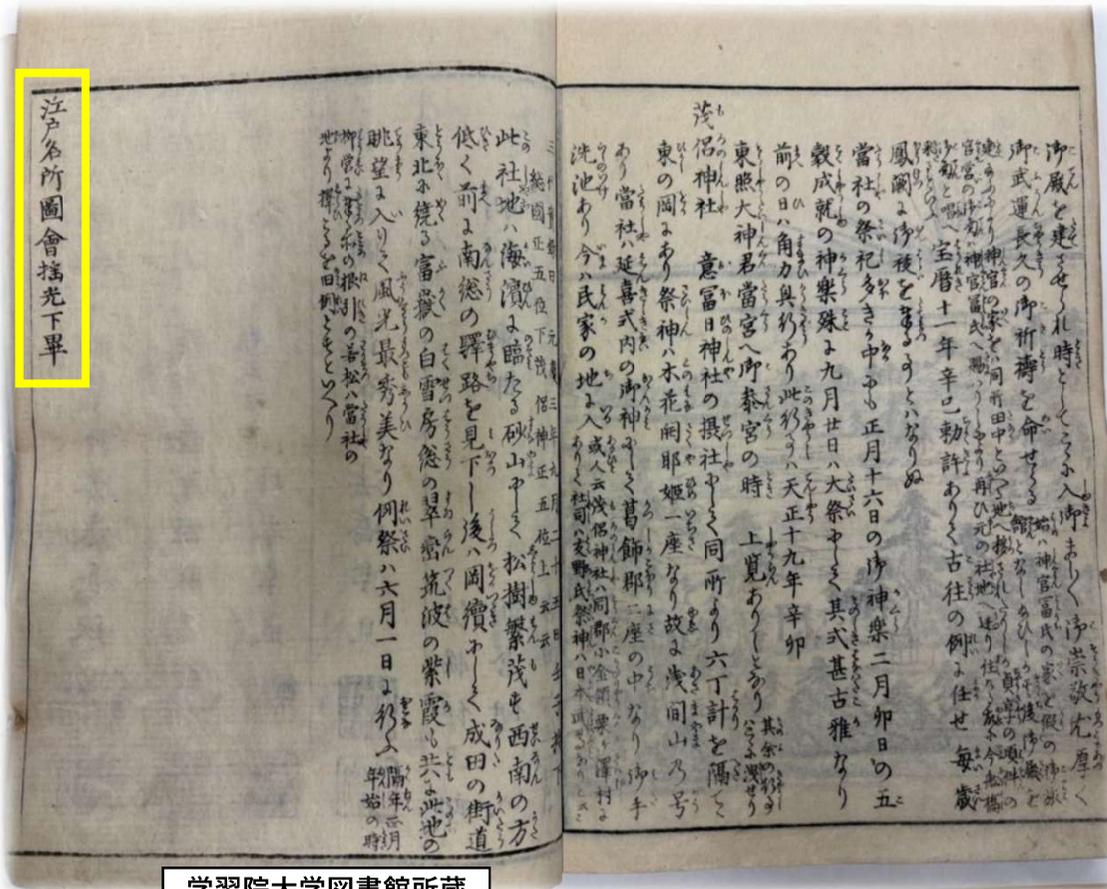
内匡郭：21.2×16.9糎

・ 本文：和文 平仮名漢字交じり
振り仮名あり

・ 版心注記事項：
巻次と丁付が版心になく、各丁裏の左下にある
(例) 「一ノ二十六」

・ 挿絵：有

⑥卷尾



「江戸名所圖會天樞之上畢」 (第2冊)
※欠号。立正大学古書資料館所蔵資料にて確認

「江戸名所圖會天樞下終」 (第3冊)

「江戸名所圖會天璇之卷」 (第4冊)

「江戸名所圖會天璇之卷終畢」 (第6冊)

「江戸名所圖會天璣之卷畢」 (第10冊)

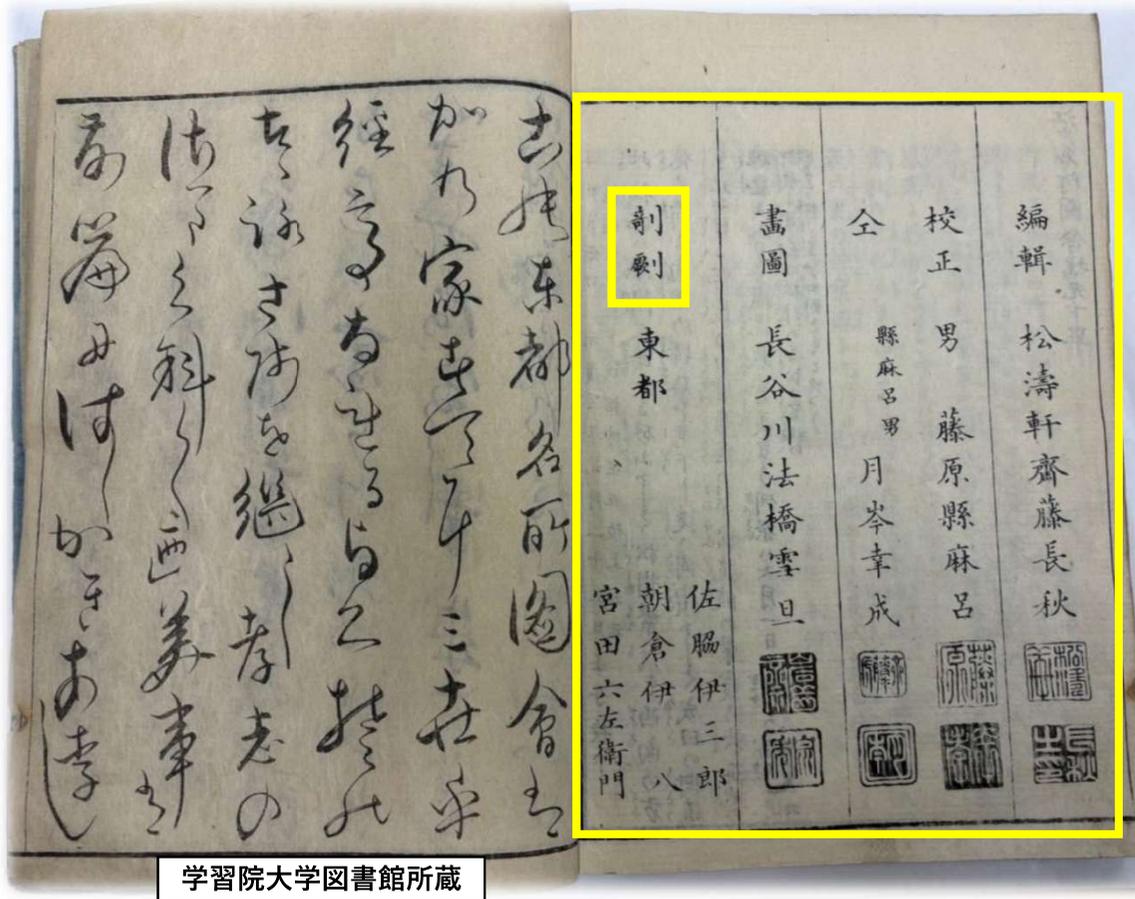
「江戸名所圖會天權之卷終畢」 (第13冊)

「江戸名所圖會玉衡之卷終畢」 (第15冊)

「江戸名所圖會開陽之卷終」 (第17冊)

「江戸名所圖會搖光下畢」 (第20冊)

⑦跋・附録等



学習院大学図書館所蔵

・第20冊跋文の前に編著者などの記載あり

編輯 松濤軒齋藤長秋 (刻印2)

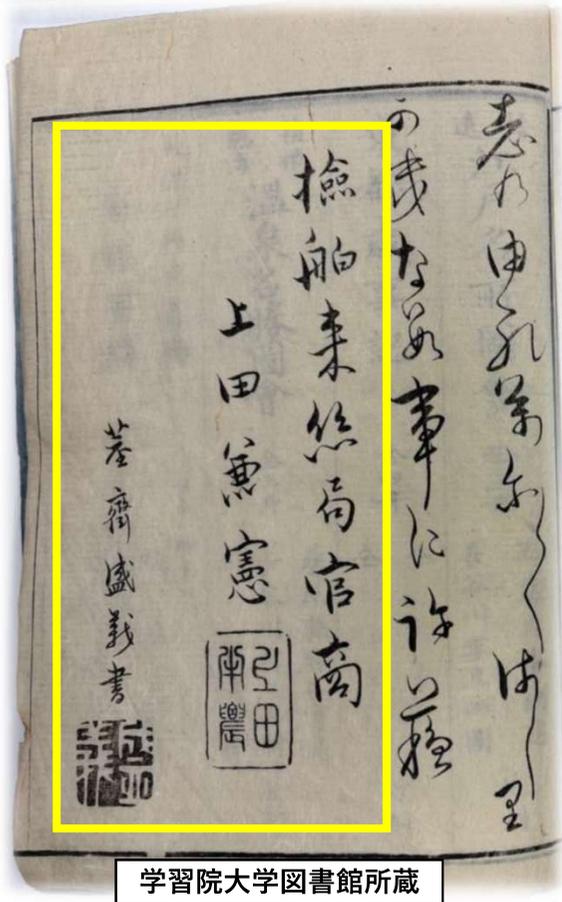
校正 男 藤原縣麻呂 (刻印2)

全 縣麻呂男 月岑幸成 (刻印2)

畫圖 長谷川法橋雪旦 (刻印2)

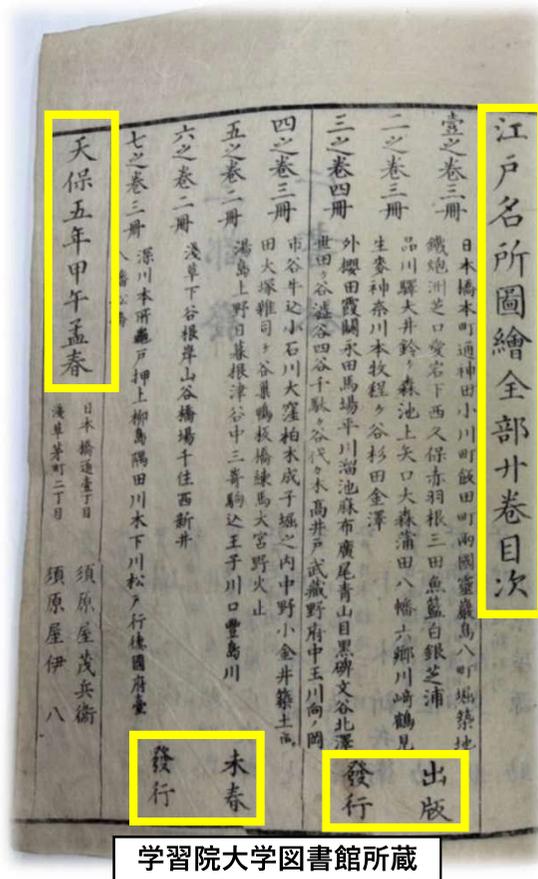
剞劂 東都 (佐脇伊三郎、朝倉伊八、宮田六左衛門)

⑦跋・附録等



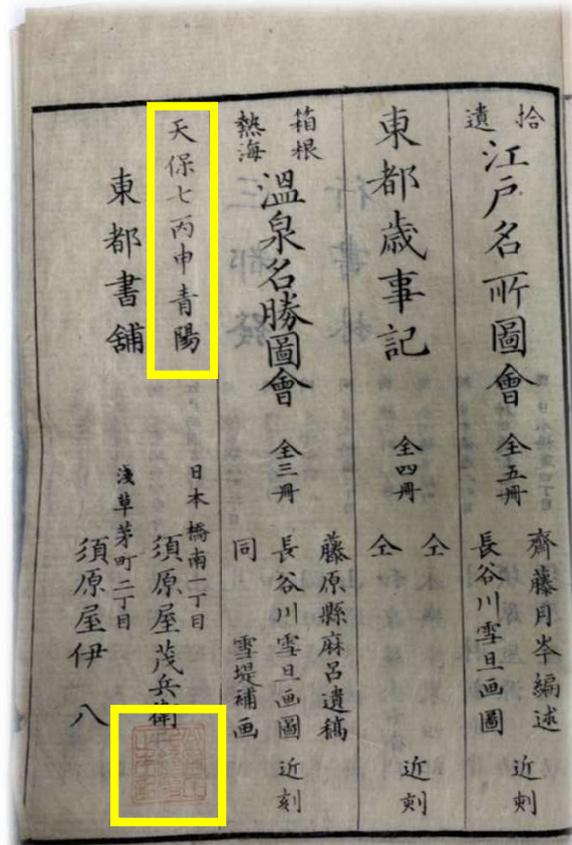
- (跋) - 「檢舶来絲局官商／上田兼憲（刻印1）／荃齋盛義書（刻印1）」

⑧刊記・奥付・奥書等



- ・ 第10冊末丁表に広告「江戸名所圖繪全部廿卷目次」あり
- ・ 「廿卷目次」に続けて刊記「天保五年甲午孟春（日本橋通壹町目 須原屋茂兵衛／淺草茅町二丁目 須原屋伊八）」
- ・ 四之卷～七之卷に対して「未春／發行」とあり
- ・ 第10冊末丁裏に「三都發行書林」（12書肆）あり

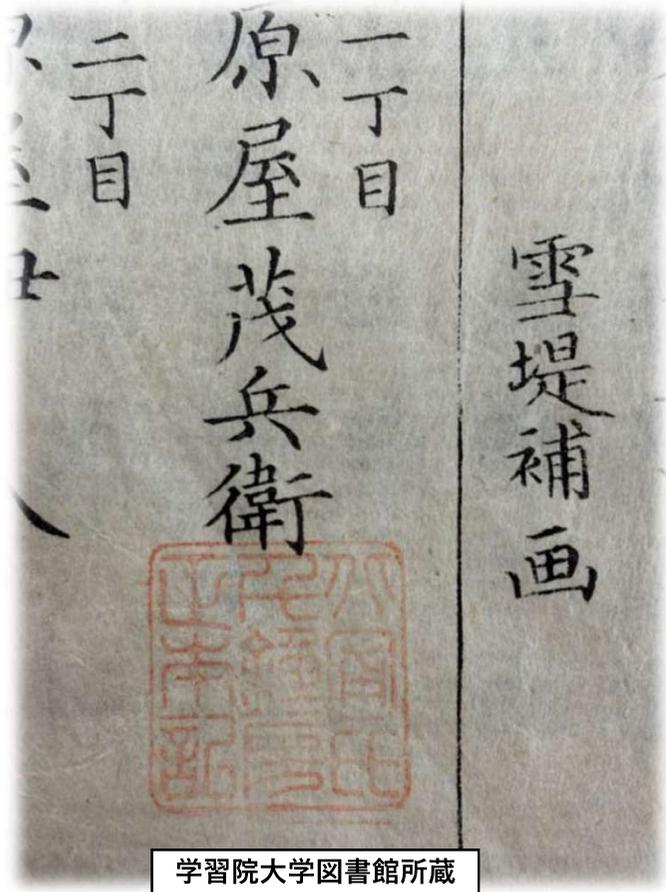
⑧刊記・奥付・奥書等



学習院大学図書館所蔵

- ・第20冊末丁表に刊記「天保七丙申青陽／東都書舗（日本橋南一丁目 須原屋茂兵衛（版元印）／浅草茅町二丁目 須原屋伊八）」
- ・刊記丁の裏に「三都發行書林」（13書肆）あり

⑨書入れ・蔵書印・その他所見



- ・版元印：「北圃氏千鐘房正本記」（陽刻朱印）
※北圃 = 北畠



まとめ

- ・『江戸名所図会』の書誌事項の確認は、立正大学の小此木先生よりいただいた研修資料（第1回 和漢古書の基礎知識、第2回 出版事項について、第3回 タイトルと責任表示、第4回 巻数・版式の記録）及び各回の講義や実習経験を基に作業を進めました。
- ・和漢古典籍については、同じタイトルでも異なる版が多く出版されている場合があります。手順に沿って書誌事項を確認して、利用者が求める資料と同定した上で提供する必要がありますので、研修内容を業務に活かします。

参考文献

- 丸山伸彦編『日本史色彩事典』吉川弘文館，2012，416p.
- 小川剛生，中野真麻理編『表紙文様集成』国文学研究資料館，2004，116p.（調査研究報告，第25号別冊）
* PDF (<https://www.nijl.ac.jp/pages/images/hyousimonyou.pdf>)
- 井上隆明『近世書林板元總覽』改訂増補，青裳堂書店，1998，920p.（日本書誌学大系，76）
- 蓑毛政雄編『必携篆書印譜字典』柏書房，1991，527p.

- “江戸名所図会”，日本大百科全書（ニッポニカ）. SHOGAKUKAN. <https://japanknowledge.com/library/>,（参照 2024-12-06）
- “江戸名所図会”，国史大辞典. Yoshikawa Kobunkan. <https://japanknowledge.com/library/>,（参照 2024-12-06）
- “斎藤長秋”，日本人名大辞典. Kodansha. <https://japanknowledge.com/library/>,（参照 2024-12-06）
- “斎藤県麿”，日本人名大辞典. Kodansha. <https://japanknowledge.com/library/>,（参照 2024-12-06）
- “斎藤月岑”，日本人名大辞典. Kodansha. <https://japanknowledge.com/library/>,（参照 2024-12-06）
- “斎藤月岑”，国史大辞典. Yoshikawa Kobunkan. <https://japanknowledge.com/library/>,（参照 2024-12-06）
- “池田定常”，日本人名大辞典. Kodansha. <https://japanknowledge.com/library/>,（参照 2024-12-06）
- “須原屋茂兵衛”，日本人名大辞典. Kodansha. <https://japanknowledge.com/library/>,（参照 2024-12-06）
- “須原屋茂兵衛”，国史大辞典. Yoshikawa Kobunkan. <https://japanknowledge.com/library/>,（参照 2024-12-06）



2024年度研修報告 スキルアップ研修 電子リソースコース

私立大学図書館協会東地区部会研究部
研修報告大会
2024年12月13日(金)



スキルアップ研修 電子リソースコースについて

《講師》 吉野 知義 氏
(神田外語大学・大学図書館支援機構)

《形式》 オンライン

《受講者数》 20名

《開催日》 全6回 : 5/28, 6/25, 7/30, 8/27, 9/24, 10/29

《質問応答の共有手段》 コミュニケーションシート

内容

- ・電子リソースに特有の資料管理、コレクション形成、契約管理、技術的課題などについて、それらの成り立ちを含めた解説
- ・学内運用・利用促進に向けて展望を開けるよう、受講者相互の意見・情報交換

到達目標

- 電子リソースについて、種類や成り立ち、紙の資料とは異なる技術的な側面、利用促進や効率的な管理方法、価格高騰対策などを全体的に理解する
- 図書館での導入や運用に役立てるようになることを目的とする

各回のスケジュール

第1回(5/28): 電子リソースの種類と成り立ち

- ・電子リソースの成り立ち
- ・他の図書館資料との違いと関係性

第2回(6/25): 電子リソースの流通とビジネス

- ・学術情報流通の中での電子リソース
- ・Open Access化までの経緯と今後
- ・電子書籍と出版ビジネス

第3回(7/30): 電子リソースに関わる技術

- ・電子リソース利用環境の基礎技術
- ・アクセスするための技術(認証など)
- ・資料や個人を特定する技術

第4回(8/27): 電子リソースの管理

- ・契約の種類と形態について
- ・利用統計(COUNTERなど)の理解と活用
- ・ERMS(電子リソース管理システム)の展開

第5回(9/24): 電子リソースの課題と活用

- ・学内での利用促進について
- ・価格高騰への対応について
- ・Open Access化の今後

第6回(10/29): 電子リソースの運用

- ・電子リソース運用に必要なスキル
- ・情報収集の重要性について
- ・全体の振り返り

第1回： 電子リソースの種類と成り立ち

【講義内容】

- ・電子リソースの成り立ち
- ・アイスブレイク
- ・他の図書館資料との違いと関係性
(→各電子リソースの種類について理解を深める)

今回の講義で対象となる電子リソース
(インターネット/Webで利用できるリソース)

電子ジャーナル
(有料)

Open Access
も含む

電子書籍
(有料)

無料公開
も含む

データベース
(有料)

公的サービス
も含む

第1回:電子リソースの種類と成り立ち

電子リソースとは…

電子ジャーナル、電子書籍、データベース等の、インターネット/Webで利用できる資料であって、有料もしくは無料で利用できる資料

電子リソースのメリット・デメリット

メリット: 時間や場所を選ばず利用できる/リンクをたどれる/Web・ITを活用できる

デメリット: 管理方法が確立されていない/変化が激しい/冊子体と異なる利用方法

課題

国内ではNIIへの依存が大きい/NACSIS-CATでの対応ができない

電子リソースの変化

新しい技術の採用/新しい機能の追加/システム統合/データの増減/画面構成の変更

第1回:電子リソースの種類と成り立ち

第1回の講義を受講しての気づき

- ・他大学の図書館でも同じ様な電子ジャーナルについての悩みを抱えていることがわかった。
- ・電子ジャーナルを契約するうえで、予算については図書館職員の立場と予算管理者とで良くすり合わせをしなければならない。
- ・電子リソースを一括りにしても、様々な種類や得られる情報の違いがあるので、図書館職員もよく理解をしておかなければならない。

第2回： 電子リソースの流通とビジネス

【講義内容】ビジネスの流れ

電子リソースの販売ルートパターン

- ①販売代理店経由
→総代理店・指定代理店・一般代理店
- ②直販(出版社・ベンダーによる直販)
- ③販売代理店・直販の併用

学術情報
の寡占

第2回：電子リソースの流通とビジネス

【講義内容】電子リソースの成り立ち

電子書籍

データベース

電子ジャーナル

洋 書→EBSCO ebook Central・

ProQuest ebook Central等

和 書→KinoDen・Maruzen eBook Library等

提供者→出版社・アグリゲータ

第2回:電子リソースの流通とビジネス

【講義内容】電子リソースの成り立ち

電子書籍

データベース

電子ジャーナル

- ・データベースとは、複数の関連する情報を組織的に集め、効率的に管理・検索できる電子的な情報の集合体
- ・紙媒体→オンラインデータベース
→CD-ROM→Webデータベースへと進化

第2回：電子リソースの流通とビジネス

【講義内容】電子リソースの成り立ち

電子書籍

データベース

電子ジャーナル

- ・電子ジャーナルとは、主に学術論文が掲載されている学術雑誌・論文誌が電子化されたもの
- ・1995年頃から本格化、当初は冊子購入のおまけだった

第2回：電子リソースの流通とビジネス



【講義内容】電子ジャーナルを中心とした学術情報流通

- ・価格高騰
- ・シリアルズクライシス
- ・冊子からの移行
- ・ビッグディール契約
- ・オープンアクセス
- ・転換契約



コンソーシアム



第3回： 電子リソースに関わる技術

【講義内容】

電子リソースが便利に使える背景にある技術を理解する。

- ・インターネットの仕組み
- ・アクセスするための技術
 - ・認証方法
 - ・リモートアクセス(学外からのアクセス)
- ・特定するための技術
 - ・資料を特定する技術
 - ・人を特定する技術

第3回:電子リソースに関わる技術

【講義内容】

- インターネットの仕組み
 - ・IPアドレス、URL、DNS
- アクセスするための技術
 - ・認証(IP認証・ID/PW認証)
 - ・リモートアクセス(VPN、Proxy、SAML)
- 特定するための技術
 - ・資料を特定する技術(DOI、OpenURL)
 - ・人を特定する技術(ORCID)

第3回:電子リソースに関わる技術

【講義を受講しての気づき】

- ・ 電子リソースが便利に使える背景にあるインターネットの仕組みとアクセスするための技術や資料や人を特定するための技術について種類や特徴を知ることができた。
- ・ 標準規格の専門用語の意味と最新の技術動向を学ぶことができた。
- ・ 技術の活用によりデータの精度が増し、研究者の業績の可視化が促進されることが理解できた。

第3回:電子リソースに関わる技術

【まとめ】

- ・電子リソースに関わる技術には、アクセスするための技術、資料や個人を特定するための技術がある。
- ・これらの技術を活用し、研究業績がより活用されやすくなる。



第4回： 電子リソースの管理

【講義内容】

1. 契約の種類と形態
 2. 利用統計の理解と活用
 3. ERMS(電子リソース管理システム)の展開
- 

第4回:電子リソースの管理

1. 契約の種類と形態

電子リソースの中でも特に電子ジャーナルに関しては
多種多様な契約モデルがある

- 契約更新時の注意点など

→効率的な管理が課題

- リバースチャージ

第4回:電子リソースの管理

2. 利用統計の理解と活用

COUNTER=電子リソースの利用統計を比較検討しやすいように
国際標準化したもの

- COUNTERレポートの種類
- 統計データの活用方法

ジャーナル契約見直しの資料、図書館広報への活用

第4回:電子リソースの管理

3. ERMSの展開

ERMS＝電子リソース管理システム

- ERMSでなにができるか

電子リソースの管理(これまで)
図書館システム以外で個別に管理

- 契約管理はExcelなど
- 利用条件は、図書館Webサイト
- 購読タイトル管理はリンクリゾルバなど



電子リソースの管理(ERMS)
図書館システムで一元的な管理が可能

- 契約管理はNII電子リソース共有サービスと連携
- 利用条件は、上記からOPAC等に連携
- 購読タイトルの管理はERMSまたはリンクリゾルバと連携

- NII電子リソース共有サービスの状況
各サービスの内容、公開状況



第5回： 電子リソースの課題と活用

【講義内容】

1. 学内での利用促進について
 2. 価格高騰への対応について
 3. Open Access化の今後
- 

第5回：電子リソースの課題と活用

1. 学内での利用促進について（電子書籍・電子ジャーナル・DB）

電子リソースは場所を選ばずどこでも使えるメリットがある一方、存在が目に見えないため利用者への利用促進が課題

各大学の 取組み

- 図書館ガイダンスで紹介
 - ベンダー、外部講師による説明会
 - QRコードを記載したブックレットの配布
 - メールのご案内だけではなく、チラシにQRコードを付けて掲示
 - 館内展示の実施
 - ガチャガチャイベント
 - QRコードを書架に掲示
- など

第5回：電子リソースの課題と活用

2. 価格高騰への対応について

→電子資料契約の見直しの動き

【事例紹介】

- 大型パッケージ契約→個別タイトル契約
- PPV(ペーパービュー)の導入
- ILL無償化=ILLでの論文入手の推進
- DDS(ドキュメントデリバリーサービス)の導入

DDSの例) REPRINTS DESK、Rapid ILL

第5回：電子リソースの課題と活用

3. Open Access (オープンアクセス) 化の今後

- オープンアクセス＝文献がインターネット上において無料で利用可能な状態

ゴールドOA	ゴールドOAは、APC(論文投稿料)を支払う等により、ジャーナルのオープンアクセスオプションを選択し、論文を出版と同時にオープンアクセスにする
グリーンOA	大学等が構築・運用する機関リポジトリ等で論文をオープンアクセス化

- オープンアクセス加速化事業について
- オープンアクセス方針(ポリシー)策定の必要性
- オープンアクセスが進むと・・・

ジャーナル購読費用が減少する一方、APC費用は上昇の可能性



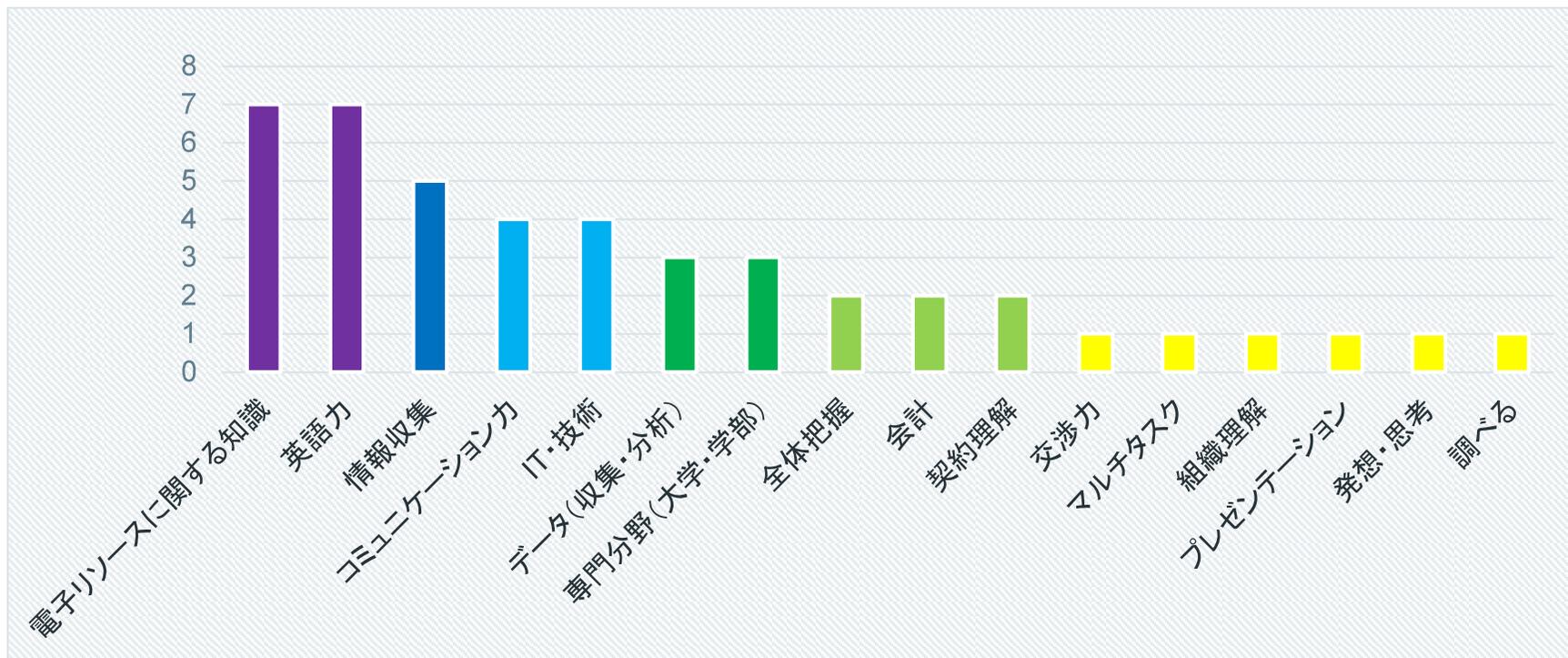
第6回： 電子リソースの運用

【講義内容】

- 電子リソース運用に必要なスキル
 - 教職員への取り組み
 - 情報収集の重要性について
- 

第6回：電子リソースの運用

電子リソースの運用に必要なスキル



第6回：電子リソースの運用

教員、職員の取り組み

教員 向け

- ・図書館委員会で、電子リソースを説明して利用促進の協力を依頼
- ・授業内での学生対象の講習会で、教員にも電子リソースの紹介
- ・図書館WEBサイトにて講習会の案内
- ・授業支援システムにて電子リソースリストを公開
- ・教職員も参加可能な電子リソース講習会を外部講師を呼んで実施
- ・研究室単位で、分野特化の講習会を開催し、録画を公開

職員 向け

- ・キャリアセンターへ、就活に活用できる電子リソースの紹介をしている
- ・職員へ一部の部署で役立つようなデータベースを選定し、講習会を実施

第6回：電子リソースの運用

情報収集の重要性について

図書館と電子リソースの価値向上のために必要なことは

- 業務に活かせる情報収集支援
- 業務資料の作り方支援
- 学内にIR部門がなければ率先して分析する

まとめ

- 電子リソースの歴史や関わるために必要な技術を理解し
電子リソースの課題を知り、その対応をどうしていくべきかを
他大学と情報を共有しながら、学んでいくことができた。
- 今も書籍のデジタル化やオープンアクセス化が進み
今後の変化を把握して、それに対応していくことが
図書館員には求められる。

私立大学図書館協会
東地区部会研究部

2024年度 研修報告大会
スキルアップ研修

機関リポジトリコース 研修報告

2024年12月13日(金)

2024年6月6日実施 第1回 学術情報流通とオープンアクセス

1. 学術雑誌
 - ・学術雑誌の4機能
2. 学術論文
 - ・引用
 - ・論文が学術雑誌に掲載されるまで
3. 学術雑誌の価格高騰
 - ・学術情報の流通不全
4. オープンアクセス
 - ・日本の政策的な動き
 - ・個々の動き
 - ・ゴールドオープンアクセス
 - ・APC

2024年7月11日実施 第2回 機関リポジトリ概論

1. グリーンOAを実現させるための機関リポジトリ
 - ・セルフアーカイブ
 - ・プレプリント
 - ・機関リポジトリとは
 - ・機関リポジトリの現状
2. 機関リポジトリのシステムまわり
 - ・OAI-PMH
 - ・IRDB
 - ・DOI
 - ・JAIRO Cloud
3. 機関リポジトリ業務担当者の役割
 - ・運用方針
 - ・システム選定
 - ・メタデータの設計
 - ・JPCOARスキーマ

2024年9月26日実施 第3回 担当者の役割と著作権

1. 機関リポジトリ業務担当者の役割

- ・運用方針
- ・システム選定
- ・メタデータの設計
- ・JPCOARスキーマ

2. 機関リポジトリと著作権

- ・著作権全般
- ・著作権ポリシー
- ・Creative Commons

3. グループディスカッション

2024年10月24日実施 第4回 リポジトリのコンテンツ収集

1. 人とサービスをつなげる

- ・リポジトリを伝える
- ・他部署との連携

2. 集める→集まる

3. 顧客を作る営業力

- ・研究者インタビュー
- ・研究室訪問

4. グループ発表

- ①リポジトリ業務の継承
- ②国の方針への対応
- ③リポジトリ充実のための戦略

グループディスカッションで挙げた様々な課題と解決策(1/2)

①リポジトリ業務の継承

- 業務の継承 vs 研究データの継承(「継承」の定義についての議論)
→大学図書館に配属される専任職員の異動のリスク、人材育成問題
【解決策】業務のマニュアル化、複数名対応、情報共有の大切さ
- リポジトリ・研究データを取り巻く技術革新のスピードについていけない
→システムのエラーなどへの対応、WEKO3の理解不足
【解決策】研修会への参加、WEKO3独特の用語などを集めたナレッジベースの参照など
- 他大学での情報を得ることが難しい
→気軽に情報交換できる場がない、JAIRO CloudのMLへ投稿する敷居の高さ問題
【解決策】他大学リポジトリ担当者とのヨコの繋がり強化・ネットワーク作り
- 組織的連携と論文登録から公開までの一連のフロー(仕組みづくり)が途上
→リポジトリの学内認知度が低い、自身の作業が研究データエコシステムの何を担っているのかが不明瞭
【解決策】他部署との連携を通じた「研究データ公開」の認知度UP、全体像の把握

グループディスカッションで挙げた様々な課題と解決策(2/2)

②国の方針への対応

●即時OA義務化対応

→具体的な対応方法まではまだ決まっていない

(対象論文の把握、学内への周知方法・時期、セルフアーカイブ実現に向けた方策etc.)

→公開対象論文の管理・運用を図書館で行うのか、他部署で行うのか

→他部署との連携が必要である認識はあるが、まだ話し合いが進んでいない状況

【解決策】大学全体での取り組みとして昇華させる、OAポリシー・リポジトリ運用指針の策定、即時OA対象論文の把握、他大学の先行事例を参考として検討する

③リポジトリ充実のための戦略

●コンテンツを増やすことがリポジトリの充実と定義

→どのように集めたら良いか？

【解決策】政府の即時OA化方針をきっかけとしたリポジトリ登録のメリット周知(教員の理解)

充実とは・・・

- 量的な増加（論文本数）
- 質的な向上（論文の内容）
- コンテンツの多様化（論文以外の研究データ等）
- アクセシビリティの向上（検索性・再利用性）

充実のための課題

①量的な増加(論文本数)

→研究時間の確保、資金、環境整備(学内広報含む)、制度設計

②質的な向上(論文の内容)

→研究時間の確保、資金、環境整備(学内広報・着想を得る機会含む)、制度設計

③コンテンツの多様化(論文以外の研究データ等)

→RDC(Research Data Cloud)の積極的な導入・活用

④アクセシビリティの向上(検索性・再利用性)

→利用者の観点から、どのような場面・ニーズでリポジトリを利用するのか検証が必要

課題の解決施策案

- 研究時間の確保、資金、環境整備(学内広報含む)、制度設計
- 研究時間の確保、資金、環境整備(学内広報・着想を得る機会含む)、制度設計
- RDC(Research Data Cloud)の積極的な導入・活用
- 利用者の観点から、どのような場面・ニーズでリポジトリを利用するのか検証が必要

① 教員(研究者)の負担軽減(事務的な作業、授業準備などの時間)

② 資金の確保(学生納付金・補助金だけでなく、ファンドレイジング活動を通じた資金獲得)

③ 優秀な研究者の確保(②が実現できれば研究者にインセンティブを与えることも可能)

④ 所属研究者・エンドユーザー双方の意見を積極的に取り入れ、アジャイル型運用を

(学術情報流通エコシステム)

スペイン高等科学研究所 (Consejo Superior de Investigaciones Cientificas) 「機関リポジトリ世界ランキング」

The screenshot shows the 'Ranking Web of Repositories' website. The main heading is 'RANKING WEB OF REPOSITORIES'. Below it, there are navigation tabs for 'HOME', 'NORTH AMERICA', 'LATIN AMERICA', 'EUROPE', 'ASIA', and 'AFRICA'. The current page is titled 'TRANSPARENT RANKINGS' and shows a search for 'INSTITUTIONAL REPOSITORIES'. The search results are displayed in a table with two columns: 'INSTITUTIONAL REPOSITORIES' and 'RECORDS GS'. The top two results are highlighted with red boxes: 'Smithsonian/NASA Astrophysics Data System' with 1,530,000 records and 'Kyoto University Research Information Repository' with 158,000 records.

INSTITUTIONAL REPOSITORIES	RECORDS GS
Smithsonian/NASA Astrophysics Data System	1530000
Archive ouverte HAL	747000
NASA Technical Reports Server	235000
Repositório Digital Universidade Federal do Rio Grande do Sul LUME	210000
Belarusian State University Digital Library	178000
Kyoto University Research Information Repository	158000
Jagiellonian University Repository / Repozytorium Uniwersytetu Jagiellońskiego	157000
Universitas Gadjah Mada Repository	139000
University of California eScholarship Repository	137000
Charles University Digital Repository	136000
CERN Document Server	133000

出典: <https://repositories.webometrics.info/en/institutional>

Smithsonian/NASA Astrophysics Data System



Classic Form **Modern Form** Paper Form

QUICK FIELD: Author First Author Abstract Year Fulltext All Search Terms



Recommendations

author

first author

abstract + title

year

year range

full text

publication

citations

Search examples

refereed

astronomy

exact search

institution

author count

record type

newly ingested

eprint

項目	内容
名称	Smithsonian/NASA Astrophysics Data System (ADS)
運用主体	ハーバード大学スミソニアン天体物理学センター(CfA: Harvard-Smithsonian Center for Astrophysics)
沿革	1994年に開設(プロトタイプの開発は1993年)。 初期は天文学分野の文献データベースとして構築され、現在は物理学や地球科学にも拡大。
目的	天文学、宇宙物理学、物理学、地球科学分野の研究者が文献を効率的に検索・活用できるよう支援する。 科学的発見や研究活動を促進するため、文献情報の整理とアクセスを提供。
主な特徴	<p>広範な文献データベース: 天文学、物理学、地球科学関連の学術論文、プレプリント、会議録、技術レポートなどを網羅。</p> <p>高機能検索: 著者名、タイトル、キーワード、DOI、ADS IDでの詳細検索が可能。</p> <p>引用・被引用分析: 文献の影響力や関連性を追跡可能。</p> <p>APIサポート: 外部ツールやプログラムによるデータアクセスを支援。</p> <p>フルテキストリンク: 出版社サイトやオープンアクセス資料へのリンクを提供。</p> <p>ユーザーフレンドリーなインターフェース: カスタマイズ可能な文献管理ツールを装備。</p>
対象分野	主に天文学、宇宙物理学。物理学や地球科学を含む関連科学分野。
資金提供主体	主にNASA(アメリカ航空宇宙局)が資金提供。 その他の支援: ハーバード大学、スミソニアン協会。
技術基盤	オープンソース技術を活用し、可用性とパフォーマンスを向上。 膨大な文献データを効率的に処理するためのクラウド技術とビッグデータ解析基盤。
対象ユーザー	天文学者、物理学者、地球科学者などの研究者、大学院生、教育者、ライブラリアン、科学者全般。
アクセス方法	無料で利用可能。登録なしでも文献検索可能だが、登録ユーザーにはカスタマイズ機能が提供される。
影響力	世界中の天文学者や関連分野の科学者にとって不可欠なツールとして機能。引用分析や研究トレンド分析に広く使用される。

QUICK FIELD:

「Mars」で検索

All Search Terms

Mars

Start New Search

Your search returned 97,364 results with 808,461 total citations

Collection astronomy physics

Citation Count

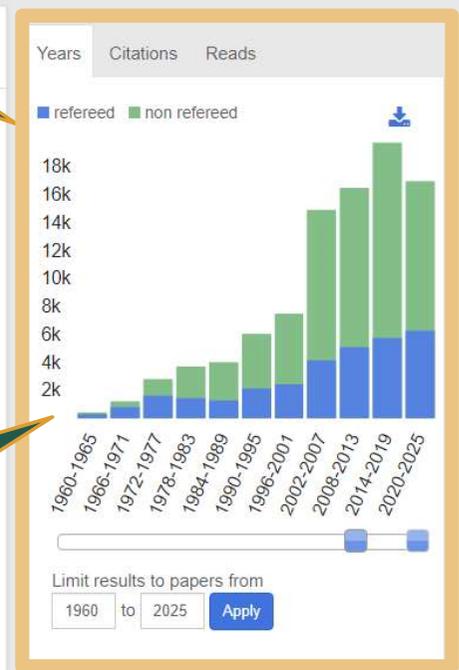
Export Explore

- AUTHORS
 - Head, J 1.2k
 - Forget, F 1k
 - Jakosky, B 994
 - Wiens, R 946
 - Bell, J 943
- COLLECTIONS
 - astronomy 87.1k
 - physics 34k
 - earthscience 31.3k
 - general 2.1k
- REFEREED
 - non-refereed 63.9k
 - refereed 33.4k
- INSTITUTIONS
- KEYWORDS
- PUBLICATIONS
- BIB GROUPS
- SIMBAD OBJECTS
- NED OBJECTS
- DATA

検索結果内の論文が発表された発行年ごとの分布を示すヒストグラム

- 2006Sci...312..400B 2006/04 cited: 1297
Global Mineralogical and Aqueous Mars History Derived from OMEGA/Mars Express Data
Bibring, Jean-Pierre; Langevin, Yves; Mustard, John F. and 43 more
- 2001JGR...10623689S 2001/10 cited: 1150
Mars Orbiter Laser Altimeter: Experiment summary after the first year of global mapping of Mars
Smith, David E.; Zuber, Maria T.; Frey, Herbert V. and 21 more
- 2007JGRE...112.5S02M 2007/05 cited: 1077
Mars Reconnaissance Orbiter's High Resolution Imaging Science Experiment (HiRISE)
McEwen, Alfred S.; Eliason, Eric M.; Bergstrom, James W. and 12 more
- 2011Natur.475..206W 2011/07 cited: 928
A low mass for Mars from Jupiter's e
Walsh, Kevin J.; Morbidelli, Alessandro
- 1996Sci...273..924M 1996/0
Search for Past Life on Mars: Poss
ALH84001
McKay, David S.; Gibson, Everett K., J
- 2000Sci...288.2330M 2000/0
Evidence for Recent Groundwater S
Malin, Michael C.; Edgett, Kenneth S.
- 1999JGR...10424155F 1999/10 cited: 880
Improved general circulation models of the Martian atmosphere from the surface to above 80 km
Forget, Francois; Hourdin, Frédéric; Fournier, Richard and 6 more

青色: 査読済み論文
緑色: 未査読論文



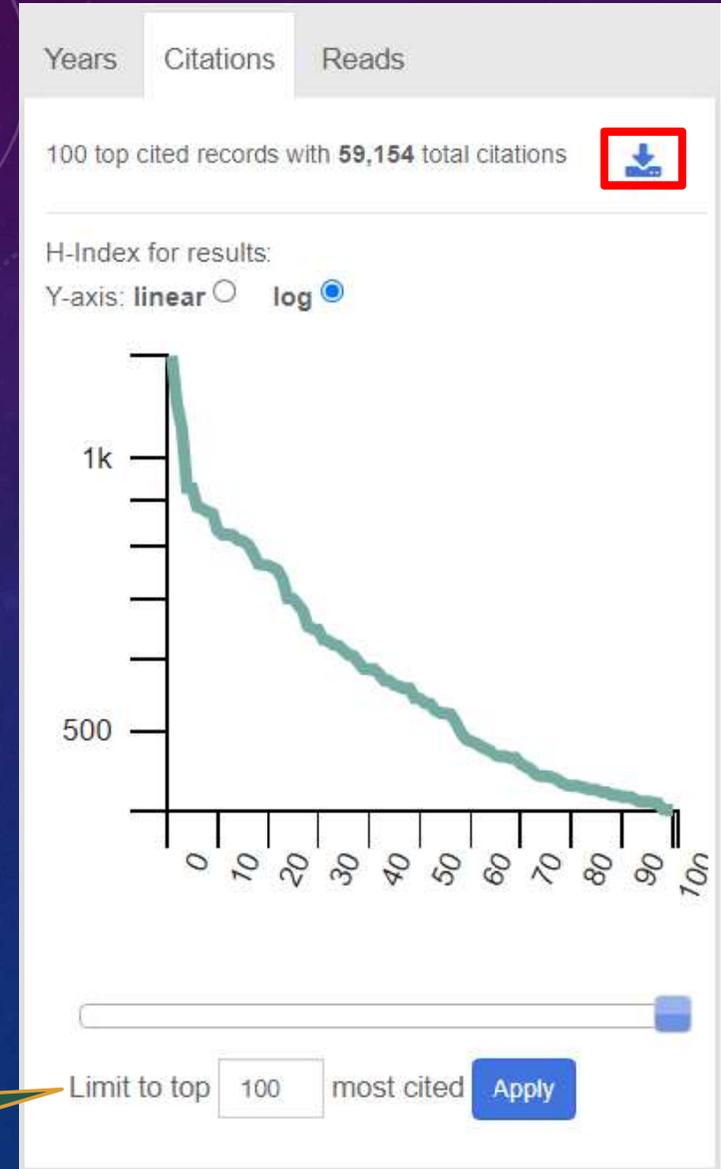
被引用回数の可視化

検索結果トップ100論文について、トータル59,154回引用されている
【参考】「Mars」の検索結果→97,364論文、総被引用回数808,461回

横軸 (X-axis): 論文の順位を表しており、最も被引用回数が多い論文が左端に位置(ランク1位)
右に行くほど、引用回数が少ない論文

縦軸 (Y-axis): 論文ごとの被引用回数

	A	B	C
1	Total	59154	
2	Article No.	Citations	Refereed
3	1	1297	undefined
4	2	1150	undefined
5	3	1077	undefined
6	4	928	undefined
7	5	927	undefined
8	6	884	undefined
9	7	880	undefined
10	8	873	undefined
11	9	869	undefined
12	10	833	undefined



検索結果のうち、被引用回数トップ100論文に絞って表示

Visualizations(可視化ツール)

①Citation Metrics

文献の被引用数や影響力を分析するためのメトリクスを可視化。

②Author Network

著者同士の共同研究関係をネットワーク図として表示。

③Paper Network

論文間の関連性(引用や被引用の関係)をネットワーク形式で視覚化。

④Concept Cloud

キーワードや概念を頻出度に基づいて視覚化し、研究トピックの傾向を把握可能。

⑤Results Graph

検索結果を時系列グラフなどの形式で表示し、発表の推移を可視化。

Operations(操作ツール)

⑥Co-reads

検索結果の文献と共に読まれることが多い文献を表示。

⑦Reviews

該当文献に関連するレビュー記事や参考資料を表示。

⑧Useful

ユーザーが「有用」と評価した文献をリスト化して表示。

⑨Similar

検索結果と類似性の高い論文や資料を表示。

[Visualizations](#)[Citation Metrics](#)[Author Network](#)[Paper Network](#)[Concept Cloud](#)[Results Graph](#)[Operations](#)[Co-reads](#)[Reviews](#)[Useful](#)[Similar](#)[Export](#)[Explore](#)

Author Network

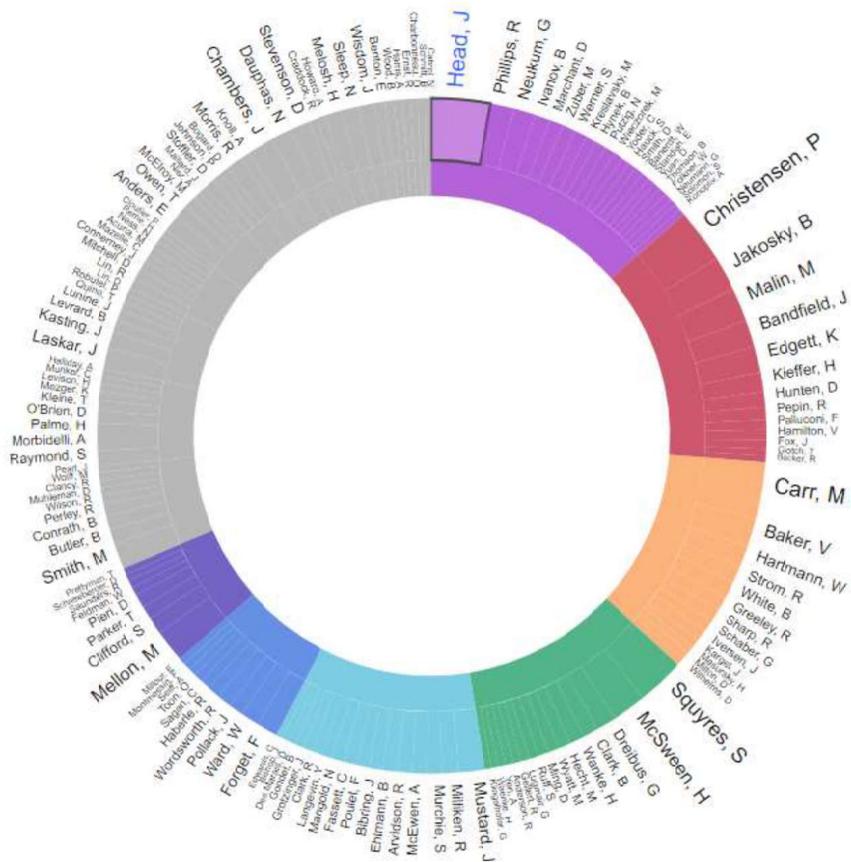
Currently viewing data for 400 papers.

Change to first papers (max is 1000).

検索結果内における著者間の協力関係やグループ構造を視覚的に表示するツールで、著者同士のつながりや研究のパターンを効率的に把握できる

Size wedges based on: Author Occurrences Paper Citations Paper Downloads

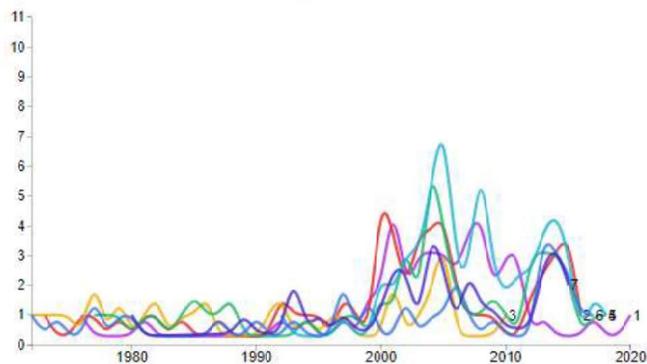
View Link Overlay



Author Network

This network visualization finds groups of authors within your search results. You can click on the segments to view the papers connected with a group or a particular author.

Group Activity Over Time (measured in papers published)



[Learn more about the author network.](#)

If you are interested in seeing the author network for another author, you can do that directly by clicking on the author in the ring visualization, then clicking the button at the top.

You can zoom and drag the visualization to reposition it.

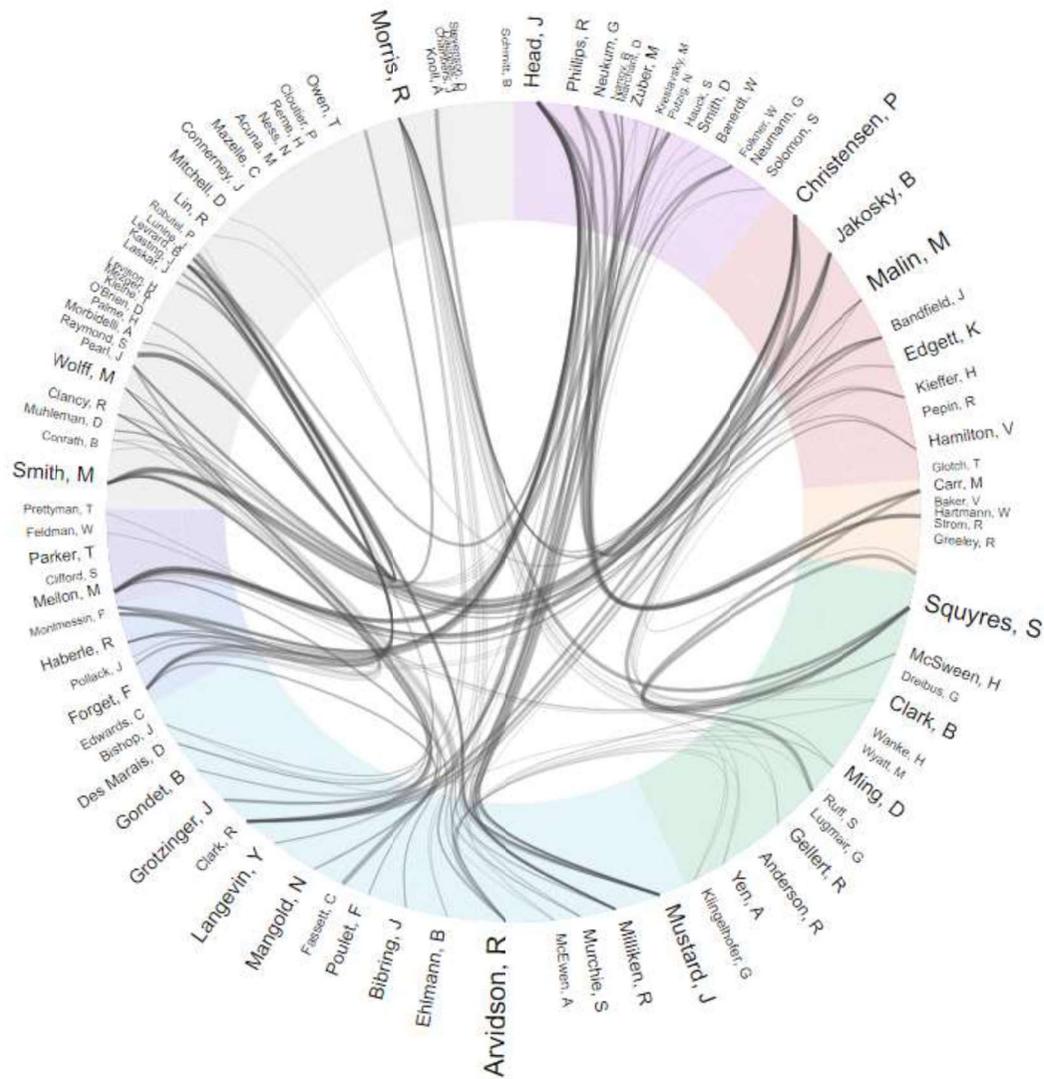
Size wedges based on:

Author Occurrences

Paper Citations

Paper Downloads

View Link Overlay



1.グループ間での協力関係を調べる

「view link overlay」ボックスをチェックすると、他のグループとも協力している著者を確認できる。

2.引用数の多い協力関係を特定する

「Size wedges based on」で「Paper Citations」を選択すると、引用数が多い協力関係が視覚化される。

可視化のメリット

研究グループの分析:

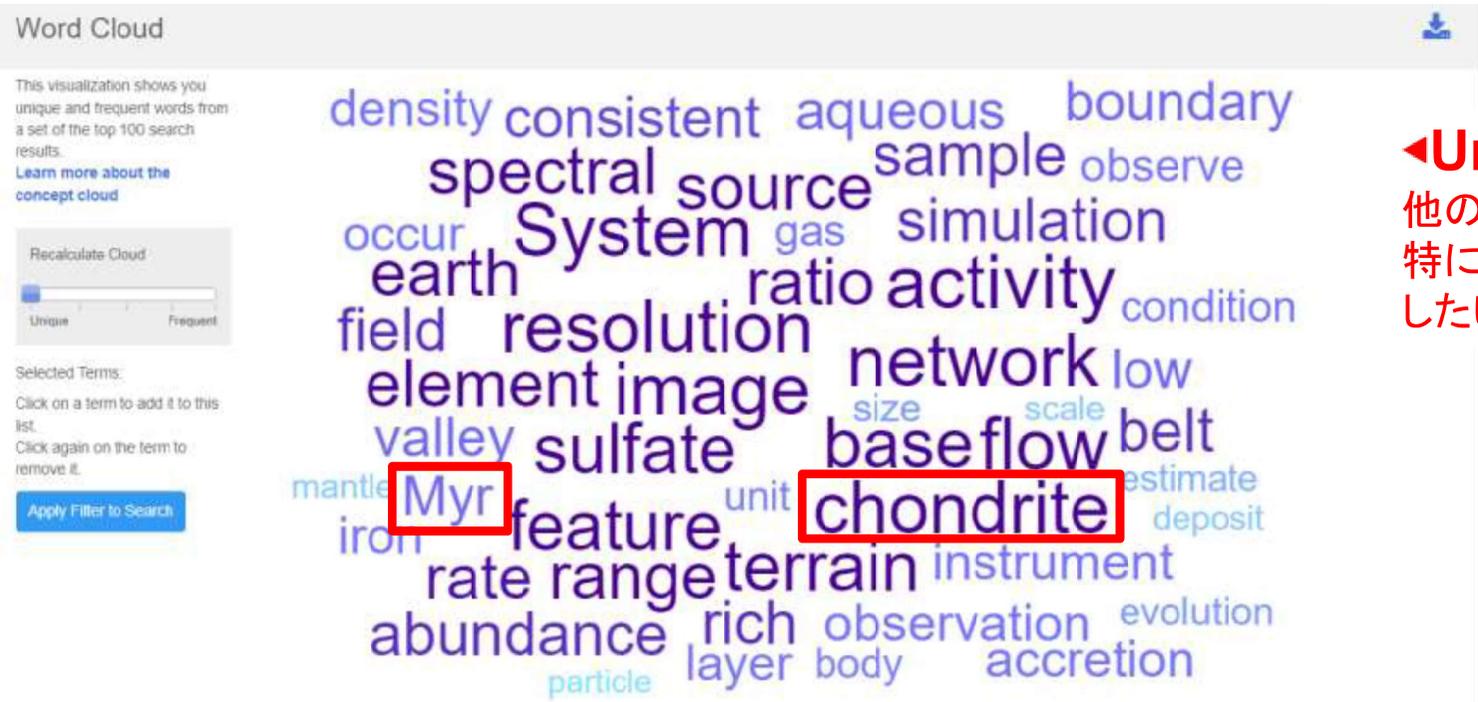
Author Networkを使うことで、特定の研究トピックや分野での主要な研究者とその協力関係を把握可能。

トレンドの特定:

どの著者グループが現在注目されているか、または最も引用されているかを特定できる。

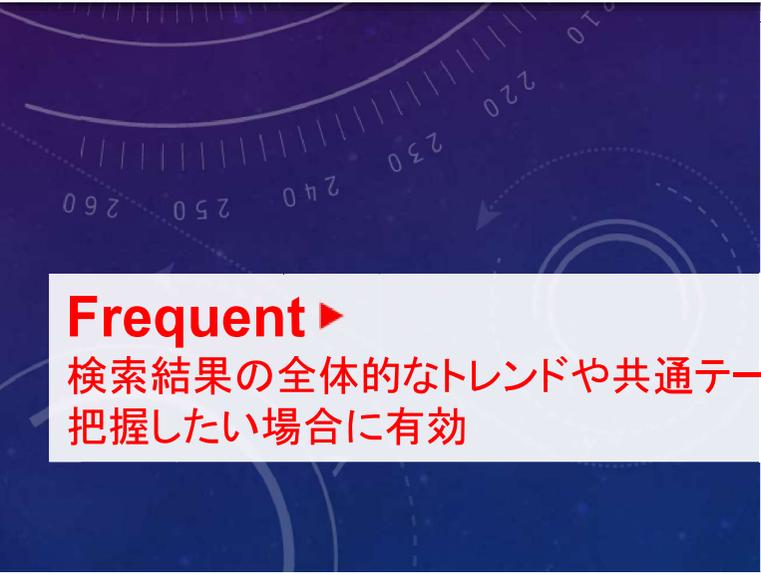
キャリアの可視化:

特定の著者がどのような共同研究を行い、どの分野で影響を与えているかを一目で確認できる。



◀Unique

他の検索結果との差別化を図りたい場合や、特にユニークな研究トピックやテーマを強調したい場合に有効



▶Frequent

検索結果の全体的なトレンドや共通テーマを把握したい場合に有効

スキルアップ研修2024 レファレンスコース報告

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修報告大会

2024年12月13日（金）

参加者（資料作成分担）

1. 総括 発表者：柏木綾（学習院大学）

小林言（武蔵大学），大西育生（洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学），関根由紀（東日本国際大学・いわき短期大学），村井瑛美（洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学）

2. レファレンス・ツール共同調査 発表者：三原由美子（順天堂大学）

水本啓右（専修大学），西田奈央子（駿河台大学），伊藤さやか（アール医療専門職大学），陶守智子（武蔵大学）

3. オンライン・レファレンス事例 発表者：高村麻美（専修大学）

遠藤有紀（新潟医療福祉大学），谷健一郎（聖徳大学），佐々木綾花（立正大学），佐山のの（慶應義塾大学），佐藤美早紀（國學院大學），堀越利里（東京女子大学）

第2回まで参加：大木舞（洗足学園音楽大学），第4回まで参加：手島善人（慶應義塾大学）

レファレンス研修の目標

参加者各自のレファレンススキルを鍛えるために...

1. ツールを使いこなして、エビデンスに基づいたレファレンスの力を養う
2. 利用者を知るために、レファレンスインタビューの方法を身につける
3. レファレンスツールの知識を広げる

図書館サービスのDX化への取り組み

オンライン・レファレンス事例調査

研修内容

	開催日	内容
第1回	6/14	<ul style="list-style-type: none">● 自己紹介● 高野真理子氏 講演「レファレンスで必要なスキル」, ディスカッション● レファレンスツール共同調査● オンライン・レファレンス事例研究に関する打ち合わせ
第2回	7/19	<ul style="list-style-type: none">● レファレンス・ツール共同調査①発表, 質疑応答● 講習・レファレンスインタビュー実習● オンライン・レファレンス事例研究について打ち合わせ
第3回	9/6	<ul style="list-style-type: none">● 眞喜志まり氏 講演「プロとしての情報検索」● レファレンス・ツール共同調査②発表● オンライン・レファレンス事例発表質疑応答
第4回	10/25	<ul style="list-style-type: none">● レファレンス・ツール共同調査③発表, 質疑応答● オンライン・レファレンス事例発表● オンライン・レファレンス事例のまとめ, 報告大会発表分担決め
第5回	11/22	<ul style="list-style-type: none">● レファレンス・ツール共同調査④発表, 質疑応答● オンライン・レファレンス事例まとめ● 報告大会発表資料作成

2024年度

スキルアップ研修 レファレンスコース

2. レファレンス・ツール共同調査

【目的】

- ・レファレンス業務に必要なツール、基礎知識の習得
- ・情報検索法や最近のツールの共同調査を行うことを通じ、利用者により質の高いサービス提供をめざす

【プログラム】

- ・参加者は4つの分野に分かれ、情報検索で用いるデータベース(以下、DB)や参考資料の調査を行い、事例を発表する
- ・扱うDBや資料は重複しないよう調整する

レファレンスツール共同調査 ①人文・総合

ツール名	リサーチ・ナビ	日本文学Web図書館	Web of Science	ジャパンナレッジ	Web OYA-bunko
概要	【無料】国立国会図書館が提供。調べ物の調べ方を調べるためのパスファインダー	【有料】(株)古典ライブラリーが提供。和歌・俳諧などの総合検索・閲覧ができる	【有料】Clarivate社が提供。自然科学、人文科学、社会科学などの文献抄録・引用文献DB	【有料】(株)ネットアドバンスが提供。80以上の辞事典叢書、雑誌が検索できる国内最大級の辞書・事典サイト	【有料】(公財)大宅壮一文庫が提供。大宅壮一文庫所蔵の、大衆雑誌の記事索引DB
受講しての気づき・学び	3タイプの検索法それぞれにメリット、デメリットがある。使い分けが必要	枕詞、歌枕の検索が可能だが、標記通りの検索のため入力語に注意が必要	客観的かつ定量的な研究評価指標の必要性	同じ単語を複数の辞書で調べることができ、見比べることが可能。検索方法が多様	通常検索（フリーワード検索など）以外に、大宅壮一文庫が作成したキーワードや項目から検索が可能
現場での課題、DBの特性など	資料の本文に直接アクセスできないものもある。所属先の図書館に所蔵があるかは改めて調べる必要がある	利用の案内時、担当者が歴史的仮名遣いなど検索ルールを把握しておく必要がある	民間資本の会社提供のDBの収録基準の不透明や、インパクトファクターへの依存	利用者への認知度が低い。ネット検索での結果（Wikipediaなど）との信頼性の違いの理解	雑誌記事索引DBのため本文閲覧不可。大衆雑誌のため、古いものは所蔵が少ない

レファレンスツール共同調査 ②社会科学

ツール名	朝日新聞クロスサーチ	日経テレコン21	東洋経済デジタルコンテンツライブラリー	eol
概要	【有料】朝日新聞社が提供。過去の出来事を検索できるDB	【有料】日経新聞が提供。日経4紙の新聞記事を検索できるDB	【有料】東洋経済新報社が提供。経済・ビジネス・企業情報誌を検索できるDB	【有料】アイ・エヌ情報センターが提供。国内株式公開企業を中心に企業情報を配信するDB
受講しての気づき・学び	食品ロスは約1000件、フードロス約300件とキーワードにより検索結果が異なる	企業検索は上場企業、人事は未上場も含む。業界動向は調査レポートも検索範囲内	就活の企業研究にCSR企業総覧が有効 非上場企業の検索も可能	企業が発表する情報が網羅的に見やすくデータ化されている
現場での課題、DBの特性など	同義語・固有名詞の検索に注意が必要	就職支援課との連携	読み物としてよいが、PDF表示のため数値の落とし込みには向かない	未上場企業も多少収録されているが、基本的には大手しか検索できない

レファレンスツール共同調査 ③医学・福祉

ツール名	医中誌Web	音楽療法辞典とRILM	CINAHL Plus with Full Text	PubMed	UpToDate
概要	【有料】国内の医学・歯学・薬学・看護学等の論文情報を網羅的に検索できるサービス	【有料】音楽療法辞典：音楽療法とその学派、用語解説等を掲載 RILM：音楽に関連する資料の書誌検索、全文利用ができるDB	【有料】EBSCO社が提供する看護学、保健学全般に関する全文DB	【無料】米国国立医学図書館が開発・提供するMEDLINEを含むDB	【有料】エビデンスに基づく、臨床の疑問解決のための医療情報
受講しての気づき・学び	医中誌Webのソーラスやゆるふわ検索機能について知ることができた	音楽療法辞典とRILMの概要について知ることができた	検索方法や文献の絞り込み方について知ることができた	検索機能、MeSH、データ入手方法について知ることができた	推奨治療法の検索、6Sピラミッドモデルでの位置づけを知ることができた
現場での課題、DBの特性など	学生は講義内で利用している様だが積極的な利用が見られない。検索方法のレクチャー等図書館からのアクションが必要と思われる	医療系分野とも学際的な結びつきがあるため参考にしたい	レファレンス件数が少ないので学生がどのように利用しているかは不明	詳細な操作方法について利用者に説明する機会がある→多く利用されていると思われる	医療現場での利用率が低め。広報に工夫が必要

レファレンスツール共同調査

④音楽・教育・心理

ツール名	東京文化財研究所 DB	国立国語研究所 日本語研究・日本語教育文献 DB	国立教育政策研究所教育図書館 教育研究論文索引	<p>【有料】</p> <p>(1)楽譜DB：Henle Library , nkoda (2)音源DB：Naxos Music Library , Naxos Music Library Jazz (3)事典/辞典DB</p> <p>・紙媒体：ニューグローヴ世界音楽大事 典など</p> <p>・電子：Oxford Music Online</p> <p>【無料】</p> <p>(1)楽譜DB：IMSLP ペトルッチ楽譜ラ イブラリー</p> <p>(2)事典：ピティナ・ピアノ曲事典</p>
概要	【無料】『日本美術年鑑』や収録された文献データや展覧会カタログなど日本美術に関する総合検索が出来る。DB文化財の写真、画像資料もデジタル化し、オンラインで提供	【無料】日本語学、日本語教育研究に関する研究文献のDB Web公開されている論文に関しては本文へのリンクがある	【無料】和洋教育関係図書・雑誌を中心に、教科書、大学紀要、地方教育資料、各都道府県教育史や文部科学省発行資料など幅広く収集・公開	音楽レファレンス・ツール 閲覧、書き込み、共有、録音等ができる電子楽譜のサブスクリプションサービス、音源DB、基本的な冊子体の音楽レファレンス資料など
受講しての気づき・学び	文化財関係DBでは美術雑誌だけでなく展覧会カタログからも文献検索が可能。物故者DBは人名による関連データの抽出ができる	リスト形式や表形式での検索結果の表示切替ができ、内容把握ができる〈章タイトル〉や〈分野〉など特徴的な項目がある	教育学部や教職課程がある大学図書館には有益	楽譜や音源は出版社により解釈が異なると知らなかったので学びになった
現場での課題、DBの特性など	日本の芸術文化、比較文化、学芸員課程などの履修者に利用を促したい	地方の方言、移民の日本語教育など学ぶ学部生などに薦めてみたい	今後はレファレンスに利用してみたい。豊富なレファレンス事例も参考にしたい	楽曲の主要な参考文献として利用したい

【研修での学び】

- ◆他大学の事例を18件紹介・共有することで、自館で契約していないDBの活用について実践的に考えることができた。
- ◆利用者が求める情報に合わせて、DB・検索システムの特徴を理解して検索することが大事と気づいた。
- ◆無料のDBの特徴を学び理解することで利活用の範囲が広がる可能性があると考えられた。

2024年度

スキルアップ研修 レファレンスコース

3. オンライン・レファレンス事例調査

【目的】

- 図書館サービスにおけるDX化の取り組みの調査と共有

【調査方法】

- 参加者の所属館で行われている
オンライン・レファレンスの実態報告
- 国内外の図書館にて実施されている
オンライン・レファレンスの事例調査

①海外の国立図書館

オンライン・レファレンス事例

	アメリカ 議会図書館	大英図書館	ドイツ 国立図書館	フランス 国立図書館	カナダ 図書館・文書館	サンクトペテルブルク 国立図書館
電話・メール	○	○	○	○	○	○
チャット	○	-	-	○	-	△
	月曜日から金曜日の午後 12:00 から午後 4:00 (東部標準時) までご利用	リンクが貼られていないため、現在使用不可か？		月曜日から金曜日の午後 1 時から午後 5 時まで		Онлайн-консультант リアルタイムで回答するサービスはあるがチャットか不明
質問フォーム	○	○	○	○	○	○
	Ask a Librarian Service 分野ごとにフォームを選択 メイン閲覧室の専門家を通じて、各分野における一般的な参考資料の支援を提供	Ask the Reference Team サービスの利用やコレクションへのアクセスについて、本日の新聞の検索から詳細な調査の質問まで	Anfrage stellen 通常無料。15 分を超える特に困難で時間のかかる調査のみ、料金表に従って料金が請求	SINDBAD BnF に関するすべての主題、事実情報 (事実、数字、または日付) および実用的な情報に関する無料の文献参照を提供	Ask us a question リストから質問内容に合った項目を選択し、詳細を入力する	Спроси библиографа あらゆるテーマ領域に関する情報の検索に関連する 1 回限りのリクエスト КОРУНБ ロシア、ベラルーシ共和国、カザフスタン共和国の 30 以上の地域科学図書館と国立図書館を統合し、特定の図書館のコレクションに対して調査を実行 他
オンライン面談	-	-	○	-	-	-
			Book a Librarian 月曜日から金曜の指定された時間に、オンラインまたは現地で個別のアポイントメントをとり相談が可能			
その他	○	-	○	○	○	-
	FAQ	2023 年 10 月のサイバー攻撃により利用できないサービスがある (レファレンスサービスが含まれているか不明)	Coffee Lectures 20 分間のオンライン講義で、図書館とその利用に関するトピックについて詳しく知るこの機会を提供	base de connaissance SINDBAD サービスによって処理された質問と回答が、BnF ナレッジベースに定期的に追加	Controlled vocabularies for the Government of Canadaカナダの件名標目、名付け親、またはコア件名ソーラスを使用して、標準化された用語が検索可	

②海外（欧米）の大学図書館

オンライン・レファレンス事例

	ネブラスカ州立大学 カーニー校図書館 (米)	ハワイ大学 マノア校図書館 (米)	ラトガース 大学図書館 (米)	Univ. of Prince Edward Island 図書館 (カナダ)	ブリュッセル 自由大学中央 図書館 (ベルギー)
					
サービス 名称	Ask a Librarian (図書館サイ トのLibrary Serviceから)	Request a Research Appointment (図書館サイ トHelpから)	“Ask a Librarian” と”Find a Subject Specialist”と2つあり	図書館webサイトトップに "Ask Us"というリンクあり 対応時間も明示"Ask Us Hours"	図書館サイトに” Bibliographical services”と 表示あり、図書館職員にコ ンタクトできる。
質問回答 手段	E-mail・電話・Zoom	E-mail・電話 チャットツール	メール チャットツール	E-mail・電話 チャットツール	電子メールと 図書館での対面のみの様子
特徴	各分野の専門図書館員 (Librarians by Subject)がweb サイトに挙げられていて事前 アポイントを取ることでZoom で質問できるようである。	専門分野の回答者 (Subject librarian)リストがある。公 式サイトに「質問に適切に回 答できない場合でも、営業日 1.2日以内に反応をする」と 明示。	一般的な図書館の利用 に関する質問は” Ask a Librarian”でメール・ チャットで聞くことが できる。	Subject Librarianのリストが あり、特定分野に関しての質 問やレファレンスはその専門 員に電話・メール・対面 (ア ポ要：アプリでアポとれる "YoucanBookme") できる。	アメリカやカナダのように 専門ライブラリアンが明記 等はされていない。
その他	対象は当該大学の学生教職員。 オンラインレファレンス以外 の図書館サービスの利用自体 はネブラスカ州の18歳以上の 住民なら可能である。	対象はハワイ大学の学生教職員 が基本だが、Independent Researcherという身分選択 肢もあり、ある程度外部の対 応もしてくれるようだ。	専門分野は ”Find a Subject Specialist”で 専門家を選びアポ取り で対面の様子。	専門分野の回答者を選べる。 基本的な質問はwebサイ トトップのAsk Us からとすみ 分けている模様。	アメリカの大学図書館のほ うがユーザーインターフェ イスがよく使いやすい気が する

③海外（アジア）の公共・大学図書館

東アジアでは、電子化、マルチメディア化の推進が著しい。

2010年前後で既にオンラインレファレンスが導入されており活用事例が多い。

香港ではオンライン学修ツールが充実していることから、カウンター体制は最小限で、図書館=各自の学修施設としての認識が強い。また、中国の公共図書館が共同運用している「総合レファレンスサービスネットワーク（聯合参考 咨詢網）」は、1日13時間程度受付を行っており、担当者のオンライン/オフライン状態を確認したうえで指名制の利用も可能である。

	 韓国 <small>※2013年時点</small>	 香港 <small>※2015年時点</small>	 中国 <small>※2008年時点</small>
機関	国立ソウル大学中央図書館	香港大学, 香港理工大学, 香港科技大学, 香港城市大学	大学図書館の約13% 昇級図書館の約70%以上 (日本の都道府県立図書館)
サービス名称	リエゾンライブラリアン	※大学により異なる	VRS (バーチャルレファレンス サービス)
質問・回答手段	ライブチャット機能 (Dotori on)	チャット機能 (WhatsApp)	チャット, メール, フォーム等
特徴	司書2名あたり 2~3学部受け持つ	司書と手軽にコンタクトが取れる	国内外との 共同ツールあり

④日本の公共図書館・専門図書館

	① 茨城県立図書館	② ポーラ文化研究所
サービス名称	レファレンスサービス	オンラインレファレンス
質問受付・回答手段	電子メール, 電話, FAX、専用フォーム(インターネット)、手紙	ネットミーティングツール (Zoom等)
質問・回答以外の機能	これまでの事例紹介(レファレンス協同データベース)、チャットボット	
特徴	パスファインダーのリンク有。受け付けられない質問が明示されている、チャットボットの活用	研究に関する質問から漠然とした内容まで事前準備をして対応して下さる。グループ参加可。

⑤日本の国立大学図書館

	① 東京科学大学 附属図書館 (旧東工大)	② 名古屋大学 附属図書館	③ 神戸大学 附属図書館 (※)
サービス 名称	Askサービス	図書館オンライン相談	オンラインレファレンス
質問受付・ 回答手段	Web フォーム(電子メー ルで返信)	ネットミーティングツール※チャット機 能あり (Microsoft Teams), 事前Web フォーム入力 (Microsoft Forms)	チャット(Slack,Smallchat), Webフォー ム入力
特徴	図書館で調査・回答で きる範囲での各種質問 と図書館への要望等を 受け付ける。	平日10~12、13~17時対応。 <u>申し込み後、 即時(10分以内)ビデオ通話で相談がで きる。</u> 会話ができない環境であれば チャットの利用が可。	チャットは平日9~16時半対応。Web フォームは回答期限が選べ、至急の場合 は期日指定も可。回答できない調査内容 がHPに明示されている。
他館との 連携		5つの図書館・図書室のうち、事前の申込 フォームで希望した館が基本的に対応す る。	4キャンパスの中にある9つの館室で連携 し、 <u>26名がオンライン待機。質問に気付 いた職員が回答する。</u>

(※) 第71回国立大学附属図書館協会総会「神戸大学図書館におけるチャットによるオンラインレファレンスの取り組み」

<https://www.janul.jp/ja/award> (参照2024-10-16)

 ①ではメール形式の問い合わせのみだが、②③ではチャットやミーティングを用いたレファレンスを採用し、複数の方法から選択できるようにしている。即時性・同期性の高いミーティングツール・チャットツールや、回答候補に案内するAIチャットボットが導入され始めている。

⑥-1 日本の私立大学図書館

	①慶應義塾大学 三田メディアセンター	②慶應義塾大学 信濃町メディアセンター	③専修大学図書館
サービス 名称	質問のすゝめ!、Zoomレファレンス、リサーチナビ	オーダーメイド型講習会、オンデマンド検索相談	オンライン・レファレンス (学修・研究相談)
質問受付・ 回答手段	電子メール, ネットミーティングツール (Zoom等), 電話	ネットミーティングツール (Zoom等), 相談は対面、Zoomと希望に応じて対応	利用者は図書館ポータル内の申込フォームからテキストにて質問し、回答はEメールで行う。
特徴	質問・回答内容をメディアセンター全体で共有する運用になっている (質問のすゝめ!)、一般公開されており、大学関係者のみならず他大学や一般の学修者もアクセスできる (リサーチナビ)	医学系でよく利用される電子リソースの使用方法等について予約制の相談。相談者から研究計画書や検討中の検索式などの情報を予め提出いただき、それをもとに担当者が検索式を立式し、相談時に提案という形でお渡しする。	注意事項の表記で回答不可な質問等について記載、原則、受付後7日以内に回答

⑥-2 日本の私立大学図書館

	④武蔵大学図書館	⑤学習院大学図書館	⑥順天堂大学 学術メディアセンター
サービス 名称	レファレンスサービス (資料相談)	オンラインレファレンス	調べもの相談
質問受付・ 回答手段	電子メール, ネット ミーティングツール (Zoom等)	電子メール, 電話	電子メール, 回答フォーム
特徴	大学生のみ事項調査 の回答でZOOMでの オンライン相談を選 択可能	人文科学分野中心	受け付けられない質問が明示されてい る。

【事例調査を行って】

- その図書館の利用者に対応した特徴が窺えた。
- AIの導入などの
新しいオンライン・レファレンスの広がりを感じた。
- 今後の私立大学図書館の
方向性や可能性を考えるきっかけとなった。

【まとめ】

■レファレンス・ツール共同調査

→利用者が求める情報をつかみ、ツールの特性を理解して検索することが大事という気づきが得られた。

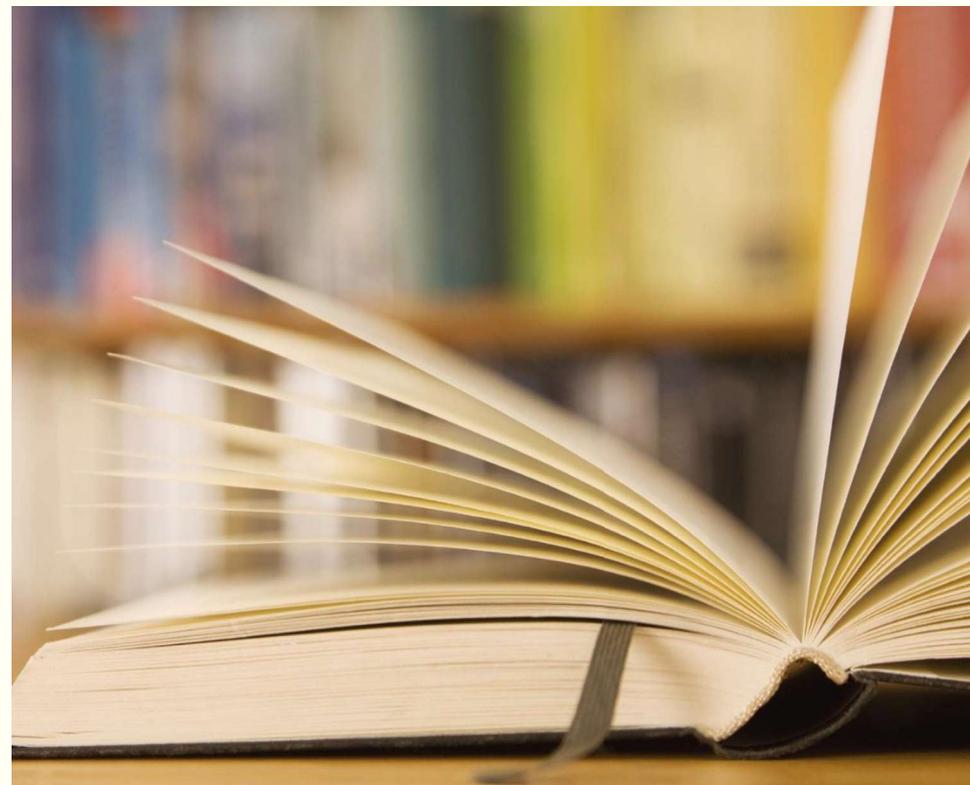
■オンライン・レファレンス事例調査

→今後の私立大学図書館の
オンライン・レファレンスの可能性を考えるきっかけとなった。

この研修にて得たことを活かし、
利用者により質の高いサービス提供を目指していく

【私立大学図書館協会東地区部会研究部】
2024年度スキルアップ研修
（利用者教育）コース
研修報告大会発表資料

2024年12月13日（金）



レジュメ・発表者

(1) 研修概要

- ①テーマ・目的
- ②学んだ知識・スキルワーク

武蔵野音楽大学 図書館課 森田 美智子

(2) 研修期間および終了後の職場実践状況

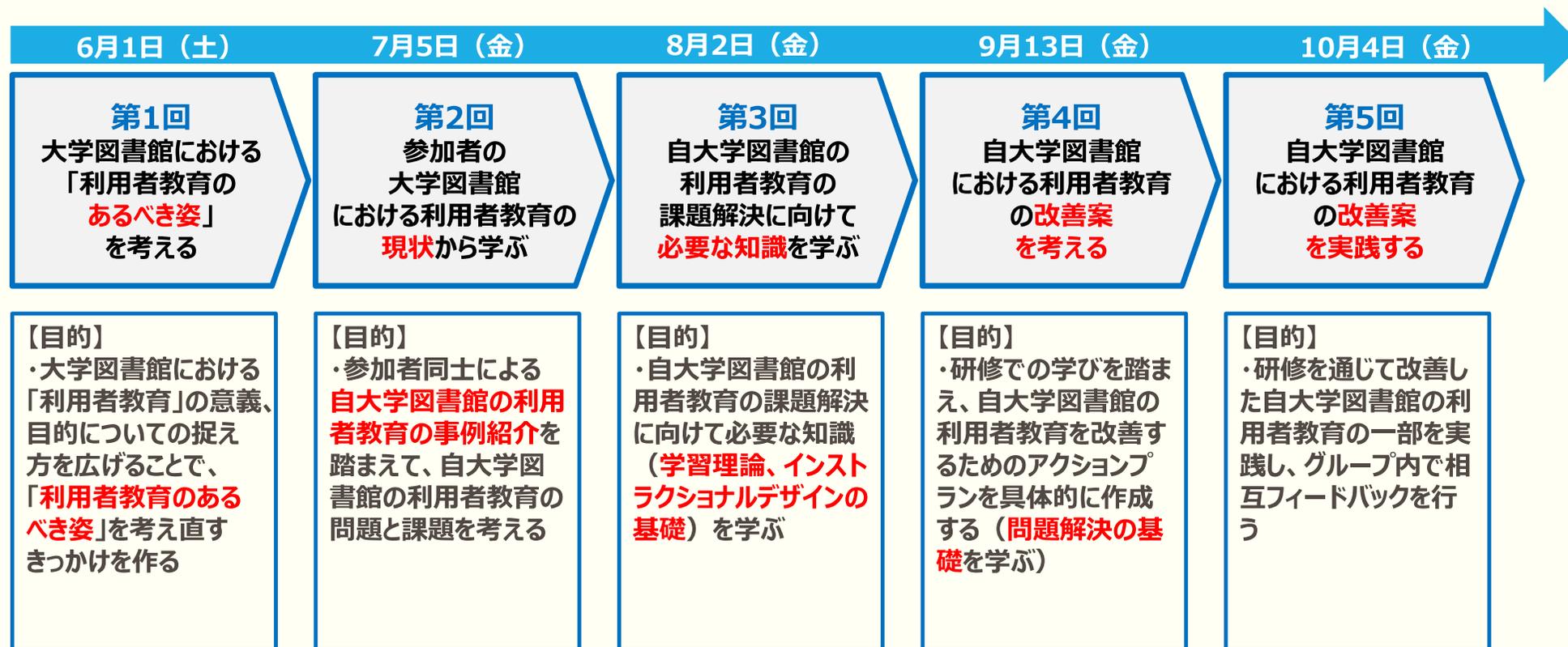
- ①事前・事後課題と職場共有について
- ②第5回研修の内容
- ③研修終了後の実践と意識・行動の変化（わたしたちの成長物語）

東京女子大学 図書館課 海老原 千都

研修概要

講師	豊田哲也 (株式会社日本能率協会マネジメントセンター・大学図書館支援機構・ 元立命館大学図書館)
受講者数	5名
開催日	6/1(土) 7/5(金) 8/2(金) 9/13(金) 10/4(金)
時間	13:00~17:00
開催方法	オンライン形式

各回のテーマと目的・コースの全体の流れ



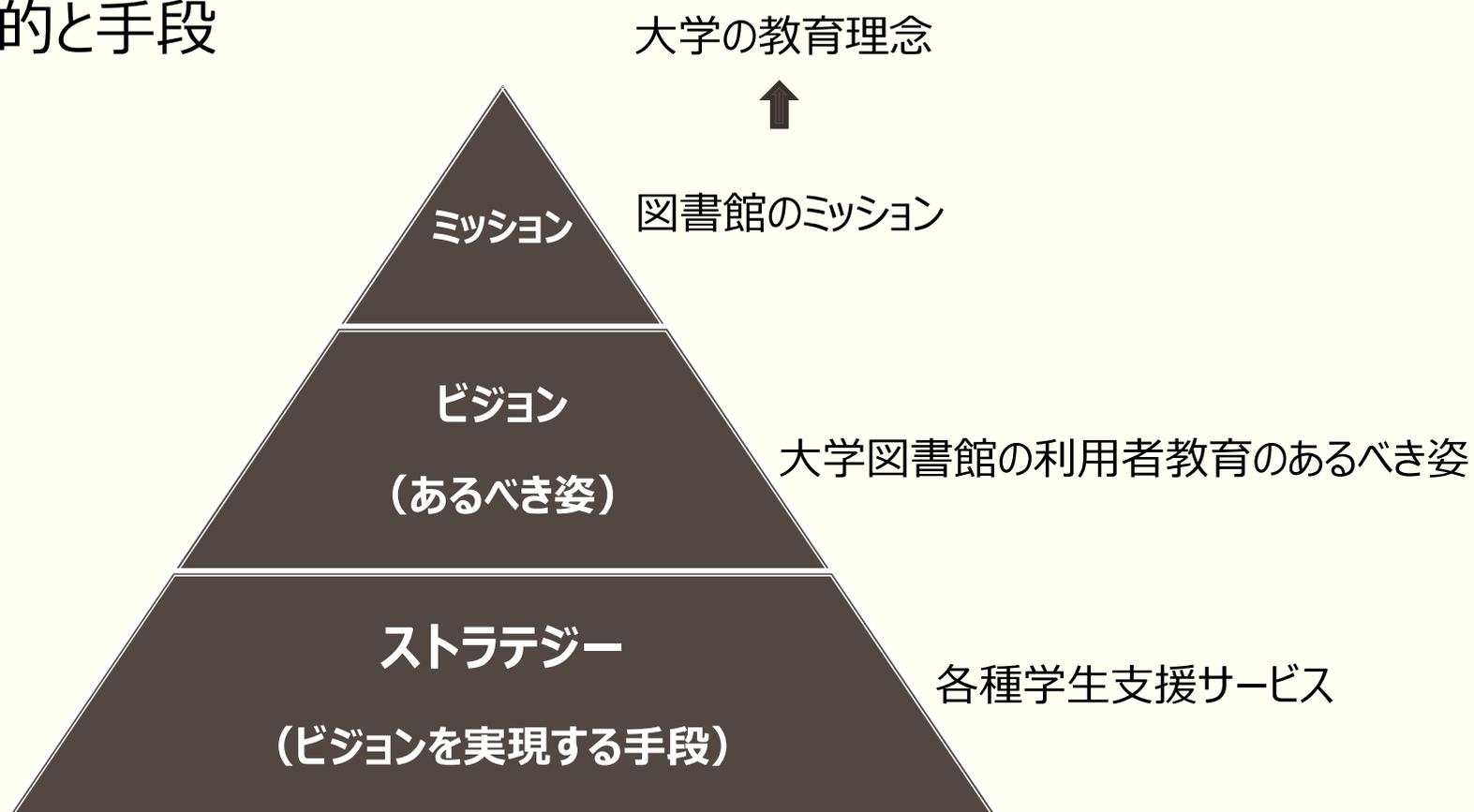
職場実践

各回の研修の流れ

- ①事前課題についての発表
- ②講師による講義、事例紹介
- ③個人ワーク
- ④グループディスカッション
- ⑤全体共有
- ⑥総括

第1回：学んだ知識・スキルワークの要点

■ 目的と手段



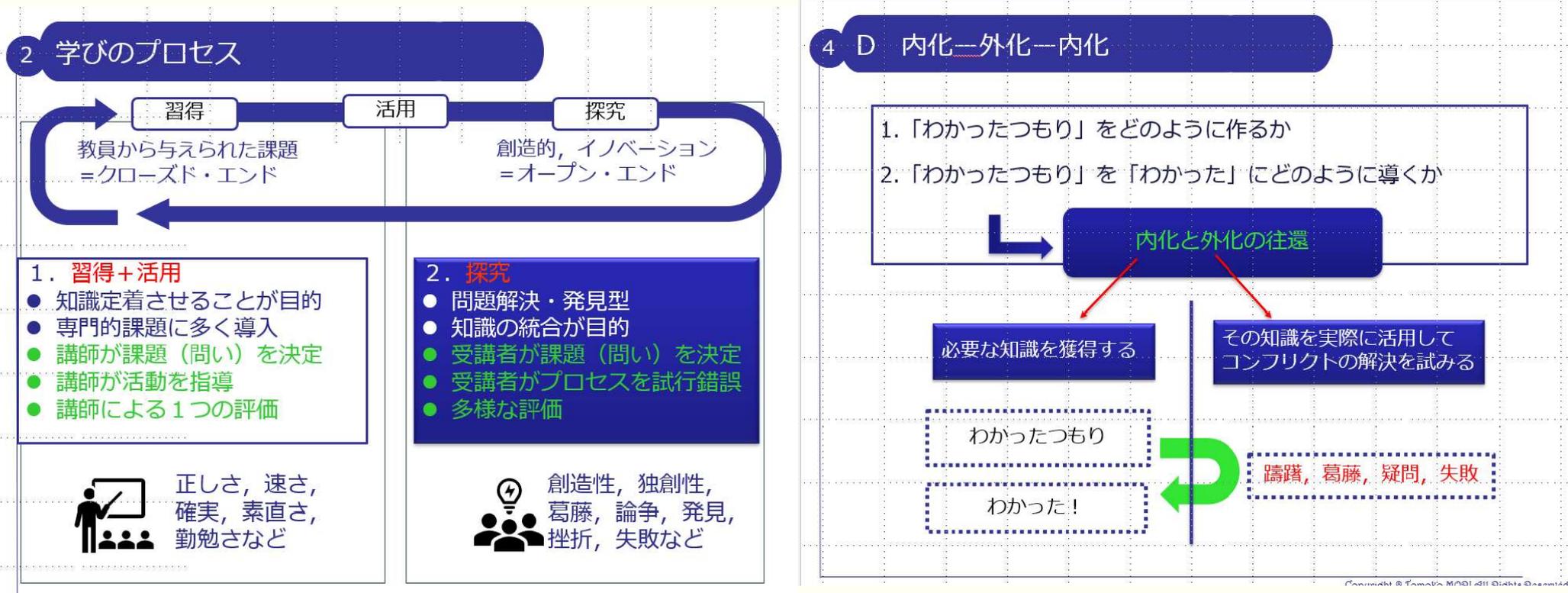
第2回：学んだ知識・スキルワークの要点

■ 「学び合い」と「気づき」

- ・ 事例紹介による「学び合い」
- ・ グループディスカッション、相互フィードバック による「気づき」

第3回：学んだ知識・スキルワークの要点

■ 学習理論、インストラクショナルデザインの基礎



Copyright © Tomoko MORI All Rights Reserved.

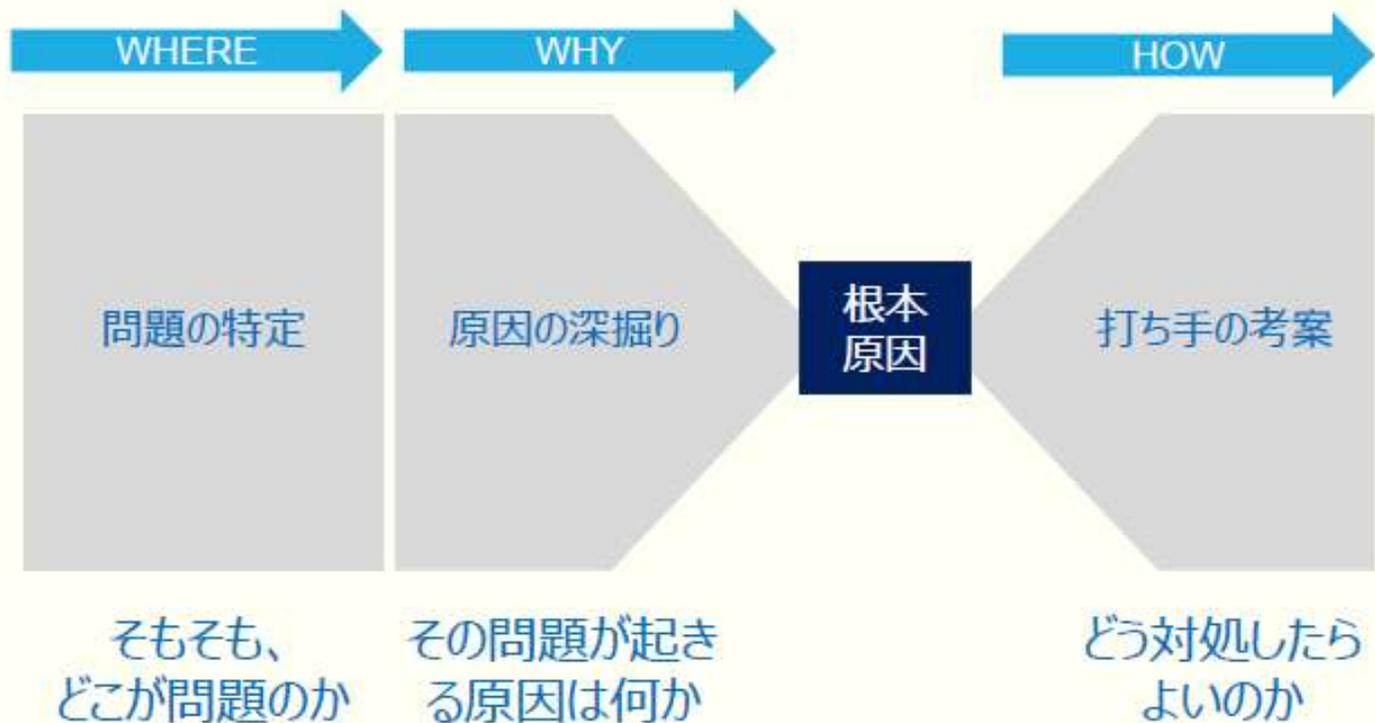
『学びの構造と学ぶ力の向上』 森 朋子著 (2021JAMM新・若手育成研究会第1会合) 2021年 より引用

©IAAL 無断複製転載を禁じます

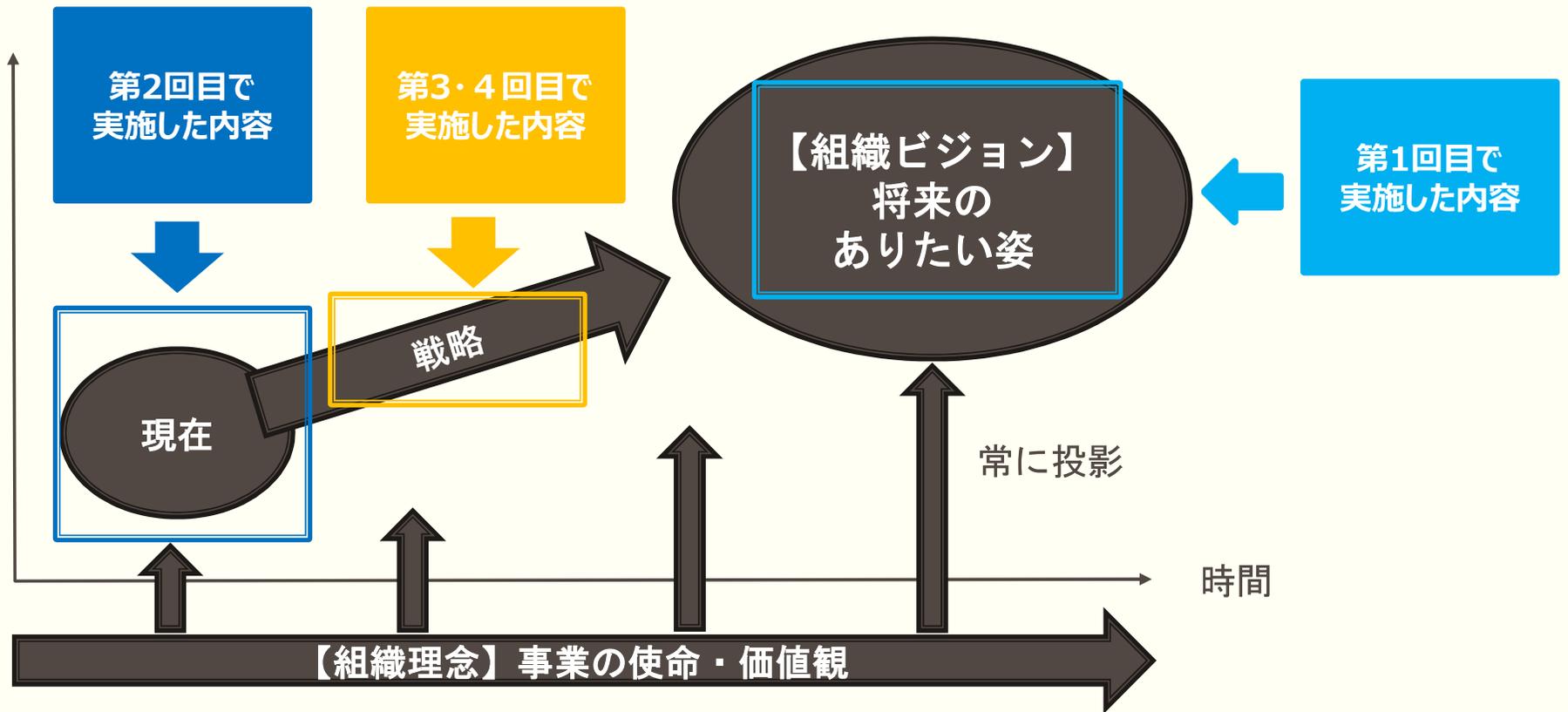
第4回：学んだ知識・スキルワークの要点

■ 「問題解決」の基本

問題解決の3ステップ



第1回目～第4回目の関連性



井口 嘉則 著 飛高 翔 作画 『マンガでやさしくわかる事業計画書』 (株式会社日本能率協会マネジメントセンター2013年) より参考に作成

事前・事後課題と職場共有(1)

第1回研修 事前課題

2024年度スキルアップ研修（利用者教育コース）のテーマ：
大学図書館における「利用者教育」の意義と実践内容を捉え直す

事前課題1：

課題論文を読んで「もっとも印象的だったこと」や「大切だ」と思ったこと、
「そういう考えがあるのか」など感じたことを自分の言葉で表現する。

事前課題2：

「利用者教育コース」に申し込んだ理由
（参加する動機、本研修への期待、研修内容を踏まえて今後実践したいと
思っていることなど）

事前・事後課題と職場共有(2)

第2回研修 事前課題

ワークシート「自職場における利用者教育のあるべき姿」

- (1) 自職場における利用者教育のあるべき姿を文章化する
- (2) 現状の概要と取り組み事例・工夫点を書き出し、メンバー間で共有

第2回研修 事後課題

ワークシート「第2回からの学びと職場共有」

- (1) 第2回「参加者の大学図書館における利用者教育の現状から学ぶ」から学んだ内容
- (2) (1)を職場に共有してフィードバックをもらう

事前・事後課題と職場共有(3)

第4回研修 事前課題

ワークシート「第3回からの学びと職場共有」

- (1) 第3回「自大学図書館の利用者教育の課題解決に向けて必要な知識（学習理論、インストラクショナルデザインの基礎）を学ぶ」から学んだ内容
- (2) (1)を職場に共有してフィードバックをもらう

第5回研修 事前課題

ワークシート「第4回からの学びと職場共有」

- (1) 第4回「自大学図書館における利用者教育の改善案を考える」から学んだ内容
- (2) (1)を職場に共有してフィードバックをもらう

第5回：2025年度「利用者教育」改善案の作成

◆各自、(1)、(2)のいずれかに取り組み、発表する

- (1)第4回で取り組んだワークシートを参考に、自職場における「利用者教育」の改善案の起案文書を作成し、10分間で説明（プレゼン）する。
- (2)図書館ガイダンス等で実際に使用している資料を、第3回の「学習理論・インストラクショナルデザイン」を参考に改善し、10分間の模擬講義を行う。

◆発表後

- ・参加メンバーから感想、質問、アドバイス等フィードバック（15分）
- ・講師からのフィードバック（5分）
- ・自身の振り返り（5分）

◆研修終了後

発表とそれに対するフィードバックで得た気づきを踏まえ、職場での実践に活かす。

第5回研修での発表内容

- (1) 図書館利用ガイダンスの説明スライドにキャラクターを効果的に登場させたりクイズを盛り込む等、学生目線で親しみやすさと分かりやすさを重視した内容にアップデート
- (2) 学生スタッフからアイデアを募り、図書館利用ガイダンスの説明スライドや館内ツアーの説明に学生目線の情報を盛り込む
- (3) 情報検索ガイダンスでは学生がデータベースを実際に使う体験を増やし、学生同士でレクチャーし合う内容にすることで知識の定着をめざす
- (4) 学生同士で検索方法を共有するグループワークを行ない、検索スキルと知識の向上を促す

研修後に実践していること

- ◆ 第5回研修で作成した説明資料をさらに改善し、実際にガイダンスを行なった。今後も確認クイズ等、学生が参加できる工夫を入れていく予定。
- ◆ 次年度の図書館利用案内に向けて具体的なスケジュールを組んで準備を進めている。
- ◆ 学生スタッフに、少人数のグループワーク形式で新入生の利用促進につながるアイデアを出し合ってもらった。
- ◆ 研修で学んだ学習理論やインストラクショナルデザインを参考に、次年度の利用案内のスライドを改良する予定。

わたしたちの成長物語：仕事に対する意識・行動の変化

業務に対して、これがベストなのかを改めて考えるようになった

業務の目的や必要性など、本質を理解しようと努めるようになった

「あるべき姿」を意識することを研修で学び、
現実とのギャップから問題点や解決方法を考えやすくなった

以前よりも自信を持って提案できるようになった

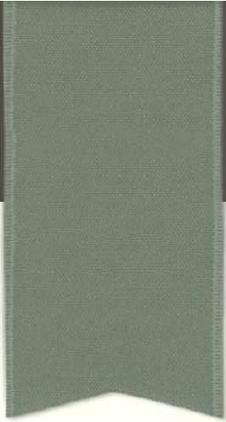
この研修での学び（まとめ）

組織のビジョンに照らして「あるべき姿」や「上位目的」を明確にする重要性を知り、業務においても意識するようになった

課題発見の方法と問題解決フローの知識を学んだ

「利用者教育」の課題解決に必要な知識として、学習理論やインストラクショナルデザインの基礎を学んだ

研修を受けただけで終わりにせず、研修での学びを実際の業務に活かして実践することができるようになった



ご清聴ありがとうございました

私立大学図書館協会

2024年度東地区部会研究部研修報告大会

スキルアップ研修

(データ分析・活用コース)

グループ1 文教大学 畔上
東京国際大学 大作
専修大学 蒲田

本研修の流れ

1回目 (5/29)

- **データ分析をはじめ** データ分析の型を学ぶ

2回目 (6/25)

- **自校のデータを読み解く 1** データ分析を体験する

自校データ

3回目 (7/24)

- **自校のデータを読み解く 2** データ分析を体験する

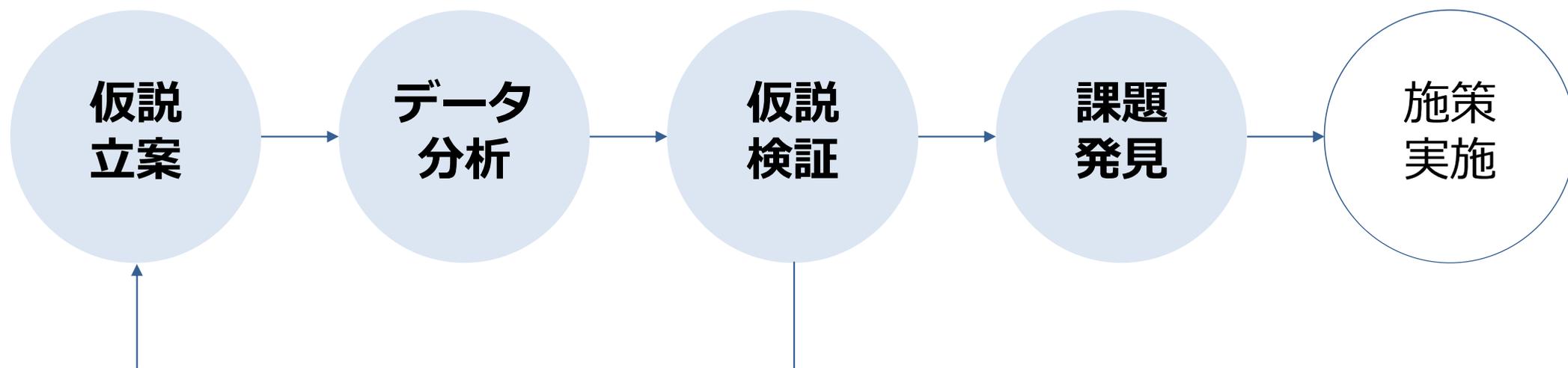
自校データ

4回目 (10/10)

- **自校の課題を考える** 課題抽出を体験する

データ分析の型

【データ分析の進め方】



青塗潰し：本研修のスコープ

分析テーマ

分析テーマ	分析内容	課題発見の方向性
1 貸出データを用いた学部生の利用分析 <ul style="list-style-type: none">多くの大学図書館に存在し、利用可能性が高い貸出データを用いる大学図書館にとって、利用数の多い学部生を対象にする	入学から卒業までの累積貸出冊数の推移 (折れ線グラフ) ※学部間で比較することで特徴を把握しやすくする	貸出冊数が大きく増加している理由 を調査・把握し、更に増やす施策を実施する
2 貸出・入館データを用いた図書館内の利用分析 <ul style="list-style-type: none">図書館職員のリソース不足が問題になっている利用者サービス（フロア・カウンター業務）の適正配置について考える	時間帯・曜日・月別の入館者数・貸出冊数 (ヒストグラム、折れ線グラフ) ※図書館（キャンパスなど）で比較することで特徴を把握しやすくする	図書館内の職員配置の現状と比較 し、改善施策を検討する

他校との比較

・ 演習結果を共有、比較し気づきを与える

1. 仮説立案

2. 仮説検証
【例】入学から卒業まで、顕微鏡の大きさの推移がある

3. 課題発見

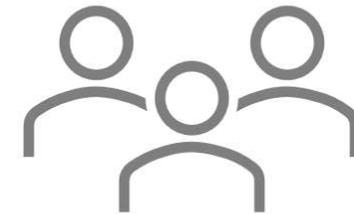
No.	調査ポイント	課題内容 (イメージ)
1	A部では、他の学部と比較して貸出数が多い	A部では、図書を指定した小論文提出が2年次が増えている (定期的) 図書館で準備している冊数では足りない (明瞭性) (学生アンケートより) 非出蔵書が増えている。非出蔵書も調査が必要
2	2020年度の貸出数が全学部で少ない	新型コロナウイルスの流行で、外出や密集となる図書館への入館が制限されたことによる影響が予想される コロナ収束以降の利用回復の分析には、他大学との比較分析も必要
3	D部では、3年後期から貸出が増える傾向にある	専門科目と関連した資料が利用されているのではないかと 貸出利用が増えている資料を分析する必要がある 専門科目と関連した資料が貸し出しに足りているか確認する必要がある

1. 仮説立案

2. 仮説検証
【例】入学から卒業まで、顕微鏡の大きさの推移がある

3. 課題発見

No.	調査ポイント	課題内容 (イメージ)
1	A部では、他の学部と比較して貸出数が多い	A部では、図書を指定した小論文提出が2年次が増えている (定期的) 図書館で準備している冊数では足りない (明瞭性) (学生アンケートより) 非出蔵書が増えている。非出蔵書も調査が必要
2	2020年度の貸出数が全学部で少ない	新型コロナウイルスの流行で、外出や密集となる図書館への入館が制限されたことによる影響が予想される コロナ収束以降の利用回復の分析には、他大学との比較分析も必要
3	D部では、3年後期から貸出が増える傾向にある	専門科目と関連した資料が利用されているのではないかと 貸出利用が増えている資料を分析する必要がある 専門科目と関連した資料が貸し出しに足りているか確認する必要がある



比較分析

- ・ 共通点
- ・ 差異
- ・ 気づき

テーマ1

貸出データを用いた学部生の利用分析

✓ 仮説立案

✓ 仮説検証

✓ 課題発見

仮説立案

学部別の検証

卒業論文が必修となっている学部の貸出数が多いのではないか？

期間別の検証

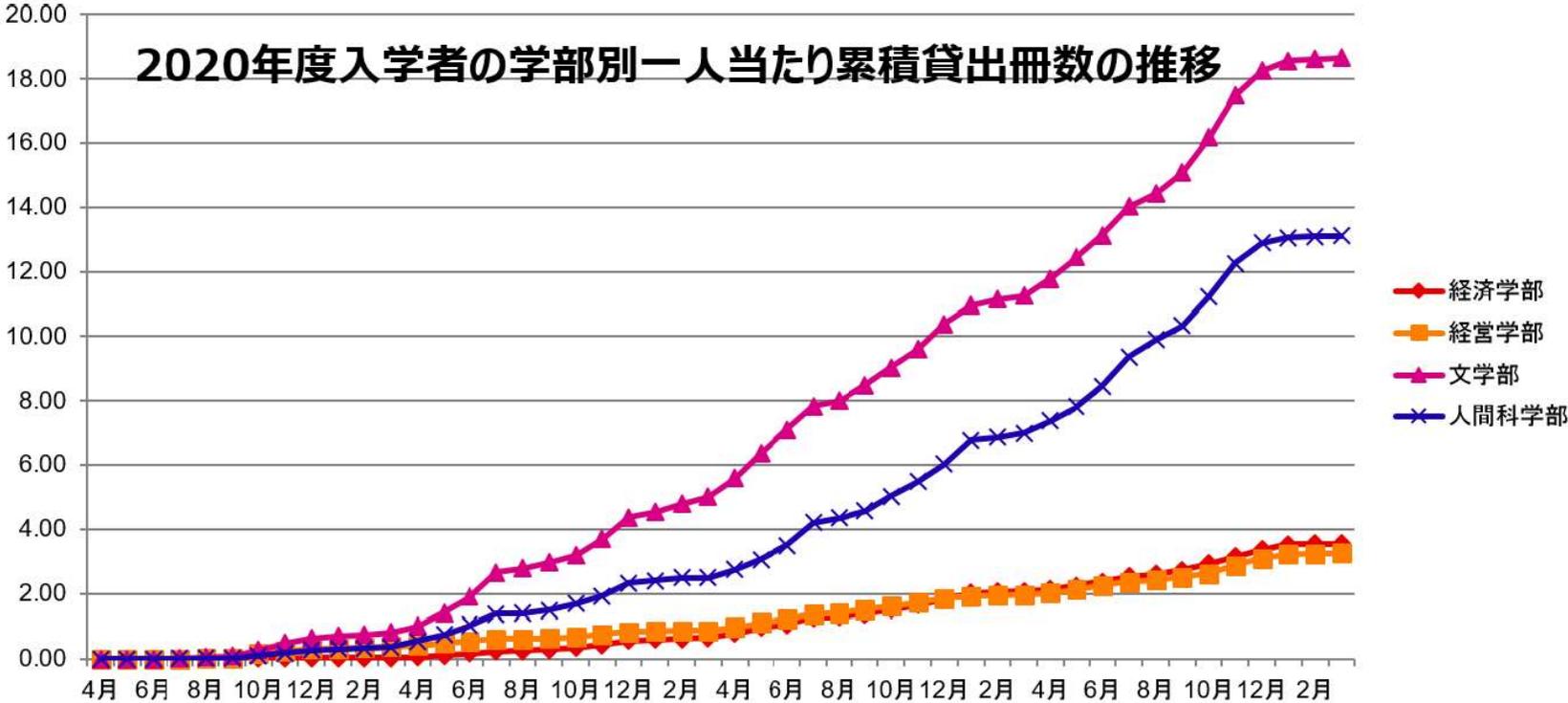
冬期になるにつれて貸出数が増えるのではないか？

学年別の検証

学年の進行と共に貸出冊数が増えるのではないか？

仮説検証

専修大学



課題発見

年次ごとの貸出冊数

- ・低年次の利用が非常に少ない。
- ・入学後の導入教育で図書館の利用に関する周知、案内の強化が必要

学部ごとの貸出冊数

- ・経済学部、経営学部の1年次においては、月に1冊も本を読まない学生が大多数を占める

テーマ2

貸出・入館データを用いた図書館内の利用分析

✓ 仮説立案

✓ 仮説検証

✓ 課題発見

仮説立案

時間帯別の検証

授業終了後の利用・貸出が多いのではないか？

曜日別の検証

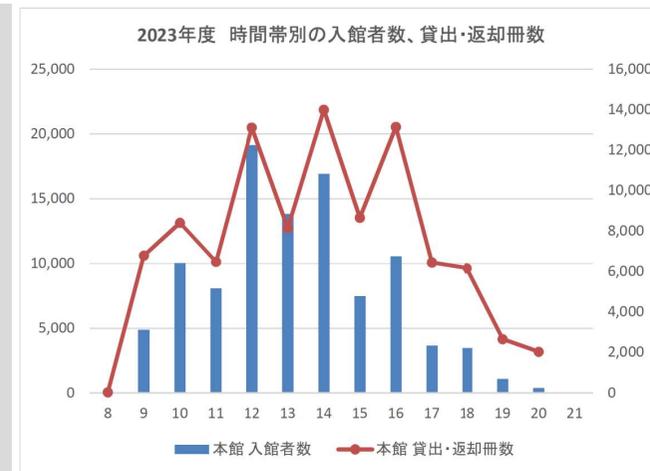
授業の多い月曜日、水曜日、木曜日の利用・貸出が多いのではないか？

月別の検証

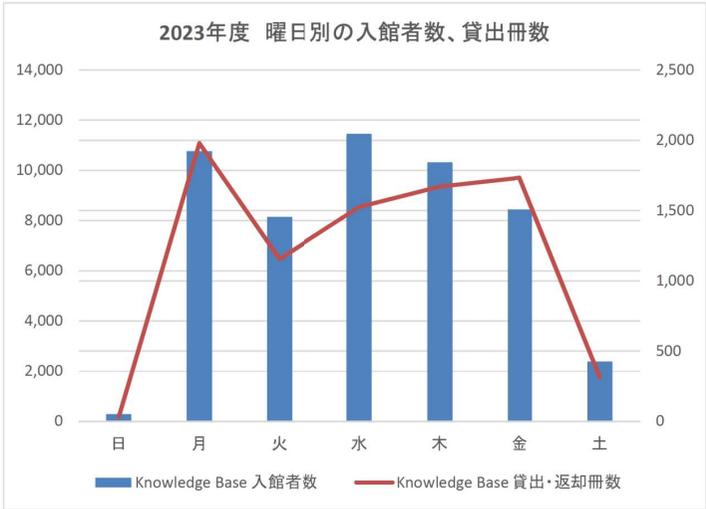
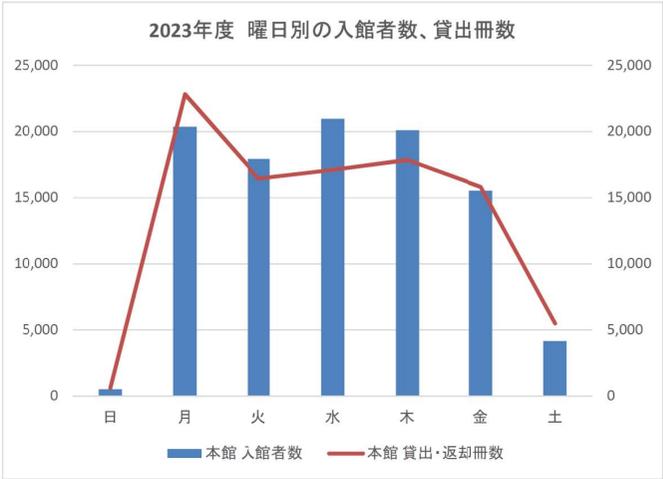
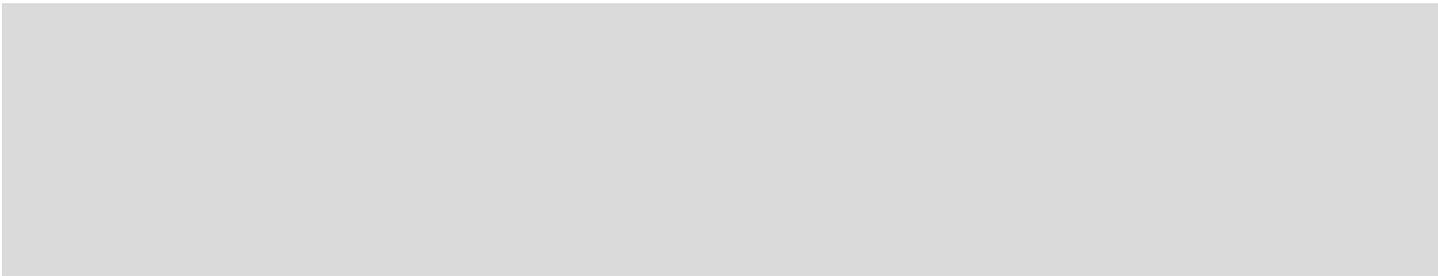
学期末の7月・1月、卒論準備繁忙期の11月の利用・貸出が多いのではないか？

仮説検証 時間帯別入館者数、貸出・返却冊数

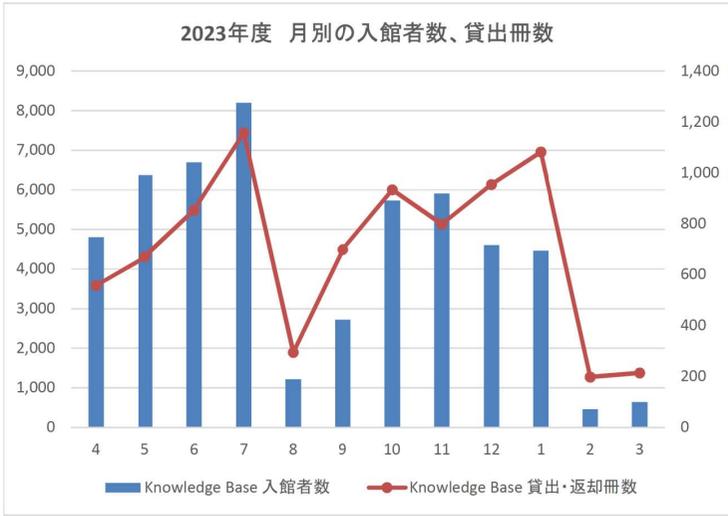
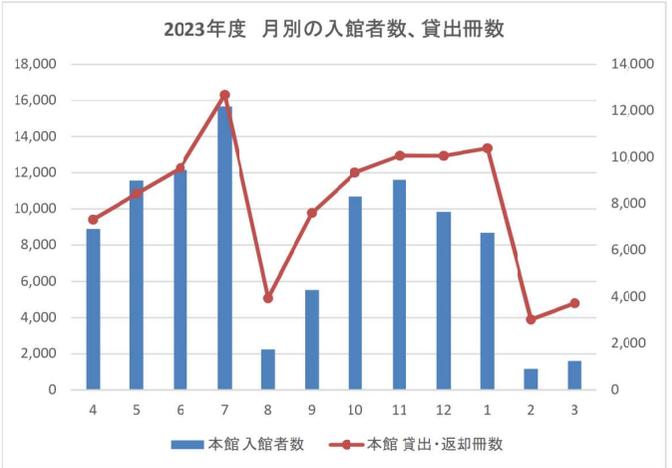
1.2023年度 時間帯別入館者数、貸出・返却冊数



仮説検証 曜日別入館者数、貸出・返却冊数



仮説検証 月別入館者数、貸出・返却冊数



課題発見

時間帯別

館によって貸出数の多い時間に違いが認められる。繁忙時間の違いから、職員配置の参考にできるのではないか。

曜日別

授業数の多い月・水・木曜日は入館者数が多い傾向だが、貸出数にあまり関連性が見られない。場所利用の需要について再検討が必要ではないか。

月別

長期休暇前の利用が多い傾向だが、卒論準備時期の11～12月の利用は突出して多いわけではない。資料利用の目的の調査が必要ではないか。

私立大学図書館協会

2024年度東地区部会研究部研修報告大会

スキルアップ研修

データ分析・活用コース

2024年12月13日

グループ2

麻布大学	永井
東洋学園大学	中村
新潟青陵大学	高野

仮説立案

機関名	仮説
麻布大学	1年次は貸出が少ない。 卒論提出に向けて貸出が増える。 学部によっては3,4年次まで冊数は横ばいかもしれない。 ※獣医学部は6年次までだが、データ抽出が出来なかったため、4年次までのデータである。
東洋学園大学	グローバル・コミュニケーション学部は他の2学部と比べて貸出が多い？ 2年次の利用が少ない印象があるが、どうか？ 講習会を行った後に貸出が増える傾向はあるのか？
新潟青陵大学	入学から卒業までで、貸出変化の大きい時期がある。 2年・3年の実習系の授業が増える時期に貸出が減る。 臨床心理学科の学生は小説等を読む学生が多い。

2020年度入学者の学部別累積貸出冊数の推移を検証した

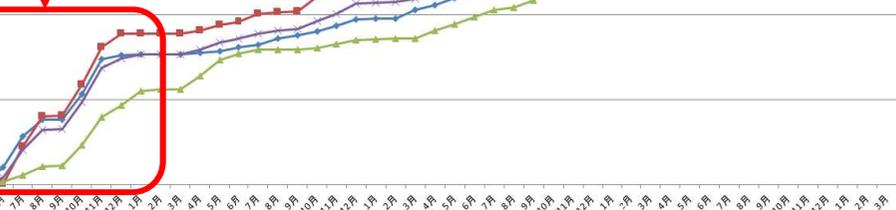
分析結果1

新潟青陵大学

2020年度入学者の学部別一人当たり累積貸出冊数の推移

1年次

看護学科
社会福祉学科
臨床心理学科
全体

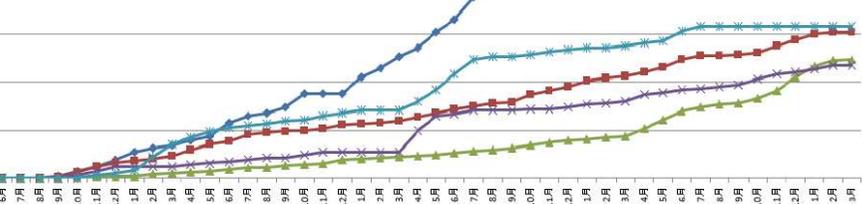


2020年度入学者の学部別一人当たり累積貸出冊数の推移

麻布大学

獣医学科

獣医学科
動物応用科学科
臨床検査技術学科
環境科学科
食品生命科学科



【共通点】

- ・2年次はだいたい横這いで3年次から伸びていく
- ・課題等が出る時期によって貸出の伸びが異なる
- ・コロナ禍の影響で1年次はじめは利用がゼロ

【差異】

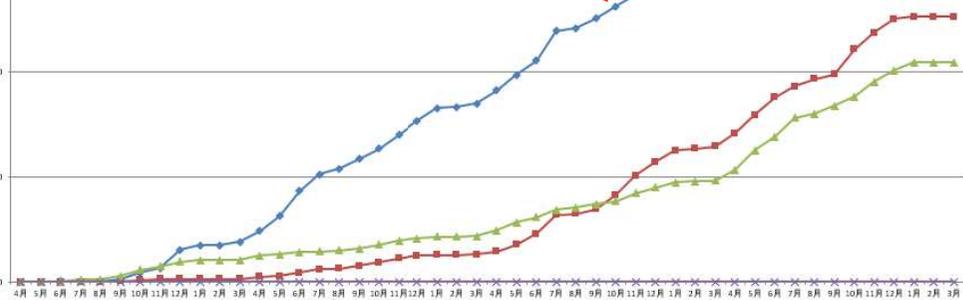
- ・新潟青陵大学では1年次は英語の授業で多読の課題があるため、1年次から貸出が急激に伸びている
- ・麻布大学、東洋学園大学では累積貸出冊数が他の学部学科に比べて突出して伸びている学部学科がある

2020年度入学者の学部別一人当たり累積貸出冊数の推移

東洋学園大学

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル学部
人間科学部
現代経営学部
IT学部



分析結果2

仮説:臨床心理学科の学生は小説等を読む学生が多い
 2020年度入学者の学科別一人当たり分類別貸出冊数

新潟青陵大学



仮説検証

機関名	検証結果
麻布大学	<ul style="list-style-type: none">・仮説どおり、1年次は貸出が少ない。・仮説では、卒論提出に向けて貸出が増えると考えたが、3年次から増えていく。・仮説では、学科によっては3,4年次までは冊数は横ばいかもしれないと考えたが、3年次からほとんどの学科で冊数が増えていく。 <p>※獣医学部は6年次までだが、データ抽出が出来なかったため、4年次までのデータである。</p>
東洋学園大学	<ul style="list-style-type: none">・仮説どおり、グローバル・コミュニケーション学部は、3学部の中で一番貸出が多い。・2年次の利用が少ない印象があったが、グローバル・コミュニケーション学部は2年次も貸出が多い。・講習会を行った後に貸出が増える傾向はあるのかについては、さらに学生ごとにデータがないと検証ができなかった。
新潟青陵大学	<ul style="list-style-type: none">・仮説どおり、貸出の変化の大きい時期があり、分析結果から英語の多読の課題がある1年生で貸出の曲線が急になり、3年後期の卒業研究から再び急になる。・仮説どおり、2年生から3年生にかけて貸出の曲線が緩やかになっている。・臨床心理学科の学生は小説の貸出は多いが、社会福祉学科の学生も同程度の冊数の貸出があった。

まとめ

	麻布大学	東洋学園大学	新潟青陵大学
気づき	<ul style="list-style-type: none">・獣医学科の累計貸出冊数が、3年次から急激に増加する理由を探るべく、多くの学生が利用しているのか、ハードユーザーによるものなのか、また、どんな資料が多く借りられているか、などさらなるデータ分析が必要と気づいた。・仮説段階では、この学科はあまり貸出が多くないと考えていたところが、想像より貸出があったなど、実際にデータを分析しないと分からないこともあると気づいた。	<ul style="list-style-type: none">・グローバル・コミュニケーション学部では2年生から貸出が増加する傾向が確認されたため、特にどの分野の資料が多く利用されているのかをさらに分析し、不足している資料があれば新たに購入する必要があると気づいた。・月別の貸出動向を分析したところ、7月と1月に実施している長期貸出が貸出冊数の増加にはつなげていないことがわかった。そのため、長期貸出の実績が過去と比較してどの程度減少しているかを確認する必要があると気づいた。	<ul style="list-style-type: none">・サービス等の取り組みについては、データ分析による客観的な評価が必要と感じた。・貸出データの分類による集計によって、学科によって利用している資料の傾向がわかったが、更に内容や受け入れ年等でのデータ分析が必要であると気づいた。

この研修で、データ分析を行い検証することで新たな発見があり、更にデータ分析を発展させる視点やアイデアが得られることを理解することができた。

追加データ分析

仮説:臨床心理学科の学生は小説等を読む学生が多い

新潟青陵大学

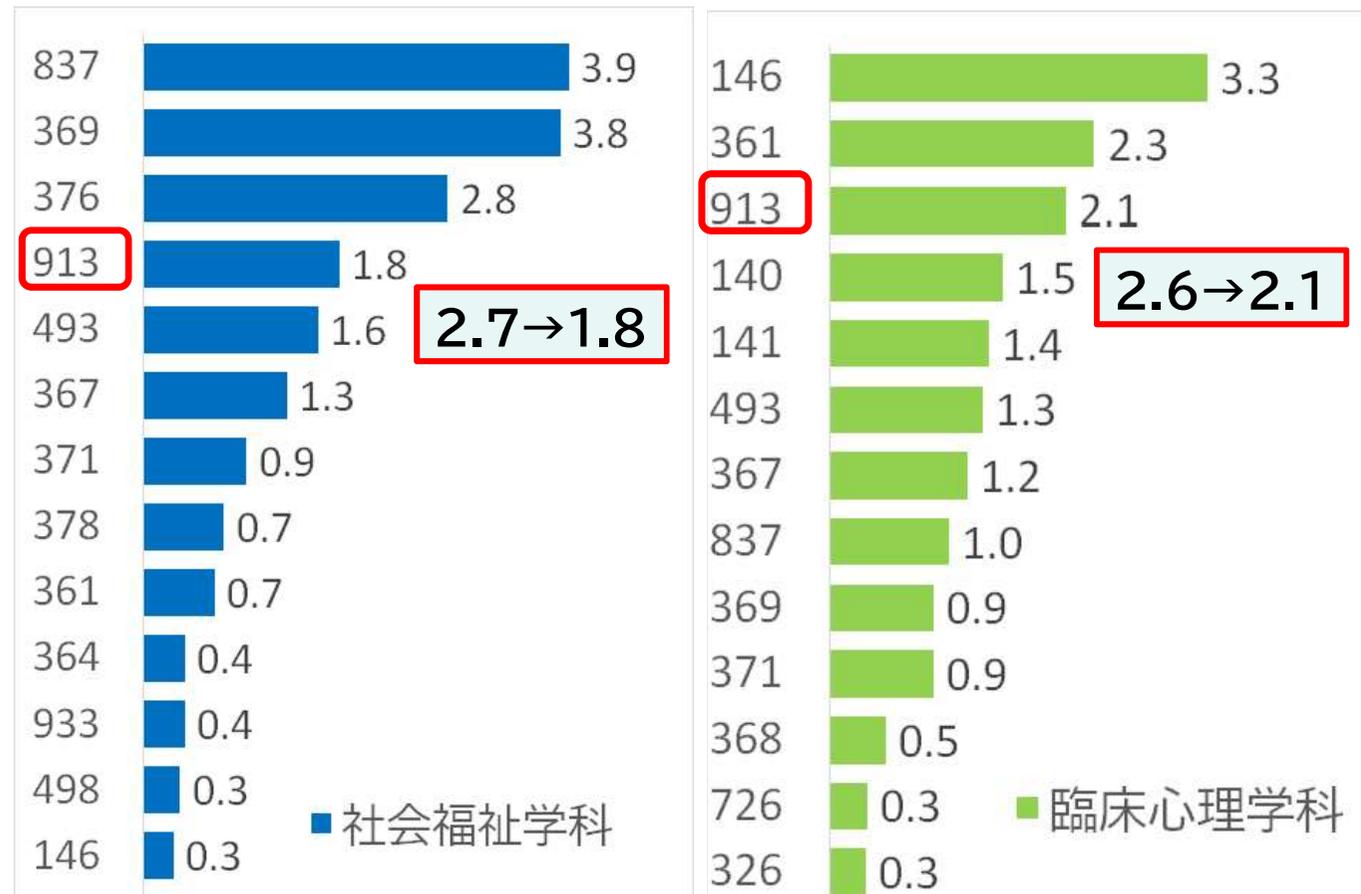
913に含まれている資料の書誌情報を確認すると絵本が含まれていた

Excel ピボットテーブル

分類記号	(複数のアイテム)	
利用者所属	大学・社会福祉学科	
行ラベル	カウント / No	
☕ 図書	189	
📖 絵本	158	
11	11ぴきのねことへんなねこ / 馬	1
14	14ぴきのやまいも / いわむらか	1
	あーそーばあーそーぼー / ひろ	1

分類記号	(複数のアイテム)	
利用者所属	大学・臨床心理学科	
行ラベル	カウント / No	
☕ 図書	134	
📖 絵本	33	
	あいしてくれてありがとう / 宮	1
	あいすることあいされること /	1
	あつかったらぬげばいい / ヨシ	1

絵本を除いたデータで分析



2024年度東地区部会スキルアップ研修

データ分析・活用コース

グループ4 湘南工科大学 武部

多摩美術大学 生野

東京女子大学 堀越



(1) 分析テーマ

○貸出データを用いた学部生の利用分析

- 多くの大学図書館に存在し、利用可能性が高い貸出データを用いる
- 大学図書館にとって、利用数の多い学部生を対象にする

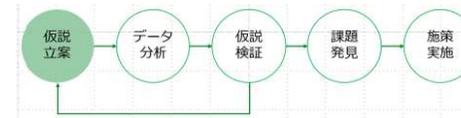
○分析項目

項	分析内容	課題発見(・施策実施)の方向性
1	入学から卒業までの累積貸出冊数の推移 (折れ線グラフ)	貸出冊数が大きく増加している理由を調査・把握し、 更に増やす施策を実施する

○使用するファイル

- 貸出データ : 2020-2023貸出一覧_加工済.xlsx
- 学生数データ : 2020-2023年度学生数_加工済.xlsx
- 分析テンプレート : 01_入学から卒業までの貸出冊数の推移_2020-2023_ワークシート.xlsx

1. 仮説立案



【仮説】

学科別一人当たり累積貸出冊数の抽出イメージ(2020年度入学者を対象)

学部	2023年度(4年生)													学生数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
機械工学科	月別冊数	14	22	35	55	7	9	37	39	16	50	23	4	95
	累積冊数	253	275	310	365	372	381	418	457	473	523	546	550	
	一人当たり累積冊数	2.66	2.89	3.25	3.83	3.91	4.00	4.39	4.80	4.97	5.49	5.73	5.77	
電気電子工学科	月別冊数	2	3	4	3	0	1	0	4	2	3	0	0	62
	累積冊数	87	90	94	97	97	98	98	102	104	107	107	107	
	一人当たり累積冊数	1.41	1.46	1.53	1.58	1.58	1.59	1.59	1.66	1.69	1.74	1.74	1.74	
情報工学科	月別冊数	22	28	26	24	7	7	31	16	8	5	1	0	193
	累積冊数	483	511	537	561	568	575	606	622	630	635	636	636	
	一人当たり累積冊数	2.51	2.65	2.79	2.91	2.95	2.99	3.15	3.23	3.27	3.30	3.30	3.30	
コンピュータ応用学科	月別冊数	17	20	36	33	11	20	23	13	9	14	0	0	118
	累積冊数	449	469	505	538	549	569	592	605	614	628	628	628	
	一人当たり累積冊数	3.82	3.99	4.30	4.58	4.67	4.84	5.04	5.15	5.23	5.34	5.34	5.34	
総合デザイン学科	月別冊数	8	7	6	8	0	0	2	1	3	7	0	0	52
	累積冊数	195	202	208	216	216	216	218	219	222	229	229	229	
	一人当たり累積冊数	3.77	3.90	4.02	4.17	4.17	4.17	4.21	4.23	4.29	4.43	4.43	4.43	
人間環境学科	月別冊数	5	1	4	1	3	0	2	7	0	13	10	0	49
	累積冊数	30	31	35	36	39	39	41	48	48	61	71	71	
	一人当たり累積冊数	0.61	0.63	0.71	0.73	0.79	0.79	0.83	0.97	0.97	1.24	1.44	1.44	

カリキュラム 実験・実習が多い学科は図書館に来館する時間が確保できないため、貸出冊数も少ないのではないかと

教員の利用 教員の図書館利用頻度が学科全体の貸出冊数に比例しているのではないかと

図書館の立地 学科棟から図書館まで距離がある学科は来館も貸出も少ないのではないかと

★湘南工科大学 2学部7学科

工学部 機械、電気電子、情報、コンピュータ応用、

総合デザイン、人間環境

情報学部 情報学科※

※2023年度設置のため、今回は調査対象外とした。

2. 仮説検証

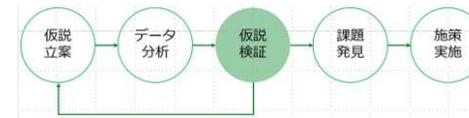
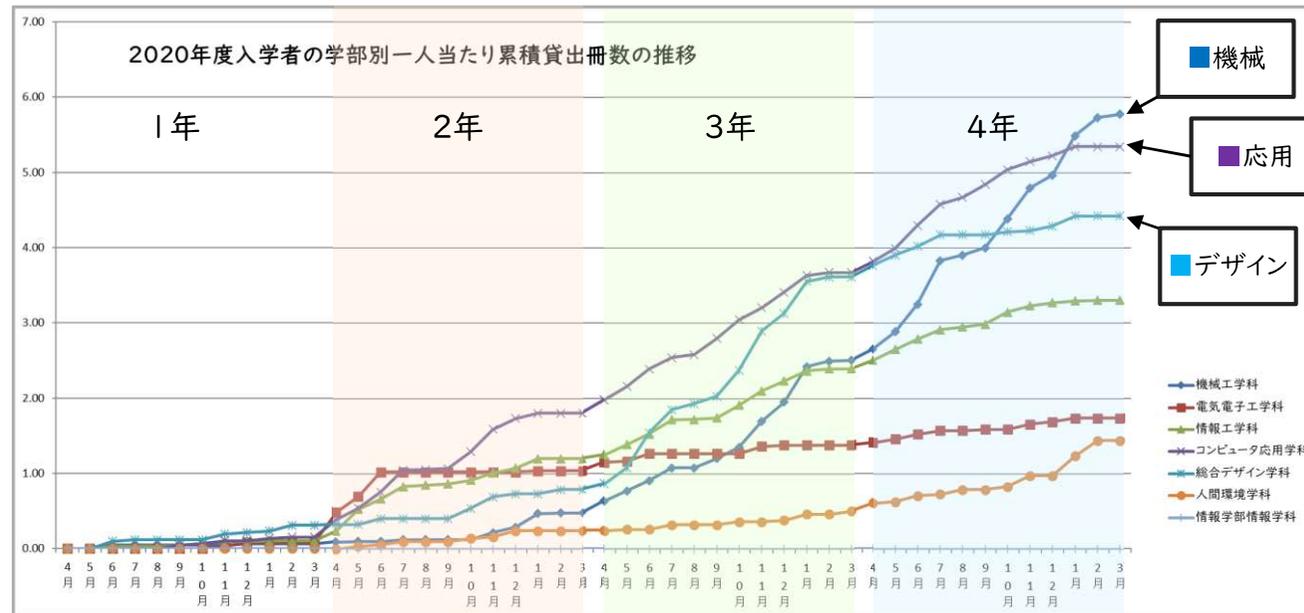


図1 2020年度入学者の学科別一人当たり累積貸出冊数の推移



※情報学部情報学科は、2023年度に設置されたためデータなし

仮説1「カリキュラム」

■機械、■コンピュータ応用、■総合デザイン

→ 3年次以降の伸び率が高く、研究室配属後の10月に特に顕著な上昇がみられる

(結果)カリキュラム、研究指導の内容についてはより細かい調査が必要。

学科だけではなく研究室単位での調査が必要か。

2. 仮説検証

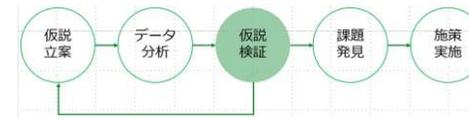
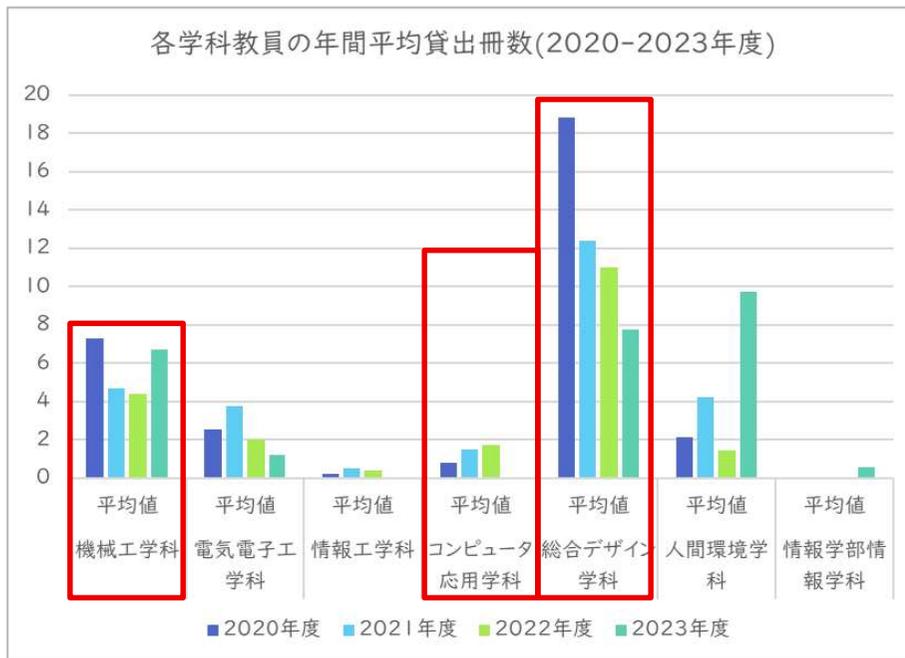


図2 各学科教員の年間平均貸出冊数(2020-2023年度)



※1 情報学部情報学科: 2023年度に新設

※2 情報工学科、コンピュータ応用学科: 情報学部新設に伴い、教員は2023年度より情報学部情報学科に所属変更。

仮説2「教員の利用頻度」

①機械工学科、総合デザイン学科

教員の平均貸出冊数が多い

②コンピュータ応用学科

教員の平均貸出冊数が少ない

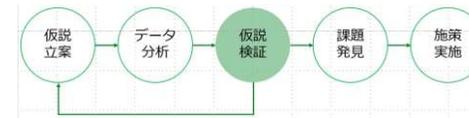
**(結果) 教員の貸出冊数が学生に影響しているとは限らない
学科あたりのヘビーユーザー(貸出冊数の多い教員)の割合も
棒グラフに現れているのではないか**

2. 仮説検証

図3 湘南工科大学構内図 (令和5年度 学生便覧p.2 より抜粋)



湘南工科大学構内図



【各学部・学科の研究室】

機械工学科	6号館 ★
電気電子工学科	5号館
情報工学科	1号館
コンピュータ応用学科	本館 ★
総合デザイン学科	本館 ★
人間環境学科	9号館
情報学部情報学科	1号館・本館

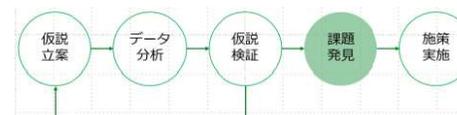
・仮説3「図書館の立地」

①コンピュータ応用学科、総合デザイン学科
→ 学科棟から図書館までの距離が近い (2学科とも本館)

②機械工学科
→ 全学科の中で学科棟の距離が最も遠い (6号館)

(結果) 立地は必ずしも図書館利用に比例しない

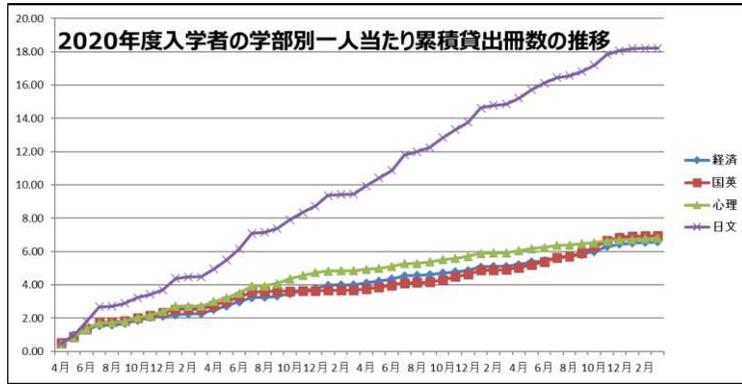
3. 課題発見



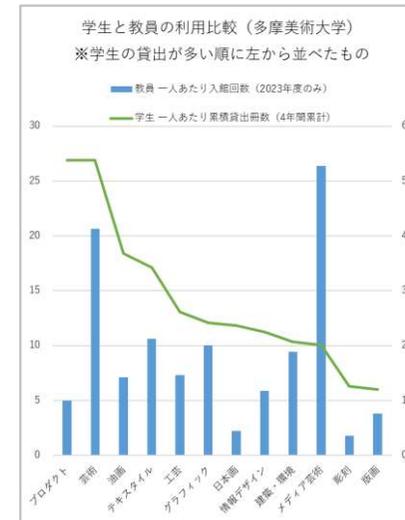
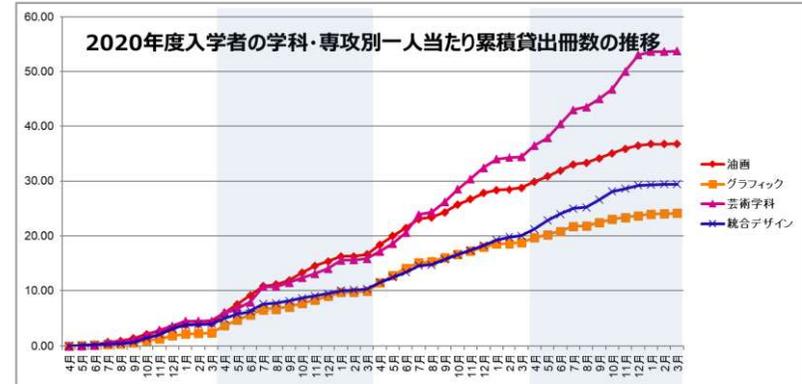
No.	調査ポイント	課題内容
1	各学科・学年の カリキュラム把握	学科ごとの基礎科目などをシラバスで調査するだけでなく、研究室配属後の論文指導やデータベースの利用状況もヒアリングする。
2	教員の利用頻度 ※図書貸出のほか、 館内での文献複写、 ILLも調査対象とする	学生の指導に当たる教員や技術員のほか、学生課や就職課など、より学生と関わる機会の多い職員からアプローチが必要。 学生だけではなく、教職員向けの図書館利用ガイダンスを計画・案内する。
3	学科棟から図書館 までの距離	学科棟、研究室に直接訪問して図書館利用を働き掛ける方法を模索する。 (図書に限るが、学内回送便など)

(参考)各大学のデータ分析

東京女子大学



多摩美術大学



比較分析

	湘南工科大学	多摩美術大学	東京女子大学
共通点	<ul style="list-style-type: none"> 図書館で契約しているDBや、購読している雑誌を把握していない教員は少なくない。 学生、教員ともに利用の個人差が大きい 書架狭隘 	<ul style="list-style-type: none"> 学生、教員とも利用の個人差が大きい 教員からの学生への指導、声掛けによって学科の利用率が変わっていきそう 書架狭隘 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館を頻繁に活用する教員とそうでない教員の個人差が大きい 学生も同様にヘビーユーザーとそうでない人の差が大きい 書架狭隘
差異	<ul style="list-style-type: none"> 資料貸出以外にも焦点を当てて調査する必要がある (グループ学習室及びPCコーナーの利用、資料の複写、ILL) 教員が個人でDBの契約をしているケースもあり、図書館利用の機会が減る 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文などがなく、作品制作が多いため、図書の利用が増える時期などに特徴が見出しづらい 映像資料や画集からアイデアを得るような使い方が多く、また本も重いので貸出として数値化されない利用が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 予約制でない利用の抽出が難しい(閲覧席、PCコーナー) 教員(ゼミ)単位というよりは、(より大きなまとまりの)専攻単位で、図書館の活用の仕方に差があるようである(日文は利用が多いが、情報理学は少ない、等)
気づき	<ul style="list-style-type: none"> 学科ごとに累積貸出冊数が多い人の数及び少ない人の分布を調査したい。 貸出冊数と図書館利用が比例しているとは限らない 建物が図書館から遠い=貸出の少ない学科とは限らない 教員が図書館で利用できるDBやツールを把握していれば学生にも案内できるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の利用率と学生の利用率の関連を調べると相関がみられるのでは →最初に教員(助手含む)を攻めた方が良いかも 学内の他の統計調査を活用すれば、各学科の特性と図書館利用の結びつきがわかるかもしれない 分類ごとの利用数を出すことで、経験からの想像が正しいかは確認すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 洋書を一まとまりで見ってしまったので、洋書も分類ごとに利用数を出したい。 専攻毎の教員の利用率や、専攻毎のよく利用される分野との関連性も見てみたい。 ガイダンスでの周知にもっと力をいれたい

研修を終えて

- 利用データを抽出・分析することで、学生および教職員の図書館利用や、資料の分類・分野ごとの利用頻度などより細かい項目に着目した課題およびアプローチ方法を発見できた。
- 他大学との比較分析を通して、自校における学生・及び教職員の図書館利用の特徴や、大学図書館共通の懸念点に気づくことができた。
- 実際の業務においても、より詳細な調査・分析を経て、発見した課題に基づいた施策の実施に繋げたい。